

INTRO



The Society of Economics
TAKASAKI CITY UNIVERSITY of ECONOMICS

— 学びへのいざない —

Contents

- Part I 経済学部専任教員インタビュー
- Part II 進路をみすえて
- Part III 学科とゼミの選択
- Part IV 経済学部専任教員と担当科目
- Part V 教員推薦図書と座右の銘
- Part VI 先輩から学べ !! 卒業生インタビュー
- Part VII 経済学会紹介

in



— 学びへのいざない —

INTRO



『INTRO2016～学びへのいざない～』は、経済学部に入學した皆さんのこれからの大学生活が実り豊かなものとなるように、教員と学生が編集した「ガイドブック」です。教員や OB・OG、現役学生へのインタビュー、教員のおすすめの本や座右の銘など、バラエティーに富んだ内容となるように工夫しました。この本が、皆さんのこれからの大学生活の一助となることができれば幸いです。



— 学びへのいざない —

INTRO 2016

The Society of Economics
Takasaki city university of Economics



contents

Part I 「経済学部専任教員インタビュー」

- 4 経済学科 安達 剛先生
- 8 経営学科 永田 瞬先生
- 12 経済学科 夏苅 佐宜先生
- 14 経営学科 藻利 衣恵先生

Part II 「進路をみすえて」

- 21 大学4年間の大まかなスケジュール
- 22 高崎経済大学キャリア支援指針
- 24 リレー講義
- 26 「資格試験」を狙うなら、こんな授業科目

Part III 「学科とゼミの選択」

- 28 1年後期の学科選択について — 両学科長に聞く!! 学科の特徴とは…
- 32 経済学部長に聞く!! — 2年前期のゼミ選択で重要なこととは…

Part IV 「経済学部専任教員と担当科目」

- 36 教員紹介
- 86 専任教員担当科目一覧

Part V 「教員推薦図書と座右の銘」

- 90 先生オススメの本
- 96 先生に聞く!! 座右の銘

Part VI 「先輩から学べ!! 卒業生インタビュー」

- 104 大島 孝之さん
- 106 関口 史人さん
- 107 清水さゆりさん
- 108 沼賀 理江さん
- 109 生方 秀徳さん
- 110 松本 光央さん
- 111 富井建太郎さん
- 112 木村 建太さん

Part VII 「経済学会紹介」

- 114 平成27年度 経済学会事業報告

編集後記

Part I

経済学部専任教員 インタビュー

- 経済学科 安達 剛先生
- 経営学科 永田 瞬先生
- 経済学科 夏苺 佐宜先生
- 経営学科 藻利 衣恵先生



profile

経済学部経済学科准教授。
早稲田大学大学院経済学研究科博士
課程修了。博士（経済学）。早稲田大
学政治経済学術院助手を経て、2016
年より現職。

Q まずは群馬県や高崎市の印象についてお聞かせください。

安達 僕は広島県の福山市出身なんです。調べてみるとわかると思うんだけど高崎と同じようなところなんです。だから、実家の周りと同じだなんてびっくりしたくらいでした。僕の実家も駅から自転車で30分くらいのところで、本当に周りが田んぼばかりでした。今は、大学の近くに住んでいて、自転車で通っているのだけれど駅の方から川を渡ると急に田舎になりますよね。少し走ればお店があるのも実家と同じです。ですから、東京に居た時と比べると純粋に懐かしさを感じました。でも自動車が無いと遠出は大変そうですね。

Q 高崎経済大学の印象は何かありますか？

安達 土地の使い方が贅沢で良いですね（笑）前の大学だと建物が10階くらいまであるからエレベーター使わないと大変だけど高経なら大丈夫だね。あと、高経って自転車で通っている人多い印象があります。

他には、地元出身の子が少ないから、いろんな人がいるイメージですかね。

Q 大学での生活を教えてください。

安達 サークルの話をしようかな。僕は学術系のサークルに入っていました。これがすごい変なサークルで、新歓で最初に先輩から聞かれたのが「今の研究テーマは何？」だったんですよ（笑）このサークルで1年生の時からゼミみたいに経済学の教科書を毎週読んで勉強していました。輪読みたいな。だから経済学の知識はここで鍛えられました。当時、ERE（注：経済学検定試験）の大学対抗戦があって、そのサークルのメンバーで大学の代表として出たこともあります。あと僕、合唱サークルにも入っていたんですよ。あんまり上手くはなかったんだけど、大声で歌っていましたね。この経験が今でも役立っているんですよ。以前、授業中にマイクの充電が切れちゃって、一時間半マイク無しで講義したこともあります。ちゃんと教室の後ろまで届きますから。

インセンティブ(動機付け) を理解して社会の様々な 仕組みを考える

Q 経済学の研究者を志望したのはいつですか？

安達 これは、高校2年生後期の進路選択の時です。僕、物理学が好きだったんですよ。物理学と経済学、どちらかの研究者になりたくて悩んでいたんですよ…。意外な選択肢かもしれないけど、経済学って物理学と似てるんですよ。物理学も経済学も演繹的な学問で、数学を使って科学的に分析する学問なんですよ。それで悩んだ結果、社会の色々な問題を分析して新しい理論作るのってすごいと思って経済学を志望しました。実は経営工学とも迷ったのだけれど、経済学の方がスケールが大きいと思って経済学にしました（笑）

Q 先生の研究テーマのメカニズムデザインとはどういう学問なのですか？

安達 メカニズムデザインっていうのは厚生経済学とゲーム理論の重複部分みたいな学問なんですよ。少し噛み砕いて説明しますね。まず、市場を考えるっていうのがやっぱり経済学では重要なテーマですよ。例えば、市場とは何なのか、市場では何が起ころのかを分析することかな。なぜ、市場にこだわるのか、市場の何が良いのかって言うと、みんなにモチベーションを与えられるからだ、と言えると思う。やった分だけ成果が出るというモチベーションがあるから市場というシステムは成功している。つまり、市場はみんなにやる気を与えられる、経済学の用語で言うインセンティブ（誘因）があるということなんです。そのインセンティブを数学的に理論的に分析して統一的な理論を作るということが現代経済学の1つの目標なんです。

そこで、人はどのような状況でどのような行動をするのか、どういうインセンティブをつければどのような行動をするようになるのか、を理論的に説明することができたとする。じゃあ今度は別に市場、つまり価格を使って資源を配分するという方法があまり適さないような場所でも、どういう制度だったらちゃんとインセンティブを与えられているのか、やる気を与えられているのかを確認することができる。

さらに1歩進んで、インセンティブをきちんと与えられて、しかも結果が社会的に望ましい制度をゼロから設計して提言することもできるということになります。これがメカニズムデザインの基本的な考え方です。



Q 実際にどんな場面でメカニズムデザインの考え方は利用されているのですか？

安達 市場原理が使えない場所での制度づくりに利用されています。例えば、アメリカのニューヨーク市とボストン市が採用している学校選択制度はメカニズムデザインによって設計されたものです。入試制度ですよ。生徒は公立学校に入りたくて、公立学校には入学してほしい生徒の基準がある。これは資源配分の問題という意味では経済学と一緒にです。でも、公立の学校の入試で市場みたいに価格をつけるわけにはいかない。そこで、メカニズムデザインを用いて、最適な制度を理論的に設計した訳です。その他にも、アメリカの研修医の病院への配置を決める制度もメカニズムデザインによって設計されました。「インセンティブをきちんと考える」という経済学の本質的な発想を活かして、市場以外のところに良い制度を創ったり、あるいはいろんな提案をする学問がメカニズムデザインです。だから経済学的なモノ作りの学問だと言われることもあります。

Q 最近気になっている経済の話題は何ですか？

安達 ワールドカップ関連でちょっと考えたんだけど・・・。
ワールドカップとかのスポーツ競技で勝ち点3みたいなものがあるじゃないですか。そういったものが、なぜ勝ち点3のような方式じゃないといけないのか、もし変えるならどういうシステムにするのが一番良いのかを理論的に考えると面白いんじゃないかと思いました。そんなの何でもいいんだよって言えば何でもいいのかもしいんだけどさ(笑)

メカニズムデザインは「他のスポーツではこうなっているから」ではなく、1からシステムを作ることができるんです。試合のルールをどうすれば一番盛り上がるのか、勝ち上がりのシステムはどうしたら最適なのか提案することができます。一番強いチームを見つけ出す最良の方式は何か、ということを一般的な問題として考えて、「こういう条件を満たさない」「こういう性質を満たしていないと、きちんと実力が測れませんよ」というような条件を入れていって、で、厚生経済学の言い方をすれば、公理主義的アプローチで絞り込みをかければ、じゃあやり方はこれです、と条件を満たす方式が出てくる。それでも、ちゃんと勝ち点方式ってのが意味があるんだっていうのが出てきたら、それはそれで面白い。一生懸命、ゼロから考えてみた結果、結局昔からあるルールに行き着くこともあれば、「皆はこうしているけれど実はこうい



うルールの方が良いよ」というのが出てくることもあるんです。
こういうことを考えてみるのも面白い研究テーマじゃないかと思いました。

◎ 先生のゼミではどのようなことをしますか？

安達 そうですね。基本的には2年生のうちは輪読、3年、4年生はグループ研究、卒業研究の順番でやっていきます。輪読の本は指定しますが、グループ研究や卒業研究のテーマは自由ですね。特に厚生経済学やメカニズムデザインというものには関係なくてよいと。僕自身としては経済学というのは、高度な理論をやることよりも、きちんと使いこなせることのほうが大事だと思っています。経済学の考え方というのは、別に市場の問題や年金や農業のような現代社会の大きな問題に限らず、それこそサッカーの話とか、日常生活に当てはめると来月のバイトの量はどうかとか、サークルで仕事分担どうするのか、何でも使えるんだと僕は思うんですよ。だからゼミでは、まさに今、ここで経済学の思考が使えるよねってところを指導していきたい。ですから、何らかの形で経済学的な考え方が使えているならば、テーマは何でもいいと思っています。

◎ 最後に高経の学生に一言お願いします！

安達 真剣にやったほうがいいですよ。何でも。大学の4年間で人間は大きく変わるから。入学時には「コイツはどうしようもないやつだな」みたいに思っていた奴が偉大な先輩になったりする。大学生の時っていうのは、その人が自分のどこがまずいのかということをしっかり経験して、磨いて、やり直していけるなら、まだ如何様にもなる期間なんです。その人がそういうところの才能を一番持つようになる可能性だってある。

僕は、大学生生活の4年間で「こいつは変わったな」「変わってないな」という差が生まれるとしたら、いかに向上心を持って物事に挑んでいたか。その差だと思います。だから何でもいいです。別に。別にサークルでもいいし、部活でもいいし、勉強でもいいし、バイトでもいいです。何でもいいけど。何にしる、とにかく向上心を持って欲しい。もっと上達できる、良くなれると、成長できると思って物事に、何事にも挑んでほしいです。以上です。



profile

経済学部経営学科准教授。
一橋大学大学院経済学研究科博士課程修了。博士（経済学）。一橋大学特任講師を経て、2013年より現職。

◎ 永田先生の経歴について教えてください。

永田 僕は、東京の多摩市出身で、高校が国立高校で、大学は中央大学に行って、大学院が一橋でした。あの辺りは、三多摩地区っていうんだけど、あの辺りをぐるぐるして、そこから出たことがないっていう生活を、大学院を修了する28歳くらいまでやっていました。大学院に行って、2年間修士課程の後、ドクターコースに3年、オーバードクターを経て、福岡県立大学っていうところで3年間仕事しました。そして2013年に高崎経済大学に来たと。そんな感じですね。

◎ 次に研究内容について教えてください。

永田 学部生のときは研究テーマや特定の課題についてやりたいというのはまだありませんでした。それは、大学院に行ってから考えようということで、経済学研究科の大学院へ行って、そこで政治経済学のゼミで、勉強をしました。また、日本型企业社会や過労死の問題、広い意味での雇用問題とか労働に関わることにに対してほんやり関心はありました。だから僕自身が研究っていうものの馬力っていうか原動力になっているのは、すごくシンプルなことで、現実には起きている、例えば新聞で話題になっていることは、どういう意味があって、それが社会の中でどういう位置付けになっているのか、要するに時事的なことや、政治のことも含めてどういう方向に進むのかっていうのを知りたいというのがあります。大学院で政治経済学のゼミに入ったけれども、念頭にあるのは過労死の問題とか、現代の問題です。今であればホワイトカラー・エグゼンプションというのが話題になっています。だから高経でも、経営労務論や人的資源管理を教えているけれども、それが基本的には雇用とか労働に関わることで、私自身の一番の中心的な問題関心も、現実の問題をどうとらえるのかというのがあり、授業も、研究もしています。

◎ 最近興味がある研究内容がありますか？

永田 最初はトヨタ生産システムや、非正規雇用の問題をやってきたけれども、最近は岡山県の倉敷市の児島に行って、ジーンズ関係の企業に聞き取りをしています。

問題意識を研ぎ澄まし、 知性を磨く。 そんな大学生活を送ろう！

そういう地場産業みたいなものに関心が向いてきて、地域の中で雇用を生む場合に、大企業じゃなくて中小企業や伝統産業みたいなものをどう評価していくのかっていうところに関心を持っています。倉敷のように、ものづくりの基盤をつくって頑張っている地域があるんだけど、労働条件が悪いから人手不足になっている状況です。繊維産業っていうのは、製造業平均の賃金より低く休日も少ない。だからそこを社会的に支援しないと、産業が無くなっちゃうし、技能は継承されないんですよ。やっぱり社会的に必要な仕事は評価しなきゃいけないし、そこで働く人が必要なのに、労働条件が追いついていないことによって、問題が生じてしまうんですよね。一見するとトヨタシステム、非正規雇用とか繊維産業って何となくつながってない感じがするけど、僕自身としてはそういう地域の雇用とか、日本の経済全体をどういうふうにつくっていくかっていうことに関心があって、そういう全体像で今後も研究が進められたらいいなと思っています。

Q 永田先生のゼミについて教えてください。

永田 高経に来て2年目だからいろいろ試行錯誤はしているけど、去年の2年生（1期生）は文献を読んで他大学と合同ゼミを12月にやりました。中西新太郎著・蓑輪明子編『キーワードで読む 現代日本社会』旬報社 2012年です。この本のテーマは労働、貧困、大人になる、資本主義、福祉国家、新自由主義、生活、家族、女性、グローバリズム、ナショナリズム。これを4つのグループで分担して、レジュメを作って報告した上で、自分たちのテーマを決めなさいという形でやりました。そこから自分たちで論点、課題を考えてもらって、それで論文を作ってもらっている感じにしました。そういう訓練をしていくと、3年生、4年生になったときに卒業論文とかも書きやすいと思う。あとはフィールドワーク的なことで、群馬の太田市とか、市役所とか商工会議所とか中小企業をグループで分担してインタビューをおこなって最終的に報告書を作りました。



Q 先生の趣味は何ですか？

永田 ラグビーや野球、大相撲などスポーツを見るのは好きです。今は子どもと遊ぶこととビールを飲むことかな。趣味というかは別として、ゼミ生も含めて学生の人たちとお話するっていうのも楽しいし、リフレッシュになります。これからちょっと新しい趣味をつくりたいなっていう感じです。

Q 学生にお薦めしたい本を教えてください。

永田 僕が今ちょうど読んでいて面白いと思うのは、佐野眞一著『あんぽん 孫正義伝』小学館 2012年です。この本は、佐野眞一さんっていうジャーナリストの人が孫正義さん本人にもインタビューしている自伝で、孫さんがいろんな意味で困難を抱えてきて生活してきたのを、インタビューで明らかにしています。中身としても面白いし、インタビューの手法とか、聞き取りっていうのかな、社会調査のプロセスとしても、すごいなと思って。一級のジャーナリストによる本だと思います。それと九州が舞台っていうのもあるし、僕は九州で生活したことがあるから、何となく土地勘もあるし、なんかサスペンスドラマみたいです。非常に面白い。お薦めですね。



◎ 最後に新入生へメッセージをお願いします。

永田 大学に入学したのだから、やっぱり勉強してもらいたいと思う。勉強というのは受験勉強みたいな勉強じゃなくて、知的な好奇心を満たすっていう意味での勉強ね。大学は、いろんな可能性が開かれている所です。入学してくるプロセスというのは第一志望だとかそうじゃないとか、うまくいかなかったとか、浪人するとか浪人しないとかがいろいろあると思うけど、せっかく入学したのだからそこでエンジョイしてほしい。エンジョイしているんなことがあるけど、燃焼するっていう意味でエンジョイして、自分がこれだ、と思うものを見つけてもらいたいな。大学というのは、友達関係も必要だけど、ゼミとかで教員との関係をつくった場合に、何かやりたいとかあれば、大学の教員は応えてくれる人が多いと思う。だから自分の問題意識を研ぎ澄まして、知性と想像力を磨けるようにしてもらいたいです。



profile

英国スターリング大学大学院英語教授法修士課程修了 (MSc in TESOL)、昭和女子大学大学院文学研究科英米文学専攻博士後期課程修了、博士 (文学)。専門は、英語教授法および第二言語習得理論。

Q 先生の研究テーマについて教えてください。

夏苺 第二言語習得理論：SLA (Second Language Acquisition) について、英語教育法：TESOL (Teaching English to Speakers of Other Languages) について、研究しています。

SLAは人間が母語の次に習う2つ目の言語をどのように習得していくのかを研究しており、TESOLは母語が英語でない人がどのように英語を勉強することができるのかという方法論について研究しています。

Q なぜそのテーマを研究しようと思ったのですか？

夏苺 大学時代に教職をとっており、英語の先生を目指していましたが、もう少し深く英語を勉強したいと思う中で、人が言語を習得していく仕組みや、そもそも言語とは何であるのかなどに興味を持ちました。研究してみると、学ぶことが楽しかったので、これまで研究を続けてきました。

Q 先生の授業で何をしていますか？

夏苺 必修科目ではCurrent English、選択科目ではビジネス英語とオーラルイングリッシュを担当しています。Current English は、1年生では時事英語のリーディング、2年生ではリスニングに焦点を当てています。ビジネス英語ではビジネスの現場で使う英語、例えば、ミーティング、電話対応、プレゼンテーションや交渉、メールやレポートの書き方などを学ぶことができます。

Q おすすめの本はありますか？

夏苺 本を読むことは好きです。特に海外の小説や洋画の原作を読みます。原作の小説をそのまま英語で読むと、日本語で翻訳された物を読むよりも、内容が頭に入ってきます。好きな本の本原書を読むと、すでにストーリーが分かった状態で読み進められるので、翻訳版との違いなどに気づくことができます。

また、現在読んでいる本は、『英語学習は早いほどいいのか?』です。第二言語を

英語を学んで 視野をもっともっと 広げて下さい！

学ぶ環境によって言語習得に違いはあるのかということについての本で、アメリカに住んでいる子どもが第二言語として英語を勉強した場合と、日本に住んでいる子どもが外国語として英語を勉強した場合の言語習得の違いや、幼少期から英語を学ぶ場合と10～12歳程度になってから学ぶ場合の比較研究結果など、学術的にも面白いことが書かれています。

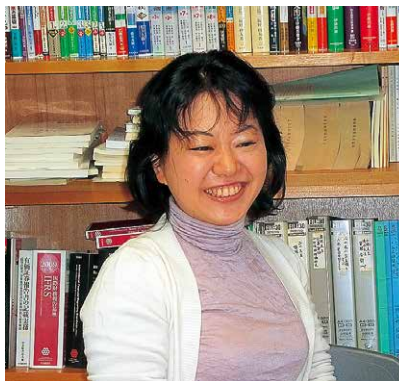
Q 趣味はありますか？

夏刈 映画と音楽が好きです。洋画や洋楽を観たり聞いたりしているときに、俳優やアーティストが英語で何を言っているのかを知りたかったというのも、英語を勉強しようと思ったきっかけの1つです。

Q 新入生に一言お願いします。

夏刈 英語を勉強することで良いことはたくさんあると思っています。英語学習を通じて世界が広がるのではないのでしょうか。大学生になると、「就職活動に必要という理由でTOEICを勉強するぞ!」という人もいますが、TOEICのために英語を勉強するのではなく、コミュニケーションのために英語を勉強して、その結果TOEICで良い成績がとれるというのが理想だと思います。





profile

早稲田大学大学院商学研究科博士後期課程満期退学。同大学商学学院助手を経て、2014年より現職。趣味は琴とコントラクト・ブリッジ（監査証明様式のベースにあるゲームです。興味があれば調べてみてください。）。

Q 先生の担当されている財務会計について教えてください。

藻利 企業が材料を購入して品物を作り、それを売ってもうけるにはお金が必要になりますが、基本的に一個人の資金では足りないのが、企業外部から資金を調達する必要があります。

しかし、企業外部からの人たちは無償でお金を貸してくれるわけではないので、その人たちに、お金の使い道やその結果出てくる儲けに関する情報を開示して、安心してお金を提供してもらうために必要になるのが会計基準で、それを扱うのが財務会計になっています。

Q 研究分野はどのようなものですか。

藻利 会計基準は数多く存在します。例えば、皆さんがコンビニで現金でご飯を買う、その際コンビニ側には売上（収益）があがるわけです。では、ご飯をカードで買う場合、コンビニ側はいつ収益を計上すればよいのでしょうか。皆さんがご飯を買った時か、それとも皆さんのカードが決済される時か。この「いつ収益を認識すればよいか」を収益認識といいます。他にも、皆さんのご家族で年金生活をしている方もいらっしゃると思いますが、企業側（雇用者側）は年金支給額を支払わなければならないわけです。しかし、一度にその支出を計上してしまうと企業のもうけ（利益）を圧迫してしまいますし、年金は従業員が何年も働いた人に対して支払われます。なので、年金支給額をいつ計上すればよいのかも会計基準で定められています。会計基準のなかでも、ストックオプション（株式に連動して変動する成果報酬）の会計処理が他の会計基準と整合しているか、投資家にとって投資の判断材料を行うために有用な情報になっているかを研究しています。

Q 研究を始めたきっかけを教えてください。

藻利 大学2年の時にゼミの先生がストックオプションの会計基準を作っていました。そのゼミの先生からの宿題として出されたのが、「班で自由にストックオプションの会計処理を作ってこい!」というものだったのです。そこで、「クリスマスイブ」に海外で使用されている会計基準である国際財務報告基準（IFRS）の原文（英語）を調達して和訳を班で分担し、年末年始は和訳しっぱなし…その会計基準をもとに

数字が多く、 小難しい印象の会計... 実は身近なものなのです！

作成した会計処理を、公認会計士の受験生である先輩にすぐに一蹴されてしまい、悔しくてその理由を考えているうちにここまで来てしまいました。(笑)

◎ 高崎経済大学の学生の印象を教えてください。

藻利 とにかく、まじめだしよく勉強するなという印象です。ゼミでも週に何回も集まっているみたいだし、1年前は会計の知識がないメンバーも多かったにもかかわらず、現在は、公会計の基準や国際財務報告基準（IFRS）を自主的に研究していて、母校よりも伸び率が高く、日々驚かされています。担当をしている講義でも、毎週の課題だったにもかかわらず、受講生の提出率はとても良いので、感心しています。（提出率が高かったメンバーがゼミ生なので、余計伸び率が高くなるのかもしれませんが。）



大学時代にコントラクトブリッジをしている様子

Q 先生の大学時代について教えてください。

藻利 指導教授が厳しくて、結局、大学3年生から思い切ってはあまり遊んでなかったですね。大学院の入試が4年生の9月だったので、7月ごろ同級生の就職先が決まって遊んでいるなか、必死で入試の勉強をしていたという印象ですね。

でも、サークルのほうは、コントラクトブリッジというトランプのサークルに入っていました。そのサークルがインカレだったので、合宿のときに仲良くなった人たちと、合宿の際に、京都、大阪や、仙台等の観光地に遊びに行ったりしていました。

Q 先生のゼミでは何をしていますか？

藻利 2年時には、財務会計の基礎を学び、それと同時に、財務会計の知識を用いて作成されている実際の財務諸表に触れてもらうため、慶応ビジネスケーススタディを使って企業分析を行っています。

3年次では、2年で習得した知識を深化させると同時に情報収集・分析能力とプレゼンテーション能力の向上を目指してグループ研究を行っています。また、その結果のプレゼンテーションを他大学・本学他ゼミの前で行うことにより、ゼミ生の視野を広げたり、場にあわせた説明を行えるようにしたりということを心がけています。

Q ゼミの学生にどんな事を学んでほしいですか？

藻利 IT化が進んでいて情報があふれていますが、みんなが正しく情報収集・分析をできるかと言ったらそうではないと思うんですね。大学にいたらデータベース等があってそれを使えばいいと思うのですが、社会に出てからはそういった環境が整っているとは限らない。そこで、どんな環境にいても、(企業分析や財務会計をはじめとする)学問の内容を自由に調べられて分析できるようになってほしいなと思っています。情報収集・分析をはじめとする研究の仕方、あとはプレゼンテーションを通して場にあった話し方等を学んでほしいですね。



Q 高校や大学の他の講義とゼミの違いは何ですか？

藻利 高校までは知識は教科書に書いてあってそれをそのまま覚えていればいい、という感じだと思うのですが、大学では、例えば、うちの大学の会計の先生内でもそれぞれの先生が経験して体得してきたことを授業で話しているので、同じトピックスでもそれぞれ違った話し方をしていることもあると思います。要は、ある先生が話していることが絶対正しいという答えがないところですかね。

あとは、大学になると、時間割、アルバイト、勉強や、サークルがあって、それぞれにどれだけの時間を割くか、自分で情報を収集して決めていかなければなりません。そのため、さまざまなことに対して情報収集しつつ勉強をしていかなければならず、その結果がそのまま就活で出てきたりします。そのため、自由度は高いけれど、自己責任というところが高校との違いだと思います。

Q 新入生に向けて一言お願いします。

藻利 高校はいろいろ与えてくれるけれど、大学はそうではなく自由度が高いので、色々な人と仲良くして多くの情報源を持ちながら、自分のことを考える癖をつけてほしいと思います。そこで何かに打ち込むと、失敗することもあると思いますが、それも含めて将来につながるのではないのかなと思いますので、頑張ってください。





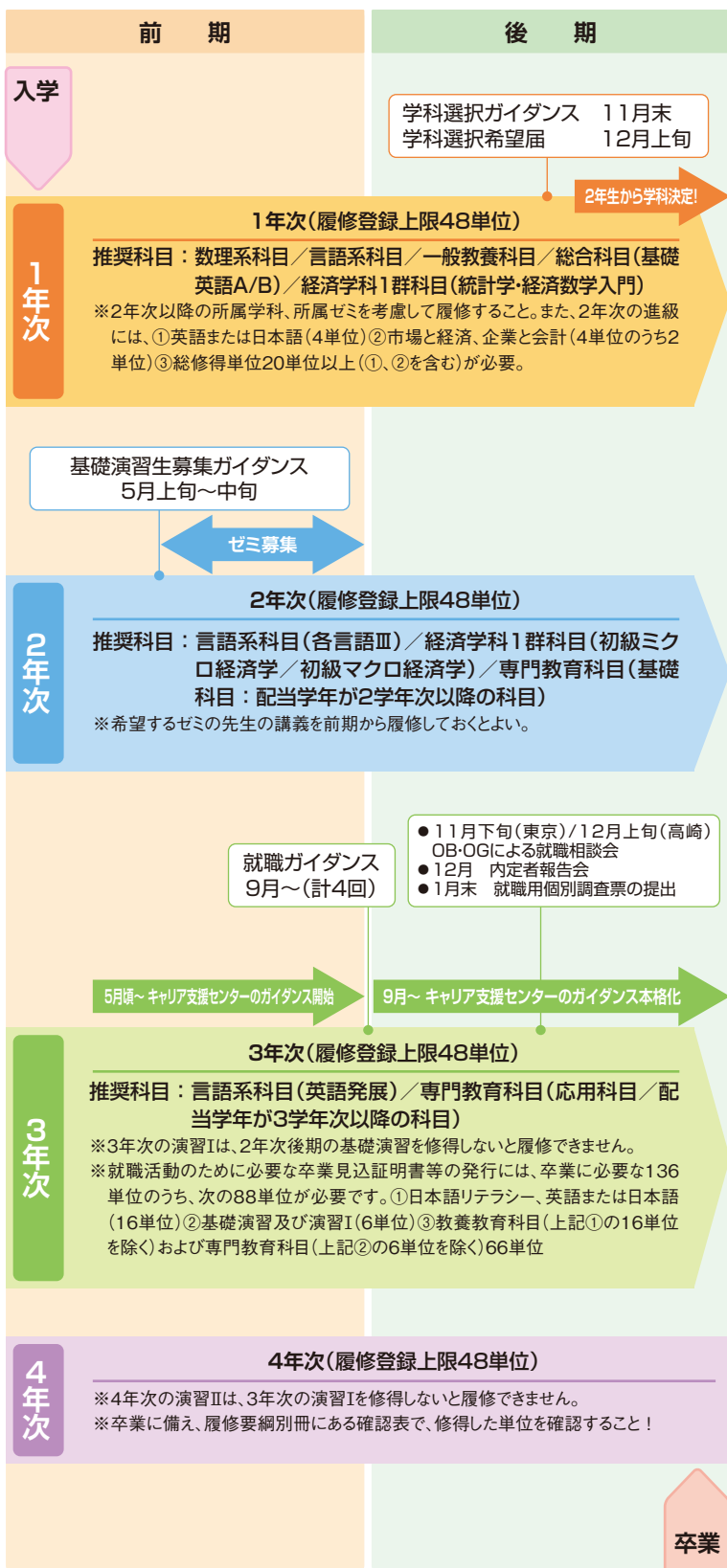
PartII

進路をみすえて

- 大学4年間の大まかなスケジュール
- 高崎経済大学キャリア支援指針
- リレー講義
- 「資格試験」を狙うなら、こんな授業科目



大学 4 年間の大まかなスケジュール



社会人

社会での活躍

**踏み出せ！
将来に向けての確かな一歩**

※卒業生の声を聞こう P103～

4年

自己実現の支援

進路決定届
後期末テストまでに提出

3年

就職力向上の支援

就職用個人調査票
1月末提出

2年

職業選択への意識向上の支援

1年

職業意識の啓発（働くことの意味を知る）
視野拡大の機会を提供（社会を知る）

入学時からの支援の積み上げで、希望する未来にぐっと近づく

＜強化施策＞ 学生一人ひとりのキャリア支援のため、全国で活躍する同窓生による就職相談会の開催など、同窓会との連携を強化する。	現役公務員による就職相談会
	OB・OGによる就職相談会 in 東京・高崎
	OB・OGによる模擬面接会
	各支部による就職相談会

キャリア支援方針の施策	平成27年度の事業実績
-------------	-------------

＜ 4 年 ＞ 学生の就職や進学に関する相談体制を整え、個々の自己実現に向けたキャリア支援をする。	カウンセリング
	現役公務員による就職相談会
	個別企業説明会
＜ 3 年 ＞ 主体的行動力を養うスキルアップや就職活動に関する情報提供など、学生に対するキャリア支援体制を充実させる。	就活スタート講座
	就職ガイダンス（自己分析・企業研究）
	SPI 試験対策講座
	エントリーシート対策講座
	業界セミナー・合同企業説明会
	ビジネスマナー研修
	グループディスカッション実践講座・練習会
	インターンシップガイダンス
	内定者報告会
	現役公務員による就職相談会
	U ターン志望者向け就職セミナー
	公務員志望者向けセミナー
＜ 2 年 ＞ 業界・企業研究の機会を提供するなど、学生の進路選択への意識向上を支援する。	FM ぐんま話し方セミナー
	公務員志望者向けセミナー
	資格取得ガイダンス
	業界セミナー・合同企業説明会
	内定者報告会
	現役公務員による就職相談会
	インターンシップガイダンス
	みずほ証券によるキャリア支援講座
＜ 1 年 ＞ 学生の職業意識の啓発や社会に向けた視野拡大の機会を提供し、低学年次より体系的なキャリア形成の支援充実を図る。	日本政策金融公庫・商工会議所による創業講座
	FM ぐんま話し方セミナー
	公務員志望者向けセミナー
	資格取得ガイダンス
	みずほ証券によるキャリア支援講座
	日本政策金融公庫・商工会議所による創業講座
	FM ぐんま話し方セミナー

※キャリア支援センターでは、随時個別相談を行っています。

2016年度 高崎経済大学 経済学部

リレー講義

どなたでも
参加できます。
聴講無料。



◆ 前 期（経済学科担当）◆

キャリアデザインのヒント～高経大卒業生のメッセージ
(高崎経済大学同窓会 東京三扇会)

人が一生をかけて働くことの価値は何に求められるでしょうか。社会の高齢化、雇用の流動化や非正規化が進行した現代において、働く意義を問うことは決して若者だけの関心事ではなくなっています。今年度のリレー講義では「キャリアデザインのヒント」として、社会の第一線で活躍してきた高崎経済大学の卒業生を講師に迎え、社会人として働く意味や社会が求める人材に関する話を中心に、自身の経験や業界の実情を踏まえて解説していただきます。生きて動く社会の現場感覚と実体験に基づく幅広い問題解決のあり方に関する話を聴きながら、仕事とは、人材とは何かを考えていきます。

回	開講日	講 義 テ ー マ	講 師
1	4月13日	スーパーマーケット発展の歴史と チェーンストア経営	株式会社ベルク 代表取締役社長 大島 孝之
2	4月20日	日本人の英会話力を阻害する メンタルブロックについての考察と対処法	本城式英会話スクール 校長 本城 武則
3	4月27日	日本の塩事情(塩専売時代から自由化まで)	一般社団法人 日本塩工業会専務理事 横堀 明
4	5月11日	86のマクロ指標で読み解く世界と日本 (付録) 幸せになれる就職	日経CNBC経済解説 委員会コメンテーター 平野 恵一
5	5月18日	組織と個人のキャリア ～働くを応援する仕事～	株式会社リクルート キャリアコンサルティング キャリアカウンセラー 南 聡子
6	5月25日	ビジネスと学問の融合	元青山学院大学 大学院教授 前田 昇
7	6月 1日	NPO活動と企業のCSR	認定NPO法人ピープルズ・ホープ・ ジャパン(PHJ) 北島 弘
8	6月 8日	ヤマトグループの経営戦略	ヤマト運輸株式会社 代表取締役社長 長尾 裕
9	6月15日	ライフスタイルと街づくり	安田不動産株式会社 開発第三部長 澤田 月来男
10	6月22日	志ある者は事つことになる	株式会社コンドシーホールディングス 代表取締役会長 木村 祭氏
11	6月29日	「海外駐在は役に立ったか」 ・仕事、生活、家族にとって ・英語とどう取り組んだか	元ヤマハ株式会社 音楽普及統括部長 今 憲行
12	7月 6日	「歴史を繋げ、歴史を創れ、スーパーゼネコン営業マン」	清水建設株式会社 営業本部 営業部 営業課長 関口 史人
13	7月13日	国家公務員の仕事って？	農林水産省食料産業局 課長補佐 平野 賢一
14	7月20日	Career Design with Planned Happenstance (出会い型キャリアデザイン)	楽天株式会社 グローバル人事部 角田 大輔
15	7月27日	グローバルと日本の労働市場とワークスタイル	ランスタッド株式会社 代表取締役社長兼COO 猿谷 哲



- 開講日時／2016年4月13日から2017年1月25日までの水曜日
午後2時20分から午後3時50分まで
- 場 所／高崎経済大学 7号館 731番教室(入口4階) 高崎市上並榎町1300番地
- 受 講 料／無 料
- 参加方法／学外の方の事前申込は不要です。当日、直接教室にお越しください。
- 問合せ先／高崎経済大学事務局教育グループ教務チーム
電話：027-344-6264(教育グループ直通)

※本講義は、経済学部 の 正規授業です。講師・日程などは変更となる場合があります。

◆ 後 期 (経営学科担当) ◆

企業経営における立地と固定資産

四半世紀ほど前まで、日本では土地神話がまことしやかに語られました。地価上昇に梃子を効かせ、事業拡大やさらなる不動産を購入する経営がもてはやされました。バブルがはじけ土地神話が崩れ去ると、本業に問題がなくても不動産価格の暴落が元で経営悪化する企業が続出しました。その中で「持たない経営」が注目を集めました。事業拠点の立地選択、土地開発と貸出しや売却、近年話題の上下分離など、立地と固定資産は企業経営にとって古くて新しいテーマです。本講義では様々な種類の企業の経営を担ってきた人々が登壇し、それぞれの事例を紹介しつつ立地と固定資産の課題について学びます。

回	開講日	講 義 テ ー マ	講 師
1	9月28日	化学業界のグローバル立地戦略と物流政策	元三菱化学 専務取締役 浅野 応孝
2	10月 5日	自動車業界におけるグローバル立地戦略	日産 相談役 小枝 至
3	10月12日	量販店の発展と立地戦略 ～不動産所有をしないイトーヨーカ堂の戦略～	元イトーヨーカ堂 常務取締役 遠見 敏江
4	10月19日	飲料会社工場跡地の不動産事業への転換	サッポロホールディングス 常務取締役 加藤 容一
5	10月26日	繊維会社の一工場における事業の盛衰と 工場用地の活用	元帝人 専務取締役CFO 高野 直人
6	11月 2日	コンビニ店の立地戦略と物流政策	元ローソン 物流本部長 白井 憲治
7	11月 9日	住宅用地の取得と戸建住宅の開発	元住友林業 常務執行役員 渡部 日出雄
8	11月16日	マンションの開発と運営	元日本政策投資銀行 副総裁、三菱地所顧問 寺澤 則忠
9	11月30日	商業施設の開発戦略 ～オペラシティの開発事例から～	都市計画設計 研究所代表 三浦 幸雄
10	12月 7日	鉄道会社の不動産開発	元阪急電鉄 東京支社長 齋 精一
11	12月14日	観光地・リゾート開発と再生 ～シーガイア・フェニックス・リゾートの事例から～	元第一勧銀取締役 日土地監査役 海老原 政徳
12	12月21日	駐車場の開発戦略	駐車場総合研究所 代表取締役社長 柳瀬 聡
13	1月11日	生命保険会社における不動産管理	ジャパンエスティ アセットマネジメント役員 山内 均
14	1月18日	オフバランスとリース事業	元東京三菱銀行 東銀リース常務取締役 赤木 勝正
15	1月25日	日本のPFIの実態と課題	日本PFI・PPP 協会会長 植田 和男

「資格試験」を狙うなら、こんな授業科目

資格	公認会計士	米国公認会計士	税理士	中小企業診断士	公務員 (国税専門官)	公務員 (地方上級)
	企業と会計	企業と会計	企業と会計	市場と経済	市場と経済	市場と経済
	会計学	会計学	会計学	初級ミクロ経済学	民法総則	初級ミクロ経済学
	財務会計	財務会計	財務会計	中級ミクロ経済学	商法総則・商行為	中級ミクロ経済学
	簿記論	経営学概論	簿記論	初級マクロ経済学	会計学	初級マクロ経済学
	上級簿記	経営管理論	上級簿記	中級マクロ経済学	日本国憲法	中級マクロ経済学
	原価計算論	経営組織論	税務会計	経済政策論	初級マクロ経済学	財政学
	管理会計論	経営戦略論	租税法	財政学	初級ミクロ経済学	地方財政論
	会計監査論	コーポレート・ガバナンス	財政学	金融論	財政学	金融論
	会社法	市場と経済	地方財政論	国際経済学	経営学総論	国際経済学
	租税法	初級ミクロ経済学		企業と会計	政治学	経済政策論
	税務会計	中級ミクロ経済学		会計学	社会学	行政法
	経営学総論	初級マクロ経済学		財務会計	Business Skills	民法総則
	経営管理総論	中級マクロ経済学		簿記論	情報処理	債権法総論
	経営組織論	IT 概論		管理会計論		債権法各論
	組織行動論	管理会計		経営分析		日本国憲法
	経営戦略論	租税法		企業財務論		
	戦略的経営論	会社法		経営戦略論		
	企業財務論	会計監査論		戦略的経営論		
	デリバティブ論	証券論		経営組織論		
	市場と経済	企業財務論		組織行動論		
	初級ミクロ経済学	デリバティブ論		マーケティング		
	中級ミクロ経済学			生産管理		
	初級マクロ経済学			民法総則		
	経済政策論			債権法総論		
	財政学			債権法各論		
	地方財政論			会社法		
	金融論			経営情報論		
	国際経済学			経営情報システム論		
	民法総則			ベンチャービジネス論		
	物権法			中小企業論		
	債権法総論					
	債権法各論					
	統計学					

※これらは、資格取得の一助になればと、資格取得との関連性の高い科目を示した表です。資格によっては、これらでは網羅できない場合もありますので、ご注意ください。

※Ⅰ・Ⅱと分かれているにもかかわらずナンバリングを記載していない科目については、「ⅠおよびⅡ」両方を指す。

PartⅢ

学科とゼミの選択

- 1年後期の学科選択について
両学科長に聞く!! 学科の特徴とは…
- 経済学部長に聞く!!
2年前期のゼミ選択で重要なこととは…

経済

×

経営

両学科長に聞く!!

学科の特徴とは…



◎ 初めに自己紹介と専門分野を教えてください。

中野 経済学科長の中野です。よろしくお願いします。専門は、マクロ経済学と金融論です。経済学部では初級マクロ経済学Ⅰ・Ⅱと中級マクロ経済学Ⅰを担当しています。

藤本 経営学科長の藤本です。専門は経営組織論です。担当の授業としては経営管理論と経営組織論と組織行動論をやっています。

◎ 両学科の特徴と違いはなんですか？

中野 経済学は、人々が限られた資源を使って商品やサービスを生産し、その生産物を市場を利用して分配し消費する、という活動を理論的に明らかにしていく学問です。人々のこのような経済活動を扱うという点で、経営学との共通点は多いと思います。でもやっぱりやっていることはだいぶ違っていて、例えば経済学では貿易・金融・財政などの応用分野で政府に何をやらしてもらおうべきかといった議論を行う傾向があります。

経済学科では、全員が共通して履修しないといけない基礎科目があります。その後に基礎を発展させた科目、また現実経済に即した応用科目のどちらかを多く履修するようなシステムになっています。その他は、経営学科の科目を含めて自由に履修できます。

藤本 経済学は市場全体や国民経済など、大きな話をすることが多いですが、経営学は、まず、企業ですね。「企業はどのように経営したらいいのか。」が中心的な課

interview

TAKASAKI CITY UNIVERSITY OF ECONOMICS

題になります。企業はマーケットの中で競争しているわけですね。①どうすればその競争を勝ち抜けるのか、それから②潰れなくて済むのかということが中心的な関心になります。そのため、多くの企業が同時に動いている状況を見るのが経済学ということになると思いますが、それぞれ1つ1つの企業はどうしたらいいのか。または企業同士協力をどうするのかということを考えるのが経営学だと思います。

経営学科では経営にまつわる大きな分野（戦略とマーケティングとマネージメントの分野、会計の分野、法律の分野など）が群として分かれています。この専門的な各群とそれぞれの基礎をまとめた1群があります。これらの中から1つの群を選択し、多く履修するシステムになっています。そのため自由度が高いです。

◎ 学科選択を考えている学生にアドバイスをお願いします。

中野 経済学科では先ほどの特徴でも話したように、全員が共通の基礎科目（群）を選択することになっています。経済学の基礎的な分析手法を習得し、それを前提として自分の興味のある分野を選択し、最終的に1人1人が異なる応用領域の経済学に取り組んでいくことになります。

数学を使用したり、統計の知識が必要であったりするので、経済学が難しいと感じ、多くの学生は経営学科に行くのかもしれませんが、しかし、高校とは違ってより高度なことを大学では学ぶことになりますが、そのためには、数学、統計、経済モデルなどを先に勉強しておかなければならないことを理解してほしいと思います。

だから、経済学を学びたいが、統計が難しそうとか数学が苦手だからと感じている人にはぜひ飛び込んでみてほしいんですよね。危険を避けていては大きな成功は得られない、いわば「虎穴に入らずんば虎児を得ず」でしょうかね。

まずは飛び込んでみることに。

経営学科長 中野 正裕 准教授



経済

× 経営

両学科長に聞く!!

学科の特徴とは…



目の前のものに
一生懸命になれ

経営学科長
藤本 哲 教授

藤本 経営学科では、(先ほどの特徴でも話したように)「1つの群からたくさん選択」することとなっています。専門性を高めることを前提としており、選んだ群から一定の単位数を取得しないと卒業ができないので、自分が大学で学んできたことは〇〇だと自信を持っていることができます。

例えば、「財務諸表」は、社会では今や共通の言語(コミュニケーションツール)となっていますが、非日常的なものです。日常からかけ離れたものを学ぶことが、将来どのように役立つのかと疑問を抱く学生も多いと思います。ただそういうものというのは、学ぶ前は分からないが後になってからわかる、つまり自分が使い始めてから学んだことの意味や重要性がわかるようになると思うのです。だから、経営学科にも会計や簿記、情報システムなど様々な分野がありますが、学んだ知識が将来役に立たないとは思わないので、興味あるなしにかかわらず意欲的に学んでほしいです。

④ 最後に、学生にどのようなようになってもらいたいですか？

藤本 小中高では、時間割や学ぶ内容が決められており、そういったカリキュラムに沿ってその通りに学べばよいですが、大学では自分で時間割を組み、学びたい科目を選ぶこと、つまり4年間の学びを自分自身でデザインしていかなければなりません。そこでまず高校と大学のギャップを感じることになります。

しかし、社会にはもっと選択肢があり不確実でわかりません。そのため、大学で高校の流れと同じように過ごしてしまうと、大学から社会に出た時のギャップをさらに大きく感じるようになります。だから、今感じているギャップを自分で挑戦したり先輩や家族などに聞くなどしてなんとか乗り越えることから多くの学びが得られると思います。

interview

TAKASAKI CITY UNIVERSITY OF ECONOMICS

そのためにも、成り行きに身を任せるのも時には大事なことです。希望通りにいかなかったからやる気をなくすのではなく、目の前にあるものに一生懸命取り組むことが大切です。そうすれば次の展開につながっていきます。もしかしたら、もともと希望していたものに近づくかもしれません。

中野（藤本先生が言ったように）高校には模範回答があり、それをなぞればよいのですが、大学では模範回答を自分自身で作成しなければなりません。謂わば、研究の世界みたいなものです。研究者が未解決の問題を研究しているように、大学においても自分自身や仲間と協力し問題の考え方や解決方法を議論していきます。そうすることで、将来、問題に直面した時にどのように解決すればよいかというのに役立つと考えています。だから今の段階でたくさん失敗しておくことは恥ではありません。失敗していない人は、チャレンジをしていないということだと思うので、難しい問題に果敢に挑戦し、自分の成長に繋げてほしいと思っています。

会社に入れば、自分が予測していないような配置転換が日常のおきてくるから、常にエンジョイできる心構えをしておくとういと思います。若い時間というのはとても貴重なので、何事にも一生懸命取り組み創意工夫していくことが大切です。技術がレベルアップして行っても、心が伴っていないとダメ！自分が今やっていることは将来企業に入った時にどのような役割を果たすのかを考えながら今行動してほしいと思います。



藤本 哲

経済学部経営学科教授。
神戸大学大学院経営学研究科博士後期課程修了。
奈良産業大学講師・助教授を経て2003年本学に着任。

中野 正裕

経済学部経済学科准教授。
神戸商科大学（現兵庫県立大学）大学院経済学研究科博士後期課程修了。2000年本学に着任。



◎ まず、ゼミとはどのようなものですか？

阿部 一番の特徴は、人数が少ないこと。経済学部のゼミは、だいたい15人前後ですかね。それだけ中身の濃い勉強をするということです。高校までの勉強と比べると、大学のゼミは大きく違います。

ゼミでは、経済や経営、それぞれ関心のある専門分野の勉強にさらに深く取り組みます。専門の勉強を通じて、問題の発見、それをどう改善したらいいかを考えます。でも、それだけでは意味がなくて、人に伝えて評価してもらわなければならない。だからコミュニケーション力も鍛えられるかと。これはどの分野の勉強でも変わりません。

◎ 現在、経済学部にはいくつかのゼミがあるのでしょうか？

阿部 全部で47のゼミがあります。中には、合同ゼミということで、3・4年生が一緒にやっているゼミもあります。

◎ 47もゼミがあるとのことですが、どのようにゼミを選ばよいか漠然としていてよくわかりません。どのような点に着目して候補となるゼミを選ばよいのでしょうか？

阿部 基本的には、所属する学科の延長でゼミを考えてもらうのが一番自然かなと思います。だから、学科選択の時点である程度、自分はこのゼミに行きたいからこの学科、と考えてもらっていいだろうけど、中には例外みたいなものもありますよね。例えば僕のゼミは経営学科ですが、ゼミでやっている内容の一部は、経済学科で勉強するような内容も入っています。会計の勉強もするけどファイナンスの勉強もするので、やっぱり経済学をわかっていただ方がいい。それから、卒論なんかは、データを使って分析をするので、統計学やコンピュータ・リテラシーなども知っていた方がいい。ということで、経済学科でも経営学科でもどちらでも行けるようなゼミもいく



阿部圭司教授

経済学部経営学科教授。

早稲田大学商学研究科博士後期課程単位
取得退学。

1997年、講師として本学に着任。2010
年より現職。2015年より学部長。

つかあると思います。でも、基本的には、それぞれ学科を選択した段階で、ある程度考えてもらうのが自然なのかなと思いますけどね。

あとは、本人の興味ですかね。経済学や経営学といっても分野が広いので、経済では、ミクロやマクロの理論をしっかりとやるという人から、応用経済の分野をやりたいという人もいます。経営でも同じですね。経営は群ごとに、職種みたいな感じになっています。例えば、マーケティングや営業のようなのをやりたいという人、経営組織の方をやりたいという人や、会計・経理などをやりたいという人。それによって、勉強する内容も変わってくると思うので、その延長でゼミを決めていくというのも1つです。ただ、ここの大学はゼミが必修ですよ。そうすると、どうしても一番行ききたいところに行けなくなるっていうこともあるから、できれば学生のみなさんには、いくつか候補を持ってほしいと思います。これ1本というのも悪くはないですが、やっぱりそれぞれの分野それぞれの面白さがあるし、第一志望じゃなかったからといって、もうつまらないと思わずに、いくつか関心のある領域は持っておいて、その中のどれかになればいいや、くらいでもいいのではないかと思います。そういう心の持ちようだと、ゼミ選択も割と気楽にできるのかなって気がしますね。

❶ 先ほど、学科で選んでほしいとありましたが、本学は学科選択時に、経営学科に行きたいけれど経済学科に行ってしまう人もいますよね？そういう人が、違う学科のゼミに入りたいという場合、それは大丈夫なのでしょうかね…？

阿部 それも、本人がどういう勉強をするかにもよってきますね。制度上は、経済学科だけと経営学科のゼミを受けるとか、その逆で、経営学科だけと経済学科のゼミを受けるとしても可能にしているので、学科が違ったからといってその学科のゼミに行けないという制度にはしていません。また、卒業単位数の中でも、他学科の科目を取れるようになってるので、十分ではないのかもしれませんが、ゼミに関連した科目復習はできると思いますよ。

経済学部長に聞く!!

経済

2年前期のゼミ選択で 重要なことは…

◎ ゼミ選択について、どのようにゼミを選び決めるというのは、新入生にとって難しいと思うのですが…。

阿部 繰り返しになりますが、やりたい分野、やりたいことをいくつか見つけて、それでいくのが一番いいのかなと…。無理に就職にからめなくてもいいと思います。あとは、先生との相性っていうのもあるかもしれないので、その先生の講義に顔を出してみるとか。人という面も大事でしょうから、そういうところも見ておくといいかもしれません。

◎ 最後に、新入生に向けてメッセージをお願いします。

阿部 高崎経済大学の経済学部は、若くて元気のある先生も多いので、経済経営の勉強をしようと思う時や、勉強以外でも、楽しく4年間過ごせるのではないかと思います。いろいろな大学選択肢はあるでしょうけど、学費も安いし、高崎経済大学はお買い得じゃないですかね（笑）。個人的には、海がないのが残念ですが、それ以外だと群馬県は割と過ごしやすいので、まあ悪くない選択肢かなと思いますよ。



PartIV

経済学部 専任教員と担当科目

- 教員紹介
- 専任教員担当科目一覧



秋朝 礼恵 准教授

あきとも あやえ

東京大学経済学部卒、人事院勤務を経て、早稲田大学大学院博士課程満期退学。修士(学術)。音楽なら中島みゆきとラフマニノフ。小説なら山崎豊子と宮本輝。

● 社会政策論 ● 社会保障原理 ● 社会保障制度論

どんな社会で暮らしたい？

◆ 研究テーマ

スウェーデンと関わること約20年。最も長く研究しているテーマは保育政策です。救済対策として始まった「保育所」は、いまや生涯学習の最初のステップに位置付けられ、「就学前学校」として教育政策の範疇にあります。これまでの長い歴史のなかで幾度も改革が行われてきましたが、私の関心は、「なぜ、その改革が可能だったのか」「どのようにその改革案が生み出されたのか」にあります。一つの施策が生まれてから、実行に移されるまでの過程に焦点を当て、保育政策(スウェーデンの現実に即せば「教育政策」ですが)を研究しています。

大学に入るまでは、顕微鏡のなかの小さな世界が大好きでした。人為が入り込まないミクロの世界の秩序ある美しさが好きでした。一方、政治の世界、例えば政治家の討論番組は本当に苦手でした。ところが不思議なもので、公務員生活を経たせいか歳を重ねたせいか、利益の表出や調整に関心をもつようになり、大学院では政治学を学びました。

私がスウェーデンをフィールドとするのは自分の価値観に合致するところがあるからです。授業では主に社会保障を担当していますが、社会保障を学ぶことは、自分の価値観について考えることでもあります。社会保障制度の体系は国によって異なっており、そのありようは、その国がよってたつ基幹理念を反映しているといっても過言ではありません。社会保障を学びながら、自分が理想とする社会のありように思いを巡らせる過程で、自分が重きを置く価値が何かに気付くでしょう。

◆ ゼミの内容

社会保障または社会政策の範疇でゼミ生各自が関心のあるテーマを設定し、研究します。どの国や地域のどんなテーマを設定するかは自由です。2年生後期の基礎演習では、「読む、書く、発表する、質問する」ことに重きを置きます。特に「発表する、質問する」ことに慣れてほしいと思っています。質問は「高度なこと」や「格好いいこと」でなくていい。「素朴な疑問」が考えるヒントを与えてくれることが多々あります。また、「不思議だ」という好奇心をもつことも大事。「当たり前」と万人が納得できることなど、世の中にはそうそうありません。



秋朝ゼミは2011年から開講したゼミで、社会保障制度をメインの題材に毎時間2人ずつの発表を行っています。ゼミは単に問題意識を持つだけでなく発表の仕方を学んだり、他者の意見に耳を傾けることができる良い機会となります。先生も明るく気さくな方なので、皆で仲良くゼミに取り組むことができます。(秋朝ゼミ1期生)

阿久津 由佳 准教授

あくつ ゆか

上智大学外国語学部英語学科卒業後、シティバンク・群馬県庁に勤務。その後スタンフォード大学大学院で外国語教育を専攻し修士号を取得。趣味は映画観賞、旅行。これまでに訪れた国は約30カ国。



- Current English 3・4 ●Special Topics C・D (旧メディア英語に見るアメリカ社会と文化)
●TOEIC I・II (旧ビジネスコミュニケーションスキルズ)

英語の敬語!? ～見えない言葉のルール「語用論」について～

◆ 研究テーマ

「仲のいい友人」と話するときと「知り合い程度の人」と日本語で話するとき、皆さんは同じ話し方をしますか？伝えたいことが同じでも言い方を変えますよね。では、英語ではどうでしょうか？「英語ってフランクでしょ？敬語ないし。あんまり変わらないんじゃないの？」と思った方もいるのでは？いえいえ、英語でもやっぱり違ってくるんですよ！丁寧な言い方もちゃんとあります。私の研究分野は「語用論」というもので、とても大雑把に言うとそんな「話し方・伝え方」を研究するものです。

言葉を使うとき、私たちは文法や語彙や発音の知識（言語知識）だけでなく、その言語社会のルールやマナー、決まった言い回しなどの知識、つまり「語用論的知識」も使っています。例えば日本語だと「目上の人には敬語で話す」というのもその一つです。「いい天気だね!」という発言は、文法的には何の問題ありませんが、先生に向かっては普通は言わないですよね。それは、皆さんが「語用論的知識」を活用して判断できているからです。このように、自然で適切なコミュニケーションをするためには、「言語知識」だけでなく「語用論的知識」も不可欠です。

ところが、これらのルール等は言語や社会によって違うことが分かっています。例えば、アメリカ英語では「目上」か「目下」かではなく、お互いの「心的距離」によって丁寧表現の使われ方が変わると言われています。つまり、ある言語を学んで適切に使うには、その「言語知識」だけでなく、それを使う社会でのたくさんの「語用論的知識」も学ぶ必要があるのです。

私は、特に英語学習者の語用論的能力とその習得に興味を持っています。実は「語用論的知識」は、文法や語彙を学ぶだけでは自然に身に付かないことがわかっています。ところが、これまでの英語教育は言語知識の指導に偏り、語用論的能力に関してはほとんど触れてきませんでした。私は、この問題に焦点を当てて、「語用論」を活用した自然で適切な英語コミュニケーションができる能力育成のための英語教授法について研究を行っています。



Special Topics (メディア英語に見るアメリカ社会と文化)を受講しています。アメリカの価値観や社会や文化、問題などについて、たくさんの映画を見ながら学習しています。今まで知らなかったアメリカの側面に気付いて、ますます留学したくなりました。生きた英語もたくさん聞けるし、映画の見方も全然変わりました！（2013年入学）



安達 剛 准教授

あだち つよし

広島県出身。2011年早稲田大学大学院経済学研究科修了。博士（経済学）。早稲田大学政治経済学術院助手を経て、2016年より現職。

●経済数学入門Ⅰ・Ⅱ ●厚生経済学

冷静な思考で、暖かい心情を

◆ 研究テーマ

専門は、社会的選択理論とメカニズムデザインです。

皆さんの中には経済学を“お金儲けのため”の学問と思っている人がいらっしゃるかもしれませんが、実際は、大分違います。実は“世の中全体を幸せにすること”を考えるのが経済学の目標です。でも、「世の中の幸せって何か」と言われると、意外に難しい。例えば、金持ちがすごく得をして、その代わりに貧乏人がさらに貧しくなったとしたら、世の中としては“幸せ”or“不幸”、どちらなのか？ …社会の“豊かさ”だけでなく公平性もきちんと考慮して、このような問いに答える“社会の望ましさの基準”を論理的に考えることが、経済学における社会的選択理論の役割です。

ところで、経済学の一番の特徴は何か。それはインセンティブ（やる気を起こさせる誘因）をきちんと考える科学である、ということです。インセンティブがないと人間は動かない。儲かると思うから企業はもっと良い商品を開発する。だから市場経済は上手く動く…。

メカニズムデザインは、このインセンティブを分析するという経済学の特徴と、“望ましさの基準”を考える社会的選択理論を融合してできた新しい理論です。メカニズムデザインは通常の“市場システム”が使えない場所に、インセンティブと両立的で、効率性や平等性の観点から社会的に望ましい制度（＝メカニズム）を人工的に設計する（＝デザイン）ことを行っています。その成果は、アメリカの公立学校の入学制度や、日本の研修医の新しい就職システムの設計などに活用されています。

◆ 担当科目

経済数学入門Ⅰ・Ⅱ、厚生経済学、およびゼミナールを担当します。皆さんとお会いするのは、経済数学入門になる場合が大半だと思います。経済学で数学、と聞いて驚かれる方もいると思いますが、今や、数学は経済学を学ぶ上で必須となっています。数学は人間が論理的な思考をするための手段であり（私の研究も全て数学で書かれています）、数学を使うことによって経済学のメッセージをより簡単に、より深く知ることができるようになります。

幸いなことに、経済学に必要な数学は難しくありません。ただ、“慣れ”は必要です。この授業で数学に慣れ親しんで頂いて、経済学により深い興味・関心を持ってもらえれば嬉しく思います。



今までなぜ数学を勉強するのだろうかと考えていた僕にとっては驚きの連続が味わえる、そんな授業でした。

（2013年度経済数学入門受講生 1年）

説明が詳しく1つ1つの問題をていねいに扱ってもらいわかりやすかった。

（2013年度経済数学入門受講生 1年）

私は数学は得意ではありませんが、基本的な部分から丁寧に教えてもらえるので、ついていけば苦手意識は無くなると思います。

（2013年度経済数学入門受講生 4年）



天羽 正継 准教授

あもう まさつぐ

1978年生まれ。慶應義塾大学卒業。東京大学大学院博士課程単位取得退学。趣味は(いまだき)CD収集。色々なジャンルの音楽を聴きますが、特にジャズやソウルなどのブラック・ミュージックが好きです。

●財政学I・II ●市場と経済A

財政の歴史と未来を考える

財政とは国や地方自治体などの政府が、国民や住民から租税を徴収し、主にそれを財源としてサービスを提供する活動のことです。財政は私たちの生活に非常に深く関わっており、財政なくして私たちの生活は成り立たないと言ってもいいほどのです。そのため、財政は常に大きな政治的争点になります。さらに、経済に対しても大きな影響を与えるので、財政をめぐるさまざまな要素が複雑に絡み合うことになります。2014年4月の消費税率引き上げは、まさにその典型例です。

このような財政について考えるのが、私の専門とする財政学です。その中でも私は、主として日本の財政の歴史について研究してきました。なぜ歴史を研究するのかというと、政治的・経済的・社会的要因が複雑に絡み合いながら変化する財政の動きを明らかにするには、歴史的な視点が有効だと考えるからです。しかし、歴史的に考えることの目的は、単に過去を振り返ることだけではありません。現在ある財政制度が形成された背景には、必ず歴史的な経緯があります。その経緯を知らなければ、私たちは現在がどのような時代なのかを知ることができず、あるべき新たな制度を作ることではできません。また、人間の能力には限界があり、過去に数多くの失敗がなされてきました。そうした過去に学ばなければ、同じような過ちが繰り返されてしまうでしょう。つまり、未来を創造するために歴史を学ぶ必要があるのです。

最後にゼミについて簡単に紹介します。基礎演習では教科書を輪読し、財政学の基礎知識を身に付けることを目標とします。演習Iではさまざまな財政問題を取り扱った本を輪読するとともに、サブゼミとしていくつかの班に分かれて、共同研究を行って頂きます。昨年度は群馬県内の市町村財政分析をテーマとして、夏季合宿で研究報告を行って頂きました。演習IIでは、それまでの勉強を基にして各メンバーが卒業論文を作成することを目指します。まだまだ発展途上のゼミですが、共にゼミを作り上げていく積極性を持った方々のご参加をお待ちしています。



天羽ゼミは2013年度に開講した新しいゼミで、主に日本の財政について勉強しています。天羽先生は細かい疑問点にもしっかり答えて下さるので、理解が深まります。また、居酒屋での「個別討論会」も積極的に開催しています。日本の財政に興味のある方や「個別討論会」に参加したい方は、ぜひ天羽ゼミへ！
(第1期生ゼミ長 小池 和樹)

池野 正晴 教授

いけの まさはる

東北大学大学院教育学研究科博士課程前期課程修了。大学附属の学校に勤務の時には、毎年の公開授業研究発表会で、2日間連続の授業公開をしました。全国から教師が参加し、授業後、研究協議会をもちます。1日目の子どもたちの出方で授業計画は大きく修正を迫られ、翌日の授業までの準備はたいへんでした。学級通信も毎年まとめて冊子にしたものです。現場でのよき思い出です。



●教育哲学 ●教育方法学 ●教職実践演習(中・高) ●教育実習Ⅰ・Ⅱ

教師修業は果てしなく

1 学校における授業づくりを考える

- 教育においてどのような世界観や人間像をめざすべきであろうか。
- どのような力をつけるために、多くの文化遺産からどのような内容を教育の内容として考えていくべきであろうか。
- 考える力や創造力を高めるために、どのような授業づくりをしていったらよいだろうか。

このようなことを明らかにするために、これまで、教育人間学(教育哲学)や授業論、教科教育学の研究を重ねてきました。

特に、授業づくりにおいて、多様な考えを生み出す授業を構想し、その多様な考えをどのようにとらえ、どのようにまとめていけばよいのかについて考えています。授業のコミュニケーション活動について、妥当性、関連性、有効性、自己選択等の用語を用いて授業づくりについて考えています。これまで、フィンランドやアメリカ、イギリス、ドイツ、スペイン、シンガポール、オーストラリア、中国等で、いくつかの学校において様々な授業を見てきましたが、この点についてはまだ弱いように思いました。

2 考えることなくして身につくものなし

教職科目を中心に担当しています。教職科目は、教師としての基本的な力量をつけるものです。どの授業にあっても、できるだけ事例を挙げながら具体的に考えてもらうように展開しようと腐心しています。「実際に頭を使って考えることなくして、身につくものなし」です。教室内を回りながらの対話型の授業をめざしています。

3 合同ゼミで本当にやりたい研究を

1つのゼミを3年生と4年生が合同で運営していく形をとっています。4年生は、下級生をリードし、3年生は、自分たちの発表や係の仕事等について、上級生よりアドバイスを受けながら、いろいろなことを吸収することができます。3年生の輪読と4年生の卒業論文発表を通して、お互いに刺激を受け、追究を深めていきます。両方の立場も体験でき、学年間の縦のつながりも強くなります。

研究テーマも特に限定することはないで、自分が本当にやりたいテーマについて深めてもらい、そこからお互いが学び合うようにしています。いろいろな考えをもっているゼミ生がお互いに議論し合うことをたいせつにしています。



ゼミ生の
ひとこと

池野先生の専門は教育学であり、教育学部のない高経大において教育者を志す者にとってなくてはならない存在です。

ご自身の学校現場での教師としての体験を授業に活用される点も先生の特徴のひとつです。教育に興味や関心があれば、先生のお話を伺うだけでも刺激的なお話が聞け、確かなプラスになると思います。

(池野ゼミ18期生 ゼミ長 鈴木 史敬)



石田 崇 准教授

いしだ たかし

東京都生まれ。早稲田大学理工学部経営システム工学科卒業、同大学院理工学研究科修了、博士（工学）。早稲田大学理工学部助手、同大メディアネットワークセンター助教を経て現在に至る。

●情報処理Ⅰ・Ⅱ ●経営統計

情報を数理モデルで考える

◆ 研究テーマ

取り組んでいるテーマは統計的学習理論とその応用に関する研究です。現在身の回りには多種多様な情報が溢れかえっています。そこで情報を上手に処理してその背後に隠された構造や規則を発見し、有益な知識を獲得することが重要になってきます。統計的学習理論では情報を漠然としたものではなく数学的なモデルとして表現し、コンピュータを活用することによって高度な情報処理を行うことが可能になります。できるだけ実問題に適合する数理モデルを構築したり、性能の良い計算アルゴリズムの開発を目指して検討を行っています。

統計的学習理論という言葉はあまり馴染みがないかもしれませんが、情報検索や情報抽出、パターン認識、データマイニングといった応用的な分野において、この理論をベースにした技術が活躍しています。経営学や経済学も含め、情報を扱う非常に多岐にわたる現実問題の解決のために役立てられています。

この研究分野で必要とされるのは数学的な基礎力とコンピュータを自由に操ることができる能力です。統計的学習理論は確率論や統計学、情報理論など数学に関連する専門的な学問の上に成り立っています。今後、コンピュータを使ってより高いレベルで「情報」を扱おうとする人は、文系・理系という枠組みとは関係なく、ぜひ数学に対する苦手意識を克服して親しんでもらいたいと思います。また、コンピュータはインターネットやSNS、メール送信やレポート作成などで大変身近なツールになりましたが、さらにもう一歩進んで、データ分析やプログラミングなどの高度な情報処理のために積極的に活用できるようになることも大切です。これらの内容について興味があればぜひ担当する科目を受講してみてください。

◆ 担当科目

- ・『経営統計』では、主に経営データの分析を対象として統計学の基礎を学びます。ただ単に答えが出せる、というだけではなく、その背後にある理論や統計的なものの見方を身につけることが目的です。
- ・『情報処理Ⅰ』では一通り統計学の基礎については学習していることを前提として、コンピュータを利用した実習を通じて、自分の手で実際にデータの統計分析を行う方法を学びます。ここでも経営データの分析が主な対象です。さらに、分析した内容をレポートとしてまとめるまでの一連のプロセスについても習得することが目的です。
- ・『情報処理Ⅱ』ではさらに高度な情報処理を行うためにプログラミングを学習します。初学者を対象として、C言語の基本的な文法やアルゴリズムの考え方を理解し、自分で簡単なプログラムが書けるようになることが目的です。

井上 真由美 准教授

いのうえ まゆみ

岐阜県出身。博士（経営学）。



●経営学総論 ●企業論 ●コーポレート・ガバナンス

会社とは何か

◆ 研究テーマ

ここ数年のあいだ、わたしは出光興産の創業者である出光佐三氏の研究をしています。きっかけは、大学院時代の指導教官が今後の研究テーマとして勧めてくださったことでした。「出光の経営思想や経営手法はいわゆる日本的経営のひとつの源流だったのではないだろうか」というのがこのテーマのイメージでした。

幸いなことに、出光興産でCSR をご担当されている方が出光氏に関する史料を貸してくださいだったので、それをひととおり読みました。そのときわたしが受けた第一印象は、あっさりいえば、出光氏は現代の経営者とはまったく異なる人物である、というものでした。というのは、わたしの知る限りでは、書店やマスメディアなどに露出している現代の経営者のなかに、出光氏に似ている人はいなかったからです。

まず出光氏は、営利の追求に走ることを自分や部下たちに厳しく戒めました。彼は石油商人として生産者と消費者のあいだの情報の格差を利用できる立場にあったにもかかわらず、いわゆる中間搾取を排し、同時に両者の便宜を図ってゆくことが自分の使命であると考えておりましたので、通常の意味での商人であることを彼は否定していたということになります。またそれだけでなく、彼が取り扱っていた商品が燃料油や機械油であった関係上、彼は政府のエネルギー政策にも協力を惜しみませんでした。要するに彼は、少なくとも生産者・消費者・政府とかわりつつ、国民全体の利益のために貢献することを自分および自社の使命としていたということです。現代の経営者の多くは、（他者を利用しつつ）自分の会社を成功させることに拘泥しているように見えますので、同じ日本人の経営者だとは思えないくらいです。

現代の経営者との異質性をいつそう明らかにするために、出光氏が残した言葉をいくつご紹介しておきたいと思います（これらの言葉に勇気づけられる学生さんもおられるかもしれません）。

「誠首はならぬ」一会社は家であり、従業員は家族である。家族をリストラすることなどできないという意味です。

「卒業証書を捨てよ」一見せ掛けではなく実力が、机上の理論ではなく実践力が重要だということです。

「人間尊重」一会社の資産は従業員であり、しかも人生の目標を見据えた人としての従業員の力強い働きこそが会社の資産である、と理解してよいと思います。

いま、このようなことを本気でいう経営者が存在するでしょうか。よく知らないのですが、たぶんそう多くはないと思います。指導教官のおっしゃったように、もし出光氏が日本的経営の源流であったのだとすれば、現在その流れはあさつてのほうを向いているか、あるいはほとんど途絶えてしまっているのかもしれません。しかしいずれにせよ、出光氏のような経営者がどのようにして生まれたのかという点を明らかにすることは、そもそも会社とは何のためにあるのか、という根源的な問いに答える有益な手がかりになると思っております。



井上ゼミでは、企業の長期的存続についての文献の輪読やその内容と関連する企業の調査などを行っています。ゼミ生が積極的に研究、プレゼン、ディスカッションを行う環境があり、自分が学びたいことを十分に勉強できます。

先生はとても優しく、そして博識なので、わからないことがあればなんでも教えてくれたり、参考になる文献を紹介してくれます。経営という広い分野を充実して勉強できるよいゼミだと思います。

（井上ゼミ3期生 林 吉昭）



大石 恵 准教授

おいしいめぐみ

1973年生まれ。山口県出身。中国経済論・アジア経済史担当。これまで、通算で1年以上の台湾生活を経験しているからか、地元の人からも中国語で話しかけられること多数。最近、伍佰の「妳是我的花朵」にはまっている。

●中国経済論Ⅰ・Ⅱ ●アジア経済史

「空の攻防」をめぐる研究

◆ 研究テーマについて

みなさんは、海外旅行の経験がありますか？その時、どの航空会社を利用しましたか？2012年、日本で格安航空会社（LCC）が誕生し、注目を集めました。LCCは、機内で提供する様々なサービスを有料にしており、必要なサービスだけ購入することが可能です。これに対して従来型の航空会社は、食事や飲み物、新聞、雑誌などのサービスを無料で提供する分、価格をより高く設定しています。さらに、共同運航便（コードシェア便）や複数の航空会社で連携して（アライアンス）路線を拡充したり、利便性を向上させてきたりしました。航空会社ごとに価格やサービスで差別化が進み、消費者の選択肢が増えた現在、「空の旅」はより身近なものとなっています。

こうした航空輸送の進展は、航空会社の営業内容や運航形態の変革だけでなく、航空機を製造する企業や、各国政府・国際組織の政策によってもたらされてきました。例えば技術進歩は、航空輸送の発展に欠くことのできない要因の1つです。1950年代末に到来したジェット時代は、機材の高速化、大型化への転換点となりましたし、1970年代に就航したジャンボ機（ボーイング747型機）は、空の大量輸送時代の立役者とも言えるでしょう。また、国連専門機関の1つであるICAO（国際民間航空機関）の発足（1947年4月）も、民間航空の発展に寄与してきました。ICAOでは、国際的な民間航空の運営原則や条約の作成などを行い、安全かつ円滑な航空輸送の実現に努めています。さらに重要なのが、外交という国家・地域間の問題です。各国間の利害が、民間航空路線の開設・増設、就航地の決定過程などに正の効果をもたらすこともあれば、時として、負の影響を及ぼすこともあります。

現在は、冷戦初期の台湾を対象に、国際関係や外交問題と密接にかかわる民間航空路線の拡張や、政府の航空会社育成政策について研究をすすめています。

◆ ゼミの内容について

ゼミでは、広く中国・アジア経済について学習を進めていきます。アジアという空間的な広がりだけでなく、歴史という時間的な広がりを見合わせることで、各国・地域への理解を深めていくことを目標としています。単に現代の中国・アジアの動向だけでなく、その背景にあるものを読み解く力を養う手助けができればと考えています。



中国の経済や政策を歴史的観点から学び、現代中国が抱える様々な問題などにも言及します。また、中国のみならず、東アジアから南アジアの各国・地域についても学べます。ゼミでの発表回数が多いので、資料作成やプレゼンテーションの練習になります。大石先生の指導は親身でとても丁寧なので、学びやすい環境です。

（大石ゼミ1期生（2009年卒））

大島 登志彦 教授

おもしろしひこ

1954年群馬県生まれ。工学部や教育学部・教育学研究科に在学して学んだ後、高等学校、高等専門学校での勤務を経て、1999年から本学経済学部勤務。博士（工学）



●日本地誌 ●世界地誌 ●交通論Ⅰ・Ⅱ

公共交通の変遷や産業遺産から学ぶ 先人の苦難と功績

経済学部の授業では、日本地誌と世界地誌、交通論Ⅰ・Ⅱ、そして大学院では、交通論の講座を担当しています。専門分野は、交通地理学、歴史地理学、産業考古学で、具体的には、地方の鉄道や路線バスを主体とする公共交通の変遷と地域の関わり、地域の産業史とその遺産などを題材とし、歴史を重視して地域を学ぶ視点で研究を進めています。

地域住民の足となる公共交通は、有識先人達が、明治期から昭和初期にかけて、苦労を重ね、私財も投じながら開業にこぎつけた路線が多いなかで、地方都市や中山間地域では、戦後の高度経済成長期以降のモータリゼーションの影響などによって、利用者は減少し、一部は廃止されたり、現在各地で存廃の危機にあります。しかしその一方で、高崎市内の循環バス「ぐるりん」にみられるように、多くの自治体がコミュニティバスを運行し始めるなど、公共交通の重要性和活性化が叫ばれています。

また、群馬県においては、産業経済の発達の基盤にもなった製糸工業を初めとする近代初期の鉱工業が衰退したり老朽化して取り壊された施設も多いなかで、「富岡製糸場と絹産業遺産群」が世界遺産に登録されるなど、地域の産業遺産の社会的価値が認知されるようになりました。大島ゼミでは、それを契機に、近代産業の盛衰を把握することも、近年影が薄れていた蚕糸業や絹文化の意義や発展の可能性を調査しながら、経済・経営学を学ぶ指針を修得してきました。また、2015年には、「明治日本の産業革命遺産」が世界遺産登録されましたが、群馬県内でも、鉄鉱石をはじめ各種鉱産資源が採掘されてきました。

私の研究及び授業・ゼミナールでは、近代産業の発祥地の一つである群馬において、日本が貧しかった時代に苦難を伴って形成されてきた公共交通や産業遺産から、先人の苦労の軌跡や時代的背景などを学びとって、現在の日本が構築されてきた意義を認識したうえで、そこから展開される調査・研究を、目指しております。



大島ゼミでは地域交通の盛衰と沿線地域の関連性などについて、実際に現地に赴いて勉強する臨地研究を行っています。学生にとって非常に難しい問題に対しても、先生から熱意あるご指導を頂き、実際に机の上だけでは分からない、五感を使って「現実」を学ぶことができました。

(大島ゼミ(2011年3月卒業) 高橋 智恵)



大村 和人 准教授

おむら かずひと

1976(昭和51)年生まれ。博士(文学)。専門は中国古典文学。趣味は音楽鑑賞。よく聴くのは贝多芬、舒曼、勃拉姆斯、马勒、南天群星などなど。

●中国文化論 ●中国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ ●中国古典研究 ●日本語リテラシーⅠ
●中国研究Ⅰ・Ⅱ

「常識」を疑う

◆研究テーマ

私の研究対象を詳しく言えば、南朝斉(479～502) 梁(502～557)時代の文学作品や文学思想ということになります。この時代は門閥貴族の繁栄に陰りが見え始めたころですが、当時の文学は所謂「中国古典」に対する一般的なイメージからかけ離れたものかもしれません。

齊梁時代に大流行したのは、女性およびそれに関する事柄を主題とした「艶詩」でした。後世の人々はこれらの作品が類腐的で千篇一律だとして厳しく批判し、そのような作品が量産されたのは作品制作の担い手であった皇帝・皇族・貴族とその取り巻きたちが類腐的な生活を送っていたからであり、それらの作品が中国文学の「伝統」から乖離したものだと考えてきました。更に、それらを中国詩歌史における「黄金時代」と評価される唐(618～907) 宋(960～1279)時代の作品と比較し、「未熟」「無内容」「無価値」と断定する論調も少なくありません。これらのことは現在出版されている数多くの『中国文学史』に類する書物に記されており、中国文学史上の「常識」となっているようです。

仮に「黄金時代」のような時代が過去にあったとして、それを知る現代人の眼でそれ以前の時代の文学を「未熟」と決めつけることは簡単です。しかし、それはフェアではありません。それぞれの時代に、作者たちは彼らなりにベストを尽くして作品を制作したはず。また、どの国のどのような文学であれ、一世を風靡したものは突然変異的に発生したものではありません。「伝統」を重視する中国では尚更です。齊梁「艶詩」も「伝統」を継承発展させた結果、生まれたものであると考えられます。見方を変えれば、このような作品の研究が、中国文学の「伝統」の中で従来の説が見落としていた一面に光を当てることに繋がるのではないのでしょうか。また、齊梁「艶詩」は和歌などにも大きな影響を与えたとされるだけに、その本質の再検討は日本文学を研究する上でも看過できません。

以上の問題意識から出発して資料を洗い直し、作品そのものや、作品制作の場、作者たちの文学思想、そして後世における受容などの多角的な視点から、齊梁「艶詩」の本質とその東アジア文化史における役割を再検討しています。「常識」に挑むことはスリリングですが、研究の方法には慎重を期すように心がけています。

◆担当科目について

「授業全般について」

授業中、質問は随時受け付けていますが、各回の授業で小アンケートを実施し、授業の内容や中国のことに対する感想や疑問などを受講生のみなさんに自由にお書きいただき、次の授業の冒頭でそれにお答えしています。

「中国語」

「中国語Ⅰ」「同Ⅱ」では中国語の基礎を、「中国語Ⅲ」以上の科目ではより高度で実用的な運用能力を受講者のみなさんが身につけることを目指します。他に、教科書の内容に即して中国の習慣やマナーなども紹介します。

「中国研究(外書講読)」

この授業では現代中国語で書かれた文献を講読します。前期の「Ⅰ」では新聞や雑誌など比較的短めの文章を、後期の「Ⅱ」ではやや長めのエッセイや学術的な文章を取り上げます。

「中国文化論」

この授業では「中国文化」の代表的ジャンルの一つとして文学を取り上げます。全15回の前半では、2012年ノーベル文学賞を受賞した莫言の作品を読んでその特徴を探り、後半では、莫言という作家を生み出した中国の文学の歴史を辿ります。そうすることによって、古今の中国を貫く「文化」の特徴の一端を探ることを目指します。

「中国古典研究」

「古典」とは無用の長物ではなく、当該地域の現在の姿が形成される過程において、人々が時には規範とし、時には対峙しながらも、継承されてきたものと考えられます。従って、当該地域の現在の姿を理解するために、その地域の「古典」を学ぶことは非常に重要です。この授業では中国歴代の主な思想家の思想を記した文献を読みながらそれらの特徴を学び、更にそれらの継承発展の道筋にも目を配ることによって、それらの普遍性・通時性と個性を理解することを目指します。

岡田 和彦 教授

おかだ かずひこ

広島県出身。東京大学大学院修了。経済学博士（東京大学）。
「資本主義経済の理論」「経済システム論」担当。若者は、
よく学びよく遊ぶというメリハリのきいた生き方をするなか
で成長する、との信念は、ナイーヴだとの評もある。



●資本主義経済の理論Ⅰ・Ⅱ ●経済システム論

希望を与える経済システム

◆ 研究テーマ

普通の人々の希望を育み、現実の社会に活力を与えるような、新たな経済システムとはどのようなものなのか。このような問題意識にもとづいて、かつての「社会主義」国とりわけソ連・東欧諸国の徹底した市場経済への移行、つまり資本主義経済へのシステム転換について、理論的および実証的に分析してきました。最近ではその関心を、今日の中国経済さらには日本経済の現状にも拡大しています。

◆ 担当科目

「資本主義経済の理論Ⅰ・Ⅱ」では資本主義経済の基礎理論を講義します。それは、市場経済・資本主義経済の基本的な仕組みと運動のありかたについて、一般的に、つまりいかなる国の資本主義経済にも基本的には共通するような経済システムとして、理論的に説明するものです。「経済システム論」では「資本主義経済の理論Ⅰ・Ⅱ」で習得した基礎理論にもとづいて、1980年代から1990年代にかけてソ連・東欧諸国や中国で展開された市場経済への移行過程のより具体的な現実を、理論的に解明します。「基礎演習・演習Ⅰ・Ⅱ」では、市場経済がよりよく機能するために不可欠の制度であるセーフティネットとはどのようなものか、その理論と現実について研究します。こうして、われわれに希望を与えてくれる実現可能な経済システムについて、学生とともに悩み考える、という姿勢で講義・ゼミを進めています。皆さんの積極的な参加を心から期待しています。



ゼミ生の
ひとこと

学生のことを第一に考え、親身に対応してくれるゼミです。高度な研究よりも、自分で何をすべきか考え、行動することが重視されます。金融機関や行政機関に勤めるゼミOBの話を聴く機会も設定されています。また、ゼミの時間を利用して、ボランティア活動や大学の公開講座に参加することもできます。

(ゼミ15期生(2015年度卒) 中島世里奈)



尾形 祥 准教授

おがた しょう

福島県出身。早稲田大学法学部卒業。同大学院法学研究科民事法学専攻博士後期課程満期退学。高崎経済大学経済学部専任講師を経て、2014年より現職。趣味は野球観戦。

●有価証券法 ●会社法Ⅰ・Ⅱ ●商法総則・商行為

素朴な疑問から根源的な問いへ

◆ 研究テーマ

私の主たる研究テーマは、スウェーデンにおける支配株主による会社支配です。スウェーデンでは、Wallenberg一族といった有力なファミリーが持ち株会社の支配株主となり、その傘下にある同国の重要な事業会社（H & MやIKEAなどがその例です）を支配する構造をとることが通例となっています。かかる支配株主が会社支配権を濫用することは稀であり、むしろ支配株主が存在するスウェーデンの会社では安定した会社支配の下で効率的かつ健全な経営が行われることが多いようです。スウェーデンにおける支配株主による会社支配権行使を適正化する法理や支配株主の責任追及法理を研究することにより、日本法への示唆を得たいと考えております。

◆ 担当科目

2016年度の担当科目は会社法ⅠⅡ、商法総則・商行為、演習Ⅰ、基礎演習です。

会社法や商法を理解する上でそれらの基本的な知識や考え方を身につけることは必要不可欠ですが、それと同時に会社や「商」の世界に素朴な疑問を持つことが重要であると考えています。たとえば、会社は私たちに様々な財やサービスあるいは働く場所を提供し、社会において必要不可欠な存在といえます。しかし、会社はその巨大な「規模」ゆえに、不祥事が起こり、あるいは会社が倒産すれば、社会に及ぼす負の影響は計り知れません。こうした「必要悪」としての会社を会社法は規制していますが、それでもなお不祥事は後を絶ちません。ここで、なぜ不祥事は繰り返されるのか、なぜ監査役は代表取締役が物がいえないのかといった素朴な疑問が生まれます。もとより、そうした問題に対処するために様々な法規制や判例法理が生み出されてきており、それらを理解する必要はありますが、さらに、現行の法律や既存の判例法理にはどのような限界があるのか、それを克服するにはどのようにすればよいのかを根源に立ち返って具体的に考えることこそが法律学の醍醐味であるように思われます。学生の皆さんには身近で当たり前のことに「なぜ」と素朴な疑問を持ち、自ら調べ、自分の考えを捻り出す「癖」を大学時代に身につけてほしいと思います。

尾形先生の“学生と真摯に向き合う姿”に惹かれて入ゼミしました。

ゼミでは学生主体の活動を促す一方、初学者にもわかる授業を展開しているので、安心して積極的な活動ができます。

また、先生の講義は役員や会計経理職、銀行などの融資関連職を希望する学生にはぜひ受講を推薦したいです。

（尾形ゼミ1期生 2011年入学 石井 哲也）



私の夢は、pre-schoolからuniversityを一つの町として運営していくことです。

そこで、会社運営の大綱である会社法を尾形ゼミを中心として学び、know-howを構築したいです。

（尾形ゼミ1期生 2011年入学 阿部 恒幸）

岡田 知之 准教授

おかだ ともゆき

愛媛県出身。福岡大学経済学部卒業。慶應義塾大学大学院経済学研究科修士課程修了、博士課程単位取得満期退学。趣味は散歩。(何の目的も持たず、何も考えずにふらふらと歩くことが好きです。)



●経済成長論 ●公共経済学Ⅰ・Ⅱ

競争のメリットとデメリットを慎重に検討すること

担当科目は、公共経済学・経済成長論で、研究分野は経済成長論です。公共経済学と経済成長論というと両者の間には関連が無さそうに思えるかもしれませんが、私には両者の間に、密接な関係があるように思えます。

1980年代以降、論じられるようになった内生的成長理論と呼ばれる考え方によれば、例えば(利潤の獲得を目指して企業によって行われる研究開発により生み出された)新技術が経済成長の原動力となりうる可能性があります。技術は、通常の財・サービスとは異なった性質をもっているため、規制緩和などの自由競争の促進を目指した政策が、新技術の開発を阻害し、経済成長を鈍化させてしまう可能性があると考えられています。自由競争が世の中に弊害をもたらす場合、規制を行うことなどにより弊害を是正する役割を政府が担うことがあり、そうした政府の役割は公共経済学の考察対象となっています。(経済成長をもたらす)新技術の開発が自由競争のもとで効率的に実施できないのであれば、状況を改善する為に、政府の介入が必要となるかもしれません。もしそうであるならば、公共経済学と経済成長論は無関係であると言えなくなるのです。

これまで私は、経済成長という観点から研究を行ってきましたし、今後もしばらくは経済成長を中心として考察を行って行きたいと考えています。しかし、心の中には、「競争は万能ではない」という問題意識をもっています。競争を促進することで効率的な経済活動を行えるようになり、より豊かな生活がもたらされるかもしれません。しかし、競争が私たちの生活を脅かす原因となるケースも否定できないのです。私は、競争がもたらすメリットとデメリットを慎重に検討するという姿勢を大切にしたいと考えています。経済学は万能ではないので、万人を幸福にする処方箋を提示してくれることはありません。しかし、私たちの生活が少しでも豊かになるように政府がどのような政策を実施できるのかを検討することは十分に価値のあることのように思えます。そして、そのような政府の役割を考察する公共経済学は十分に魅力的なのではないでしょうか。



ゼミ生の
ひなこ

板書を丁寧にする先生で、説明上必要な基礎的な経済用語の解説や前回の復習もしてくれるので理解のしやすい講義をしてくれている。本人曰く、半年間ある講義のうちどの1回の講義を受けてもそれ単発で分かることを目指しているらしく、その考えが反映された結果ともいえる。また、マメな性格で区切りごとに質問はないか聞くようにしている。とはいえ、半年の講義中何度も同じ用語説明をするのもどうかと個人的には思う。

(岡田ゼミ3期生 金原 健美)



岡村 晃子 教授

おかむら あきこ

1999年より高崎経済大学で英語を担当。それ以前は、1991年から1999年まで英国ニューカッスル大学で日本語専任講師。2000年にニューカッスル大学より応用言語学で博士号(Ph.D.)取得。主な専門分野は学術論文分析、語用論。

●Practical English1・2 ●Academic Skills I・II ●Special TopicsA・B

私たちはどのように言葉をつかっているか？

◆ 研究テーマについて

私は経済学部で英語を教えています。経済学部で英語？英語で何をしているのだらうと思う方もいるかもしれません。

その一つをご紹介します。私は言葉を使う際に私たちはどのようにして相手に意図を伝えようとしているのか、どのようにしてわかってもらおうとしているのか、誤解が生まれる可能性はどんなところにあるのかなどを調べて言います。一見つかみどころのない話のようです。例を紹介させていただきます。

先日アメリカ軍のラジオ放送を聞いていた時に、三沢基地のある三沢の町にアメリカの姉妹都市の市長が来て、その時のスピーチが英語で流れました。面白かったのは、その市長の日本人へのコメントです。“Japanese people are so different from what we understand in the US. 日本語にすると、(日本は私達がアメリカで思っていたのとは全く違ってました。)” 状況を考えて素直に解釈すると、日本に来てよかったという、多分よいコメントだと思います。しかし、反対にも解釈できますよね。また、もしよい解釈なら、一般のアメリカ人は日本についてどんな風に思っているんだろうという疑問がわきます。そう考えると必ずしも良い言葉の使い方ではなかったのかもしれない。“違っていた”という言い方ではなく、どのようだったのか、もっと静かだと思っていたら、にぎやかだったとか、具体的に言ったほうがよかったのかもしれない。

言葉の使い方って難しいですね。同じ言葉が話し手、話す状況、聞き手との関係、話し手の目的などなどにより、まったく違った解釈が生まれるのだと思います。辞書からではなかなか伝わってこない面があります。この誤解がジョークになり、笑いが生まれるかもしれませんし、また怒りに変わる可能性もあります。ですから、怒りに変わないように私たちは言葉の使い方に注意を払うべきだと思うのです。

以上のように、私は言葉の引き起こす面白さ、おかしさ、誤解、問題点を、話し言葉、書き言葉で調べています。英語の授業でも、このような言葉の持つ“魔力”を少しでもご紹介できればと思っています。

加藤 健太 准教授

かとう けんた

青山学院大学経営学部卒業。東京大学大学院経済学研究科博士課程修了。主な研究テーマは、消費社会と会社機関と総合商社の歴史分析。



●戦前期日本経営史 ●戦後日本経営史 ●外国経営史

ぼくたちはどんな時代を 生きているか？

◆ 研究テーマ

最近、関心を持っている研究テーマは、消費社会。長期不況の中で、消費の低迷をはじめさまざまな問題に直面しているとはいえ、世界を見渡せば、日本は豊かな社会である。消費者は自分の欲しいモノだけを手に取り、買ったり買わなかったりする。それ以外のモノには見向きもしない。と、よく言われる。しかし、そうした社会は突然現れたわけではない。ほんの50年前までは、みんなが競って3種の神器（白黒テレビ、洗濯機、冷蔵庫）を買い求め、みんなが「マイカー」に憧れた。日本で消費社会が本格的に開花した高度成長期のことである。このように、現在の社会は長い歴史の中で形成されてきたのであり、当然、大きく姿を変えている。それは何を契機に、いかなる変容を遂げてきたのだろうか？この問いを、消費社会をキーワードに考えてみたい、と思っている。

◆ 担当科目：経営史

経営史は、企業発展のダイナミズムを描き出す分野で、そのアプローチはいろいろな側面から可能だから、その特徴を一言でいうと、“学際性”となる。戦略、組織、企業家・経営者、コーポレート・ガバナンス、製品開発、資金調達、生産システム、流通政策、広告宣伝活動などなど、自分の興味のある側面から興味のある企業にアプローチすればよい。もちろん、その企業の成長にとって重要な側面であることが望ましいけど。たとえば、セブンイレブン。本学の敷地内にも店舗を構える、言わずと知れたコンビニ業界のトップランナーである。

この企業のダイナミズムを描き出す時に、鈴木敏文という経営者の考え方や行動に注目してもいいし、特定の地域に集中的に出店するドミナント戦略の実態と意義に光を当ててもいいし、セブンプレミアムというプライベートブランド（PB）商品の開発プロセスを取り上げてもいいし。ただ、その際、ある一時点だけを対象にするのではなく、ある程度長いスパンをとって、その間の変化を探り出すことが大切になる。それこそが、“ぼくたちはどんな時代を生きているか？”ということを知る手がかりをくれるからである。



加藤先生は頭の良い先生ですが、良い意味でうつでもおもしろく、ゼミ生一人一人を気遣ってくれるとても優しい先生です。また、講義の内容は、私が受けてきた中で段トツおもしろいです！

加藤ゼミは、忙しい時期もありますが、確実に成長できるゼミです。また、ゼミ生との仲も深まるととても良いゼミなので、企業研究やディベートに興味のある人は是非入ってほしいと思います！

(8期生 みかちゃん)



唐澤 達之 教授

からさわ たつゆき

好きなものはジャズ。学生時代によく聞いたものは、歳をとった今でも聞き続けますね。デヴィッド・サンボーン、ジョン・スコフィールド、マーカス・ミラー等々、新譜が出るとついつい買っちゃいます。

● 経済史概論Ⅰ・Ⅱ ● 西洋経済史Ⅰ・Ⅱ

都市の歴史

◆ 研究テーマについて

はくが長らく取り組んでいる研究テーマは、都市の歴史です。特にイギリスの都市を、他の国・地域のそれとの比較を意識しながら研究しています。「都市」のことを勉強していて面白いのは、多様なバックグラウンドを持つ人たちが集まり住み、お互い知らない者どうしが新たな秩序を作り出していくダイナミックなプロセスがそこにあるからです。また、「歴史」というアプローチの面白さは、昔の人が残した証拠を集めて、自分とは異なる時間・空間に生きていた人々の社会を復元していくことにあると思います。仕事柄、数百年前のイギリス人が書き残した、ほこりやカビにまみれた文書史料をたくさん扱いますが、はくはアレルギー性鼻炎なので、この仕事を選んで本当によかった、と今では後悔しています。

◆ ゼミについて

はくのゼミでは、歴史や比較という観点を生かして、経済発展のレベルやその道筋に国・地域の間で違いがどうして生まれてくるのかについて研究しています。一昔前、西ヨーロッパ以外の地域や国は、西ヨーロッパをモデルとしてキャッチアップを目指す「後進」として位置づけられる傾向がありました。が、しかし、現在は、近年の東アジアを中心とした急速な経済成長を目の当たりにして、ヨーロッパとは異なった経済発展の道筋があるのではないかと考えざるを得ない状況にあります。そのため、ヨーロッパとアジアの比較を意識して両地域の経済発展の歴史を見直す動きが近年進んでおり、ゼミではこうした動向に留意して研究を進めています。

ゼミは、グループ研究を中心に進めています。はくは、ゼミを、ひとつのワークショップ(workshop(工場、こうば)) だと思うからです。ひとつ屋根の下で、職人=学生たちが、それぞれの異なった技を生かしながら、ひとつのものを作り上げていくプロセスで繰り返されるコミュニケーションこそ、ゼミの醍醐味があります。このコミュニケーションは2通りあります。ひとつは、お互いに異なる価値観・考え方をもった学生どうしのコミュニケーション。もうひとつは、自分とは異なる時間・空間に生きていた過去の人々(=歴史)とのコミュニケーション。これらを通して、想像力・問題発見力・コミュニケーション力を自然に身につけていってもらいたいと思います。



ゼミでは主にグループで活動を行っています。議論が横道に逸れたり行き詰ったりした時などに先生からアドバイスを受けるのですが、とても分かりやすいです。普通の講義の雰囲気とは全く違って、仲間どうして進めていく授業なので、とても有意義な時間を過ごせると思います。サークル以外で人間関係を増やしたいという方にもお勧めします。

唐澤ゼミ14期生(2012年卒)

木下 まゆみ 教授

きのした まゆみ

北海道出身。お茶の水女子大学にて博士(人文科学)を取得。専門は、教育心理学、社会心理学。子どもと一緒に戦隊ヒーローのアクションショーに。大ジャンプあり、空中戦ありの大迫力で、大人の方が喜ぶ結果に…。



●心理学 ●教育心理学 ●日本語リテラシー ●教育測定および方法
●教職実践演習(中・高)

心の研究方法

心理学の研究って、どんなものだと思いますか？私が行った研究を例に考えてみましょう。教育心理学の研究として、テキストに関する討論を調べたものがあります。事前の予想として、討論における発言には、自発的になされる発言と他者の発言に関する応答(質問、同意、意見要約)の2種類があり、自発的発言は協同学習への動機づけ(つまり、やる気のことです)を、応答的発言はテキストの理解度をそれぞれ表すだろうと予想しました。そして、2種類の発言数を計測し、予想を裏付ける結果を得ました。

どうです、みなさんのイメージと一致しましたか？それとも、思っていたよりも地味でしたか？「地味」なのは私のせいではなく(たぶん)、心理学とは日常的な「行動」を「数値化」することで、心に迫る領域だからなのです。心の働きや作用について、「こうだ!」と断定的に論じることは心理学ではありません。

「心」なのに、数値に置き換えるのはどうも…と抵抗を覚える人もいるでしょう。しかし、「数」は誰にとっても、いつでも同じ「数」です。このような、数の客観性という特質は、心の研究で大いに役に立ってきました。例えば、討論の授業で、各メンバーをどのように評価するか、という疑問に、冒頭の研究は役立ちます。特に、テキストの理解度という「心」を知りたい場合、他のメンバーに質問ができるかどうかをみるのは有効です。発言という「行動」なしで、その心のうちを知ろうとすれば…大変難しいですね。目に付きやすい「自発的な発言」を重視して、「よく話すから、よく理解しているだろう」と勘違いしてしまうかもしれません。心は目に見えないゆえに、誤った認識や曲解も起こりやすいのです。心の働きを、ありのままに正しく知りたいと望んだからこそ、先人たちは「行動」や「数」を取り入れました。そのおかげで、心理学の研究は飛躍的に発展します。

ゼミでは、このような心理学の「あり様」を理解することに大きな目的を置いています。難しそうですが、「不思議現象」や「意志力」など、学生が関心を持てる題材を用いて、楽しくかつ真面目に学ぶことを心がけています。



ゼミ生の
ひらき

心理学は夢を叶える一つ的手段かもしれません。現在、私は会社経営の中で心理学的分析の有効性を痛感しています。先生が人生の様々なヒントをご教示して下さい、仲間のゼミ生が知恵を貸してくれた3年間は、今の私の生きる糧となっています。良き恩師・仲間に出逢えて新しい人生の一步を踏み出せた事を感謝しています。

(内藤ゼミ1期生 ゼミ長 小倉 丘礼)



國分 功一郎 准教授

こくぶん こういちろう

1974年生まれ。千葉県出身。2008年4月より経済学部講師。専門は、17世紀哲学、フランス現代思想。東京大学博士（学術）。著書に『スピノザの方法』（みすず書房、2011年）。『暇と退屈の倫理学』（朝日出版社、2011年）。

●倫理学 ●学問研究入門 ●哲学 ●哲学特講 ●社会哲学

哲学は難しいか

◆ 研究テーマについて

専門は哲学です。特にフランスの現代哲学を研究しながら、現代社会の中で我々がどう生きていくべきかについて考えています。

よく学生の皆さんから「哲学は難しそう」と言われます。もちろん哲学は簡単でも単純でもありません。ですが、それは「役に立たない」ということではありません。哲学は概念を使ってものを考えていきますが、この概念というものは私たちのものの見方を変え、新しいものを発見させてくれます。

例を挙げてみましょう。パスカルという哲学者が「気晴らし」について語っています。人間は気晴らしを求める。なぜなら人間は部屋の中で一人でじっとしていることができないからだ……。これだけのことから実に多くのことが考えられます。なぜじっとしていられないのか？それは人間が何か余計なエネルギーを抱えているからです。人間はそれを消費しなければならない。気晴らしはそのためのものですが、その目的は余計なエネルギーを使い切ることなのですから、気晴らしとして行われることは実際には何でもよいことになる。我々が「これが好きだ」と思ってやっていることも、実は単なる気晴らしかもしれない。でも、なぜ私はこれを「好きだ」と思うのだろうか？何かを好きであるとはどういうことだろうか？「気晴らし」の概念は我々に実に多くの問題を提起します。哲学は概念をもとにして様々な問題について考えていくのです。

◆ 担当科目について

担当の授業は、様々な哲学者の考えを紹介しながら、一つのテーマを追求するという仕方で行っています。最近では、暇と退屈、戦争といったテーマを取り上げています。

◆ ゼミの内容について

ゼミは哲学の原典を精読することに主眼を置いています。本を読みながら、概念でものを考えていく訓練をしていきます。また、就職支援にも力を入れています。哲学の訓練は実社会でも様々な場面で役に立ちます。何かを理解し、説明するにあたっては概念が大きな役割を果たすからです。「哲学のゼミなのに就職がいい」のではなくて、「哲学のゼミだから就職がいい」、そんなゼミを目指しています。



ゼミ3・4年合同なのですが、毎回濃い議論が交わられています。國分先生のお話はどれも興味深く、ゼミ生一同刺激されまくります。飲み会とのギャップもまたおもしろいです

2015年卒業生

今野 昌信 教授

こんの まさのぶ

学部卒業後、銀行、大学院、研究所を経て大学に勤めるようになりました。「怠け者の天国」という絵が好きです。バスケ、水泳など、少しがじりました。最近運動不足です。



●国際金融論Ⅰ・Ⅱ ●金融論Ⅰ・Ⅱ ●Reading E/MⅠ・Ⅱ

講義とゼミナール

◆ 担当講義科目

「金融論Ⅰ」「金融論Ⅱ」「Reading E/MⅠ」「Reading E/MⅡ」「国際金融論Ⅰ」「国際金融論Ⅱ」を担当しています。「金融論Ⅰ」は前期開講、2～4年生が受講できます。「金融論Ⅱ」は後期開講、同じく2～4年生が受講できます。平成21年度までは前期集中、全学年配当の「金融論」を担当していました。4単位ですが、木曜日に1コマ、金曜日に1コマと週2日2コマ拘束されることに不満の声が大きく、前期と後期をバラバラに受講できるようにしてほしいと要望ができましたので、そのように変えました。「金融論Ⅰ」だけ、あるいは「金融論Ⅱ」だけを受講することもできるし、前期と後期に続けて受講することもできます。せっかく2つに分けたので、それぞれの特色を出そうと考えています。2013年度から「金融論Ⅰ」は金融の「制度と歴史」を、「金融論Ⅱ」は「理論と政策」をテーマにしています。高校時代に歴史が得意だった人は「金融論Ⅰ」の授業で、渋沢栄一や高橋是清などの名前がでてくると嬉しくなるのではないのでしょうか。また、図表や数字が好きな人は「金融論Ⅱ」の授業で、グラフなどで表現される金融取引の大きさと躍動感を実感するのではないのでしょうか。「国際金融論Ⅰ」その他の講義科目は3・4年生が主に受講します。1年生の皆さんとは「Reading E/MⅠ」と「Reading E/MⅡ」でお目にかかりたいと思います。

◆ ゼミナール

「基礎演習」「演習Ⅰ・Ⅱ(合同)」を担当しています。2年次後期から始まる「基礎演習」では、基礎的な統計学を学び、同時にExcelを使いながら統計解析を練習します。「演習Ⅰ・Ⅱ(合同)」では、3年次前期にマクロ経済学、後期にミクロ経済学をじっくり学びます。同時にグループ研究を行います。今年のテーマは「先端技術の製品化」、医薬品、自動車燃料など新製品開発競争をウォッチングしています。国際競争の時代です。ゼミでは「国際的な経済活動」を意識しながら研究をしています。

◆ 研究テーマ

「金融システムと経済パフォーマンスや資本の移動」に関心を持っています。



ゼミ生の
ひなこ

今野ゼミでは、経済分析の方法を習得し、現実を理論的に理解することを目指しています。先生はゼミ生に対して、それぞれの関心を持つ分野について、丁寧な指導をしてくれました。とてもありがたいです。私はマクロ経済学などの学習にあわせ、放送・通信の技術革新と市場について1年間報告を行いました。とても勉強になりました。(2010年 本学大学院経済・経営研究科修士入学)

副 稿



佐々木 茂 教授

ささき しげる

1991年高崎経済大学専任講師、経済・地域政策両研究科担当。98年商学博士。01年教授。専門は流通システム、マーケティング。行政各種委員担当、街づくりをサポート。国際交流委員長、地域政策研究センター長、地域連携戦略室長、キャリア支援センター長歴任。

●商学総論 ●マーケティング

マーケティング——基本は現場！

◆ 研究テーマ

流通システムの研究で得られた社会志向性というマーケティングの知見を応用すべく、現在は地域マーケティング全般を現実の地域づくり(まちづくり、農商工連携、観光)のサポートの場面に取り入れながら研究しています。リサーチは、日本国内のみならず、欧州や北米、ニュージーランド、アジアまで幅広く対象にしています。

◆ 担当科目

マーケティングと商学総論。マーケティングは、相手の立場に立つて考えることを基調に、Product, Promotion, Price, Place (Distribution Channel)の最適な組み合わせを考え、市場に提供する諸活動です。企業間、企業と政府や病院・学校あるいは農業やツーリズムと消費者の取引関係が考察対象です。新製品開発から街づくりまで、取引の対象がある限り、すべての分野に応用できるのがマーケティングの強みです。講義では地域企業とコラボレーションしており、受講者には実際の新製品開発に取り組んでもらいます。

◆ ゼミ

社会科学の基本は現場にあります。まず実物を見て何かを感じることを、しかる後に書物や理論に触れること、そして自分がこれだと確信できた専門分野や指導者に出会えたなら、そこから徹底的に理論を学んで下さい。自分を「知りたい虫」にしてしまうことが、専門分野の興味を持続させるベストの方法です。ゼミ活動は、地域(川場、渋川、伊香保、富岡)との関わりの中で具体的な活性化に取り組み、日本マーケティング協会主催10ゼミ討論会、ヤンマー論文に投稿・入賞しています。

佐々木ゼミに出会っていなければ今の僕はありません。東京の学生に憧れ、不満ばかり言っていた僕を変えてくれたのはこのゼミでした。決して課題を与えてくれるわけではありませんが、自分から積極的に行動を起こせば必ず答えが返ってきました。社会人としての基本を教えて頂いたと思います。佐々木先生は新しいものを創っていく上で、お手本のような存在です。ゼミ生は仲間であり、ライバルであり、そして家族のような存在です。1+1=2でなく、3にも4にもなる、それが佐々木ゼミだと思います。

(佐々木ゼミ12期(2004年卒) ㈱電通デジタルビジネス局業務推進部 入澤 健太郎)



佐々木ゼミは「つながり」を大切にしているゼミです。卒業から17年経ちますが、先生から「君の会社の施設見学できる?」と言われ社内調整の上、学生を吾妻発電所に招待しました。合宿への参加をはじめ、OBは「現役生の為」に協力するのが佐々木ゼミの伝統。現役生は、先生やOBの熱意に応えようと一生懸命学び、今も昔も佐々木ゼミは、パワーを発揮しています。

(佐々木ゼミ3期生(1995年卒) オリックス㈱ 日比野(丸下)由佳)



佐藤 敏久 教授

さとう としひさ

＜略歴＞神奈川県生まれ。明治大学商学部卒、明治大学大学院商学研究科 修了（博士（商学））、2007年高崎商科大学流通情報学部専任講師、2010年商学部准教授、商学研究科准教授、を経て、現職。
＜趣味＞料理、音楽を聴くこと、演奏すること、読書。＜座右の銘＞「行蔵は我に在す。毀善は他人の主張、我に与らず我に聞せず」勝海舟の言葉。＜学生に一言＞色々なことに挑戦して、沢山、成功や失敗をしてください。それが5年後、10年後に糧となって、人間形成に活きてきます。そのための協力は惜しみません。

●マーケティング・コミュニケーション ●マーケティング・リサーチ ●消費者行動論

ブランディングにおける消費者行動の変容と競争優位に関する理論的・実証的研究

主として、マーケティング領域である、消費者行動論、マーケティングリサーチ、マーケティング・コミュニケーションを担当いたします。

マーケティングは簡単に言うと「売れる仕組み」です。「売れる仕組み」は販売です。「売れる」ということは、企業側から考えれば、「ある程度売れてもらわなければ困る」ことを指しています。それ故、これを事前に行うには、さまざまな学問領域の事柄を理解していないと、いけません。マーケティングを学ぶということは、大きな枠組みで言えば、経営学、経済学、心理学、社会学、会計学、歴史、数学、情報学などを学ぶことであり、簡単なことではありません。

私の研究テーマは、大きく分けて、2つです。1つは、消費者が「これはブランドだ」と思ってくれ、購買してくれるまでのプロセスの間に、いくつかの段階があり、その段階に応じて、企業は消費者とコミュニケーションをとる必要があります。そこで明確にしたいのは、どうしたら、これはブランドだと思ってもらえるようになり、購買に至るまでに、企業は何をしなければならないか、です。ひとくちに、消費者、顧客といっても、個人個人で、製品やサービスに対して思い入れや感情など、段階があります。「こうすれば誰にでもブランドと思ってもらえる」という法則があるわけでもありません。

もう1つは、「企業の業績差を決める要因は何か」ということです。同じような製品やサービスをしている企業は、世の中にたくさんあります。でも、成功しているところ、上手くいっていないところ、成功していたけれど、業績が悪くなってしまったところ、様々です。何がこれを決定しているのでしょうか。

これらを解明するには理屈だけでは無理です。それは「企業特定の」だからです。だから、成功している企業のまねをしてもうまくいくとは限りません。それ故、実際に企業行動について調べ、話を聞くという定性的調査やエスノグラフィー、また、定量的に調査を重ねるしかありません。

これが私の大きな研究テーマであり、同様のことを研究している研究者は日本に限らず、世界中にいます。大学教員をしている間に、爪の先のようなものでも貢献できるように成果を出したいと考えています。



授業は例えを用いてわかりやすく！ゼミでは授業では見せないお茶目さを発揮。

そんな先生です！ゼミ生との仲もとても良く、マーケティングに興味がある方は先生の授業を受けておくことをオススメします！

ゼミ1期生

清水 さゆり 准教授

しみず さゆり

早稲田大学大学院商学研究科博士後期課程満期退学。修士(商学)。早稲田大学商学学術院助教、中央学院大学商学部専任講師を経て、2012年4月1日より現職。



●国際ビジネス概論 ●多国籍企業論 ●国際経営論

“遠くて”“近い”「国際ビジネス」を考える

◆ 研究テーマ

研究テーマは「国際ビジネス」。企業の国際化、国際経営や戦略について日本企業を中心に調査・研究しています。国際ビジネスというと、トヨタやパナソニックなど規模の大きな企業の活動が思い浮かぶかと思いますが、企業規模には拘らず、技術や技能があり、それを活かしている企業の活動に関心をもっています。

多くの企業は必ずしも有名ではないかもしれませんが、実は素晴らしい気概をもった経営者と従業員がイキイキと働いています。ただ、成熟した日本で、既存の事業をそのまま行っているだけでは企業を存続、成長させることは極めて難しい場合も存在します。その際、海外へ出ていくとか、新しい事業を始めるとかいったことが考えられます。そうした現象とその現象の背景にある「何か」を探ることが私の研究の焦点です。

「足で書く」をモットーに、自分で「行って、見て、感じて、考える」ことを大切にしています。以前訪問したある造船所の社長はとて大きくゴツゴツした、一生懸命仕事をしてきた人の手をしていました。社長は「船の形は変わっても、木造に拘る。その時々の変化に対応し、自分たちの技術をつかって何ができるか」ということを常に考えていらっしゃるそうです。従業員3名の小さな企業ですが、海外からの引き合いもあるそうです。技術と技能を蓄積し、変化に対応しながらイキイキと働いていました。今夏訪問したベトナム、タイに駐在している人たちの中には、イキイキとポジティブに仕事に取り組んでいる方が多いことに気づきました。そうした方々はもれなくよい成果を得ている、あるいはよい成果に向かっていくようにみえました。ここまでは、「行って、見て、感じる」部分です。このあとの「考える」ことがとりわけ大切です。ただし、それが大変困難な作業なので、いまでも日々格闘しながら、企業の活動を調査・研究しています。

◆ ゼミ

ビジネスに関心を持ち、そこで起きている事象について自分で考えることが大事です。開講4年目の新しいゼミですので、これからゼミ生とともにゼミをつくっていくこととなります。論文や書籍を読んで、発表して、議論するという学習方法のみならず、企業訪問やゼミ内外での活動を通じて、「考える」癖をつけていきます。



清水ゼミでは、主に国際ビジネスについて学んでいます。国境を越えて事業を展開する企業の活動について理解を深め、幅広い視野を得られます。また、ゼミの活動も幅広く、普段は輪読を行っています。ゼミ活動の上で分からないことや行き詰まるがあると、清水先生が丁寧にアドバイスしてくれます。その為、有意義な時間を得られること間違いありません!!

(清水ゼミ1期生)



関根 雅則 教授

せきね まさのり

1997年明治大学大学院博士後期課程単位取得。同年高崎経済大学経済学部にて講師として就任。2009年から教授。現在の担当科目は、イノベーション論、ベンチャービジネス論、経営戦略論、戦略的経営論。

●イノベーション論 ●ベンチャービジネス論 ●経営戦略論 ●戦略的経営論

イノベーションはなぜ不可欠か？

◆ 研究テーマおよび担当科目

私の研究テーマを一言でいうと「企業がいかにか効果的なイノベーションを遂行するか」です。イノベーションとは、直訳すると「革新」とか「刷新」という意味になりますが、企業との関係で用いる場合、「新しい製品やサービスの開発」、「新しい生産方法の確立」、「新しい市場の開拓」などといった意味になります。これらの活動は、企業の存続あるいは発展にとって極めて重要、というより、むしろ不可欠です。例えば富士フイルムという会社が、写真用フィルムだけを生産・販売していたらどうなっていたでしょう。おそらく現在のような規模まで成長していなかったと思います。写真用フィルムで培った技術を応用し、液晶ディスプレイ用高機能フィルムや医療機器、化粧品などを開発し販売しているからこそ今の同社があるのです。イノベーションというのは難しい話ではなく、この事例のようなことを意味します。私は、こうしたイノベーションが企業においていかにうまく実現されるかについて研究しています。

ところで、私の担当科目は4つあります。それは「イノベーション論」、「ベンチャービジネス論」、「経営戦略論」、「戦略的経営論」です。イノベーションについては、上述したとおりですので説明を省きます。ベンチャービジネスとは、イノベーションを遂行する新興の中小企業を意味します。講義では、ベンチャービジネスの概念や支援機関、さらにはそのマネジメントなどについてお話しします。経営戦略とは、企業においてイノベーションの指針となるものです。講義では、先の事例のような企業による新規事業の確立や企業が同業他社との競争に勝つための方策などについてお話しします。戦略的経営は、戦略と組織の関係をテーマとします。講義では、イノベーションや戦略を創出ないし実行しやすい組織マネジメントのあり方などについてお話しします。

なお、私の担当するゼミですが、何をやっているのかについて簡単に説明すると、2年次には、専門分野に限定せず経営学全般（経営学の基礎）について研究します。3年次には、専門分野の教科書に加え、「日経ビジネス」という雑誌を使って実存する企業の事例を研究します。4年次には、それぞれのゼミ員が自分自身で研究テーマを決め卒業論文制作に取り組みます。みんな和気藹々とやっています。



ゼミ生のひとこと

関根先生は博学で、我々学生にも優しくとても頼りがいのある教授です。そのためゼミ中には発言や意見が活発に飛び交います。質問や疑問にも関根先生は様々な事例をまじえ、わかりやすく解説して下さいます。また勉強以外の相談にも乗っていただいたり、信頼も厚い先生であり、ゼミ生であることを誇りに思っています。

関根ゼミ17期ゼミ長

高松 正毅 教授



たかまつ まさき

専門は言語学・日本語学および高等教育論『新選組』と「白虎隊」を愛する。
 尊敬する人物は「榎本武揚」「土方歳二」ら多数。嫌いなものは「薩摩と長州」。
 誓いの言葉は「臥薪嘗胆」「捲土重来」。
 入場テーマ曲「アイ・オブ・ザ・タイガー(サバイバー)」、「セパレイト・ウェイズ(ジャーニー)」、「ターミネーターのテーマ」。愛唱歌:「見果てぬ夢(ラ・マンチャの男)」。

●論理的思考 ●日本古典研究 ●日本語リテラシー上級I ●日本語リテラシーI・II

研究テーマは「言語表現技術」です

◆ 高松ゼミとは

みなさんの多くは、小中高と「国語」を12年間も学んできたのに、大勢の人の前で堂々と話せないし、社会に通用するきちんとした文章も書けません。友人とのおしゃべりには不自由はしなくても、日本語力が低いのです。そして英語ができないのも、数学が苦手なもの、実はこの日本語力が低いからです。日本語力に欠ける社会人は、仕事面での成功も望めはしないでしょう。

高松ゼミは、何かを「学ぶ」ゼミではありません。高松ゼミは「日本語の運用能力」を「鍛え上げ、身に付け」るゼミです。日本語の運用能力とは、日本語を自由自在に扱える能力であり、大勢の人の前で堂々と話せ、社会に通用するきちんとした文章がすらすらと書ける能力です。

話せるようになりたいければ、話さなければなりませんし、書けるようになりたいければ、書かなければなりません。つまり、鍛え上げ、身に付けるために必要なのは、一にも二にも「練習」です。

何も話したくないし、何も書きたくないという状態では、それこそお話になりません。ですから、まず、話したくなる、書きたくなる必要があります。では、話したくなる、書きたくなるためにはどうすれば良いのでしょうか。

「ねえ、聞いて」と人が言うとき、そこには必ず語り伝えたい内容があります。ここで「学び」が必要となります。

◆ ゼミでは

人に伝えたい、言って聞かせたい内容を、あらかじめ自ら進んで学んでもらいます。調べ、学び、知ることによってのみ、述べるべき内容はかたちづくられていくからです。

「学ぶ → 口頭発表(プレゼン)する → レポートにまとめる」という一連の行為を1~2ヶ月単位で繰り返し、学期ごとにレポートを作成します。口頭発表するために勉強し、口頭発表したものは必ずレポートにまとめ、次のレポートをまとめるためにさらに勉強する。これを、ひたすら繰り返します。

勉強する内容はすべて自分で決めてOK。研究手法さえ正しければ、アニメやマンガ、ライトノベルなどを研究対象にすることもできます。

使い物にならない勉強は、無意味・無価値です。どうかほんとうに好きなことを好きなだけとことん学んでください。

経済大学の経済学部にも所属しながら、経済学の中心からは少し離れた分野で卒業論文を書きたいと考える人の入ゼミを心よりお待ちしております。



高松ゼミは、好きなこと(他のゼミでは研究できないテーマ)を自由に学べるゼミです。自分でペースを作る自主性や積極性が求められ、行き詰まっても自力で解決しなければなりません。やりたいことがはっきりしており、アニメやフィギュアなどのサブカルチャーをはじめ、さまざまなことに好奇心旺盛な人にピッタリのゼミです。

高松ゼミ9期生(2011年卒) 藤澤 桃美

谷口 聡 教授

たにくち さとし

東京生まれ群馬育ち。高崎経済大学卒業。明治大学大学院法学研究科修了。前任の大学は宮崎産業経営大学（法学部）。現在、高崎経済大学教授。2014年度にミュンヘン大学（ドイツ）にて在外研究。趣味は、散歩（ウォーキング）と山歩き。温泉が大好きな人間！



●債権法総論 ●債権法各論 ●民法総則

民法を通じて日常生活を見ると……

私の教育研究分野は法律です。中でも専門としているのは「民法」といわれる法律です。そして、研究テーマとしているのは、民法の中における「不法行為」といった領域に属する問題や判断能力が不十分な人が社会に参画していくための「成年後見制度」といった制度です。本学の経済学部で開講されている私が担当している民法科目には「現代民法総論」「債権法総論」「債権法各論」があります。法律と言うと条文を暗記する学問ではないかと思ひ違いをなさる方もおられるかもしれませんが、そうではありません。法学の中心的課題は、社会で起こる様々な事象、とりわけ、紛争に対して、制定されている法律条文をいかに工夫して適用して問題の解決を図っていくかということにあります。民法は数多くの法律の中において、特に我々の日常生活と関わりの深い法律です。民法は、契約や損害賠償、親族や相続、時効に関する規定が置かれています。法律と言うと堅苦しいイメージを持つ人もいますが、民法を知っていると日常生活で起こる出来事の一つ一つが興味深いものになります。コンビニでおにぎりを買えば「売買契約」、友達にお金を貸せば「消費貸借契約」、講義時間中となりの席の友達にペンを貸せば「使用貸借契約」、交通事故に遭えば「損害賠償」が問題となり、親族に不幸ができれば「相続」が問題となります。講義では、できるだけこのような日常生活の具体的事象を話題に取り上げながら、法律の理論を説明しています。

ゼミにおいては、法理論的な視点からの問題解析のアプローチをする方法を学びつつ、将来、皆が社会へ出たときに、安全・安心な日常生活を送ることができるような知識が身につけられるよう学習をしています。このように民法を学習することは毎日の生活を豊かなものにすると同時に、紛争・問題解決能力を身につけることに繋がります。また、資格試験や公務員試験等では、民法が重要なウエイトを占めるものが少なくありません。このため、ゼミでは勿論のこと、講義でもその点に配慮して説明をしています。経済学部の皆さんが、経済学や経営学を修められるのは当然ですが、「取引社会」「契約社会」の基盤をなしている民法を学んでみることも、皆さんの将来にきっと役立つと思いますよ。



ゼミ生の
ひとこと

谷口先生の講義は、経済学部ながら民法について学ぶ少し変わった講義です。経済以外の事も学んでみたいという人にはとてもおすすめしたい内容です。

また、谷口先生は見た目では真面目で固い先生に見えますが、意外と気さくで面白い、ユーモアのある人だと思います。民法に少しでも興味のある人はぜひ先生の講義を受けてみてください。

谷口ゼミ（2012年卒） 星野 雅人



土谷 岳史 准教授

つちや たけし

早稲田大学大学院政治学研究科博士後期課程単位取得退学。2009年4月経済学部講師を経て、2012年4月より経済学部准教授。専門はEU（欧州連合）の政治。趣味は音楽鑑賞（激しい音楽が好き）やサブカル批評を読むこと。

●国際関係論 ●政治学 ●学問研究入門 ●政治学特講 ●日本政治

EUを参考に、国民国家とは別の仕方

◆ 研究テーマ

私はEUを事例に、ネーション-ステートとは異なる秩序について考えています。ネーション-ステートとは何でしょうか。日本には古来から続く日本人=ネーションがあり、その日本人が作ってきた日本という国=ステートもまた連綿と続いていると考えられています。実際には近代的なステートが作られたのは17世紀ごろですし、ネーションは19世紀以降、一般化していったものです。ですが、現在も日本人かどうかが一番の問題になるように、「我々」と「彼ら」を分ける基準はこのネーション-ステートの神話なのです。この問題は何でしょうか。日本にも外国人がたくさんいます。日本民族以外の日本人もたくさんいます。このような状況下で、同質的な人々を前提として秩序を考えていくことは非現実的です。望ましくありません。様々に異なる人々がどのようにともに生きていけるのか、これは現代社会の大きな課題です。EUはヨーロッパの28の国が作っている超国家的な秩序です。私はこのEUを研究することで、日本も含めた現代社会のよりよい秩序のヒントを得ることができるのではないかと考えています。現在は、EUの移民政策を中心に、人がどのようなカテゴリーに振り分けられ、包摂と排除が行われるのかを研究しています。

◆ 担当科目

政治学：近代的な政治体制の確立と、自由と平等について考えていきます。
国際関係論：戦争を軸にネーション-ステートの誕生から現代の国際関係まで検討していきます。

日本政治：日本の戦後政治を振り返り、現代日本の政治を考えていきます。

政治学特講：デモクラシーを中心に、望ましい秩序について研究していきます。

学問研究入門：テキストの読み方、研究の仕方などを学んでいきます。

◆ ゼミの内容

政治学・国際関係論のゼミです。ゼミ生の興味関心は多様なので、学問的立場や問題意識の異なる著作を複数輪読していきます。基本的な読解力や議論の仕方はもちろんですが、これにより物事の見方を学んでほしいと考えています。3年の後期からは各自の卒論へ向けて研究報告をしてもらい、議論の中で論文を仕上げていきます。



基礎演習ではテキストの読み方を学び、3年生以降のゼミでは多様なジャンルの文献の輪読と卒業論文報告を行っています。卒論テーマ選択は自由度が高く、自分の興味のあることならどんなテーマでもOKです！ジャンルに囚われない研究を行いたい人におすすめのゼミではないでしょうか。

土谷ゼミ4期生

永田 瞬 准教授

ながた しゅん

1980年東京都生まれ。一橋大学大学院経済学研究科博士課程修了。博士(経済学)。一橋大学特任講師、福岡県立大学専任講師等を経て、2013年に高崎経済大学経済学部に着任。経営労務論、経営学史、人的資源管理等を担当。



●経営学史 ●人的資源管理 ●経営労務論

日本型雇用システムの転換と 地域経済の持続可能な発展

◆ 研究テーマについて

1990年代初頭まで「日本型雇用」や「日本的労使関係」とか呼ばれた日本の雇用システムは、大きな転換点を迎えています。若年層を中心にパート、アルバイトなど非正規労働者が増大しています。地域経済では大企業の工場撤退や不安定雇用の増大によって、若年層が地域外に流出しています。人口の高齢化も加味して、地域経済は担い手の不足、持続可能な再生産の危機など深刻な状況に陥っています。

私は岡山県・広島県を中心とする繊維産業の人材育成について調査・研究を進めています。この地域は伝統的に足袋や学生服の製造で地場産業としての地位を確立してきました。日本で初めて国産ジーンズを作ったのも岡山県倉敷市児島地区だと言われています。しかし、1990年代以降本格化する東アジア諸国経由の安価な製品の流入は、従来型の地場産業に大きなインパクトを与えています。岡山県や広島県では、ユニクロ型の大量生産ジーンズに負けない、付加価値のあるプレミアムジーンズづくりで活路をみだしています。

私の当面の課題は、桐生産地や福井産地も含めた繊維産業の比較研究を行なうことです。中心的な課題が雇用問題にあることは言うまでもありません。労働者が保持する独自の技能や技術にも強い関心があります(ものづくりの基盤は労働者固有の技能です)。グローバル化する日本経済の中で、地域産業が元気になる、あるいは新たな雇用が創出される条件を探っていきたいと考えています。

◆ セミの内容

1期生は、森岡孝二『就職とは何か』岩波書店、中西新太郎編『キーワードで読む現代日本社会』旬報社などを輪読しました。また岐阜大学との合同ゼミも実施しました。「知的好奇心」を大事に、「ゼミを通じて人間的に成長すること」を目指します。

ゼミ生の
ひとこと

経営労務論では、主に日本の社会構造の問題点について学びました。例えば、「新規学卒一括採用」という言葉は聞いたことがあると思います。なんとなく思い浮かべることはできるけれど・・・という曖昧な感じを解消してから問題点を考えていくので、とても理解しやすいです。

でも、1番のポイントは先生が若いこと!年齢が近いので親近感を持つことができ、良い意味で大学の先生というお堅いイメージを感じさせません。

永田ゼミ1期生 安井 雅也

名和 賢美 准教授

なわ けんみ

高卒まで山形県酒田市で、その後は小樽と札幌で1年を、さらに東京で18年を過ごす。群馬県民となり10年目を迎えるが、いまだ車の免許も取らず、三人乗り自転車愛用。自他共に認める「育メン」である。



●社会学 ●西洋古典語の世界 ●日本語リテラシーI・II

祝 日本語リテラシー科目開講三年目!!

◆ 研究テーマ

民主主義についての考えをきちんと見つめ直し、どのようにすればその理念を日本の社会で実践に移すことができるか、ということを生涯かけて調べようとしています。今はまだこの研究のスタート段階で、現代民主主義の起源である古代ギリシアについて研究しています。 α (アルファ)、 β (ベータ)、 γ (ガンマ)、……という2500年以上も昔のギリシア語の文字で書かれた書物を読み解き、ギリシア人の民主主義についての考えを探っているのです。

そしてもう1つ、調べていることがあります。それは、皆さんと大いにかかわりのあることで、大学における教養教育の役割です。特に、1年次前期における教養科目の教育内容について考察しています。2014年度からスタートした日本語リテラシー科目も、高崎経済大学での7年間の教育実験をもとにした研究成果の1つです。

一見すると全く異なった研究テーマですが、若者(=近い将来の主権者)に対する市民教育は、実は民主主義研究における最重要課題の1つなのです。

◆ 担当科目

「西洋古典語の世界」

いくら流暢に英語が話せても、話しの中身があまりに幼稚では悲しすぎます。逆に、たどたどしい英語でも、洗練された内容があれば、一目置かれるものです。その1つの大きな武器となり得るのが、古代のギリシア語とラテン語の素養です。本科目では、これらの言語の世界に皆さんをいざないます。

「社会学」

例年、教職課程で履修せざるを得ない学生が受講生の約7割を占めます。一般学生の割合の低さは、毎回ヒイヒイ言っただいにも苦労するほど、受講のシンドさトップクラスの授業だからです。履修には、くれぐれもご注意を。

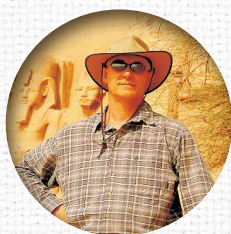
◆ ゼミの内容

2年次には、各方面で高い評価を得ている「言いたいことを分かりやすく伝える基本の型」を修得すると同時に、プレゼンテーションの古典的な理論を学びます。3・4年次には、現代社会の諸問題の中からどうしても改善させたいと強く願うことを卒論のテーマに選び、調査研究を進め、卒論発表会の場で具体的な改善策を提言します。



☆間く練習のメモの取り方、書く練習のルールなど、とてもためになった。
☆意外と今までできていたと思ってた日本語の扱い方が難しいもので、大変勉強になった。
☆将来にとっても役立つと思う。他の大学の人が学んでいないことを学んでいて、今後十分に活かそうという優越感がある。

(2015年度「日本語リテラシーI」受講生)



Bufton Nicholas 教授

ばふとん にこらす

I was born in England, and I came to Japan in 1985. I studied Civil Engineering at Thames, now Greenwich University, and Teaching English for Specific Purposes at Aston University. I have had many interesting experiences, including writing high school textbooks and the Center examinations.

- Advanced Oral Communication I ●Advanced Oral Communication II
- TOEFL I・II ●Practical English 3・4

Teaching English as a Second Language

What is the best way to learn English? This is probably the question I am most asked by students, and the most difficult one to answer. I feel I am better qualified to answer what doesn't work, rather than what does work. However, what I can say is, try to understand how you learn best. What works best for you? Know your strengths and weaknesses, and choose a learning style that suits you.

If you have entered this university then you probably already know what method of learning vocabulary and grammar suits you. So what you need to do now is to use it or lose it. And I don't just mean using English in class! What's wrong with texting a friend in English or asking a few simple questions about their weekend in English? Even better, why not teach what you have learned to another person. Though to be honest, I will often require you to do this in my lessons, as it is a very efficient teaching method.

During the past 29 years or so, I have learned many things about the problems students have when learning a new language. And the two problems I always seem to encounter most are: embarrassment and attitude. Embarrassment – I understand very well. Even after so many years here I get very nervous speaking Japanese. My mouth dries up, and my mind often goes blank. But thinking, 'What's the point? I'll never need it.' limits your options as you never know what life will throw at you. What you learn may not be of much use now, but it may be in the future.

Many years ago when I was studying civil engineering, I took a course covering California's building codes regarding the design of earthquake resistant buildings. I was criticized by some of my friends for what they thought was a pointless course. After all, there are no earthquake regulations in England as the few earthquakes that we do have are so small that they are barely detectable. And for twenty or so years, I never thought about what I had learned in those lessons. Then in 1999, I decided to build a house here in Japan.

As my wife and I didn't have a lot of money we decided to do it ourselves. I made the plans, and had them approved by the city office. I laid the foundations, built the frame, the roof, the ... Well, everything except the electrical wiring, as I didn't have an electrician's license. Oh, and I calculated the earthquake resistance of the house to prove it met Japanese safety regulations. Which goes to show how you never know what will be of use to you in the future.

久宗 周二 教授

ひさむね しゅうじ

高崎経済大学経済学部 卒業、日本大学大学院生産工学
研究科 管理工学専攻博士前期課程修了、北海道大学大
学院水産科学研究科 博士(水産科学) 授与。



●労働安全衛生 ●産業・組織心理学 ●人間関係論

科学技術の発展と安全

◆ 研究テーマ

現在興味があるテーマでは、人間の行動分析です。現代日本の様々な日常生活を中心とした様々な場面を、冷静に観察することによって、今までは気付かなかった、新しい知見が得られます。

また労働安全を推進するための自主改善活動についての研究であり、水産省の補助事業として全国漁業就業確保育成センターの協力を得て、全国の漁業者にカイゼン活動講習会を行っています。

その他、組織事故の分析、労働災害の研究、街のバリアフリー、地産地消による中心市街地の活性化などの研究も行っています。

◆ ゼミでの活動について

産業心理学や労働安全衛生の視点を学び、知識を習得するばかりではなく、それを実践で応用し、様々な問題の解決を図ります。そのために必要に応じて、実地調査、工場見学、自主ゼミを行っています。特に、学生には行動する力や創意工夫力、問題解決能力などを養ってほしいと考えており、様々なことを実体験できるフィールドワークを重視しています。これは本学の目指す“実学の精神で学生を教育する”にも通じます。

特に毎月第三日曜日に生産者、中心市街地の商店街と協働で、高崎の中心市街地で農産物を売る「たかさき昼市」の企画・運営に取り組んでいます。ゼミの学生が中心となり、ポスターやチラシを作成し、楽しめるイベントなども企画しています。

産学協同による活動など、大学時代にしかできない貴重な経験を得るために、学生とともに積極的に地域活動へ参加したいと考え、学内の教育・研究と、学外での社会貢献活動が一体となって活動しています。

ゼミ生の
ひとこと

久宗ゼミでは、教室での輪読や発表に加え、工場見学や「たかさき昼市」の企画、運営といったフィールドワーク活動を多く取り入れています。ゼミでは、教室での講義では学べないことも多くあり、とても良い経験になります。ゼミの活動は、ゼミ生が一丸となって活動しており、大学時代の思い出に強く残るものになりました。

久宗ゼミ1期生 福岡 光成



平井 裕久 教授

ひらい ひろひさ

学部では工学部で時系列解析を、大学院では会計学、応用統計学を学び、その後企業経営にも携わりました。一貫性のない道のりを歩んできましたが、この“無駄”を研究や教育に活かしていきたいと思っています。

●原価計算論 ●経営分析 ●企業と会計D

会社経営に必要な会計知識

Q ◆「研究分野もしくは、担当科目の魅力を教えてください。」

会社では「ヒト」「モノ」「カネ」「情報」という要素が重要となります。そのうち、会計学では、特に「カネ」の視点から考えていきます。もちろん、何事においても根底にあるのは、必ず「ヒト」であると思っています。しかし、実際の友達付き合いで考えてみても、お金を貸したのに返してくれなければ友達関係は壊れてしまいます。これは社会でも同様です。会社は様々な経営活動をおこなって利益（もうけ）があったとしても、なぜか倒産してしまいます。それは、払うべき時に払えるお金を持っていなければ、信用を失い、他の会社が相手（取引）をしにくくなるからです。これを黒字倒産といいます。では、このようなことを防ぐためにはどうすればいいのでしょうか。そこで会社では、資金繰りということをしています。この資金繰りとは、いつ、いくらお金が入ってきて、一方で、いつ、いくらお金を払わなければいけないのかを把握し、お金を払うべき時に払えるようにするためのものです。これは一例に過ぎませんが、実際に経営者の立場で会社の運営（経営）を考える際に、「カネ」の問題は非常に重要なものとなります。このような問題は多岐にわたりますが、それに対処すべく、様々な立場から理論的に学べるのが会計学です。

Q ◆「推薦する図書を教えてください。」

会計学に関する書籍は数多く出ています。その中には、「経営者のための……会計」のような、実務的なものも多くあります。しかし、大学において会計学を学ぶ際には、理論的な体系に沿ったものをお勧めします。もちろん、社会に出た時には前者のような実務書も役立つと思います。しかし、まずは基礎的な知識を学修することが、実務で活かせる会計には必要不可欠です。また、方程式の解法を学ぶために、まず四則演算の知識が必要であるのと同様に、会計学を学ぶためには、まず簿記の知識が重要となります。簿記は、財務諸表を作成するための世界共通のルールですから、簿記の基本書をしっかりと理解しましょう。



平井先生は学生一人一人としっかりと向き合ってください、私も就職活動など将来についての相談などで貴重なアドバイスを頂き、自信を持ち納得のいく答えを出すことができました。また講義でも、とてもわかりやすく学生の立場にたち教えてください、基礎など要点から応用までしっかりと学ぶことができました。

（平井ゼミ1期生 ゼミ長 浅香 英里）

藤井 孝宗 教授

ふじい たかむね

横浜市出身。慶應義塾大学経済学部・大学院経済学研究科卒業後、愛知大学経営学部専任講師、准教授を経て現職。専門は国際経済学。国際経済学者たるもの国際的に活動しないと、と年2〜3回は海外出張するようにしています。



●国際経済学I・II ●市場と経済C

国際経済学の魅力と重要性

◆ 研究テーマ

私の研究分野は国際経済学と呼ばれる分野になります。国際経済学とは、名前の通り世界全体の経済の動きについて分析する学問ですが、大きく2つに分けられます。ひとつはモノ、人、企業などの流れ(実物経済)を分析する国際貿易論、もう一つは資金の流れを分析する国際金融論です。私は前者の国際貿易論が専門です。この分野は経済学の最初期から存在する伝統的・基本的なものであるとともに、グローバル化の進展に伴い、極めて今日的なテーマでもあります。

近年のグローバル化の進展により、国際経済学の分野でとり扱うべき仕事は格段に増えています。WTO(世界貿易機関)での世界経済のルール策定交渉や、各国間の貿易協定締結ブーム、自由貿易体制と地域経済との軋轢など、対処すべき課題は増え続けています。しかし、一方でそのための人材は不足しているのが現状です。経済学者は原則論に固執し、反グローバリズム活動家は感情論を振りかざし、交渉に当たる政策担当者は交渉テクニックのしのぎあいに終始する、という現状では、広い視野で将来どうあるべきかを見据える建設的な議論は望むべくもありません。きちんとした知識を持ち、感情論に流されず広い視野で議論できる人材が渴望されています。人材が足りないということは、言い換えれば皆さんが卒業後活躍できる余地が非常に大きい分野です。是非興味を持って勉強してみてください。

◆ 担当講義について

本年度の担当講義は、国際経済学、市場と経済、ゼミナールです。国際経済学の講義では国際的な経済活動、とくにモノ・サービスの貿易がなぜ行われ、それが経済にどのような影響を与えるかについて理論を紹介します。ゼミナールでは、少人数で世界で今まさに起こっている問題について、より実際の議論を行いながら対応策を考えていきます。1年生の皆さんにとっては市場と経済でまずお会いすることになります。ここでは経済学の基本的な考え方ををご紹介します。今後の勉強でずっと出てくる基礎知識ですので、ぜひマスターしておいてください。



ゼミ生のひとこと

- ・ゼミの自由度が高い
- ・具体例が多く、わかりやすい
- ・漢字が書けない ・誤字が多い
- ・書き順がおかしい
- ・学生の自主性を尊重している
- ・のりが良く、飲み会にも来る
- ・マイペース

藤井ゼミ1、2期生



藤本 哲 教授

ふじもと てつ

兵庫県出身。神戸大学経営学部卒業、同大学院経営学研究科博士前期・後期課程修了。奈良産業大学講師・助教授、高崎経済大学経済学部助教授、准教授を経て現職。双子の父。

●経営管理論 ●経営組織論 ●組織行動論

組織構造とは何か？

私は経営組織論を専攻しています。研究テーマは組織構造です。「構造」という用語の使われ方を振り返ってみますと、何かよく分からないが構造が存在して、その構造が人々や企業の行動を縛っている、だから打破しなければならないのだ、といった感じで使われることが、過去何度も出てきたように思います。これはある意味でその通りなのですが、物事の一面を表しているに過ぎず、構造のもつ効果にも目を向けたいものです。

経営組織論においては組織構造をいくつかの側面から捉えます。例えば、規則は組織成員の行動を縛りますが、なぜその規則ができあがってきたのかを知れば、そこには経験や試行錯誤から得られた知恵が込められていることに気づくでしょう。また役割分担のやり方も組織構造の一側面ですが、分担により専門化が進むので熟練の育成に適しています。しかし場合によっては、たらい回しが起きる可能性も内包しています。社会ネットワークの点から構造をみると、今の人脈が物事をある方向に決めているのは事実だとしても、あなたが新たなつながりを作ることによって状況を動かすことが出来るかもしれません。一人一人は弱い存在かもしれませんが、組織の構造を知り、うまく働きかけることによって、状況を改善する可能性が広がります。

ゼミでは多くの本を読んでもらうようにしています。実習で得られる経験も貴重ですが、沢山読み、考え、議論するというのは大学生の時にしかできません。通説とは異なる主張を併せて読むことで、多面的な見方を養って下さい。



ゼミ生の
ひとこと

経営組織各論（現 組織行動論）のレポートは時間がかかりました。私の場合は教科書を読み始めてからレポートができあがるまで、テレビを見ながらですが、3～4時間かかっていたと思います。これが毎週あるのです。課題が難しい訳ではありません。見た瞬間に「できるじゃん」と思うけど、やり始めると時間がかかるのです。3年次の授業だからなんとかなったのかもしれませんが、こんなのが2つあったら……。

組織運営に関するテーマが多かったです。部活動やアルバイトなどでの経験を元に書くので、就職活動に入る前の準備にもなりました。授業の中ではテーマに関する議論をやっていました。作成したレポートのファイルがたまってくるのを見て達成感もあり、楽な授業ではないけどやった分だけ身につきます。「大学でどんなことを勉強しましたか」という質問にも自信を持って答えられたかな。

藤本ゼミ 2011年卒業生

水口 剛 教授



みずぐち たけし

企業勤務、公認会計士、環境 NPO 事務局などを経て、
本学教員となった。専門は監査・保証業務、環境情報開示、
環境会計、社会的責任投資、NPO 会計など。どれも今動
きつつある分野で、自分自身もその流れの中にいる感じ。
大学の先生がこんなに忙しいとは知らなかった……。

●会計監査論 ●環境会計 ●企業と会計B

投資家の責任と環境問題

◆ 私の研究テーマ

私は、今、責任投資 (Responsible Investment) と環境情報の開示という分野を研究しています。それって、一体、何のこと?と思われるでしょうが、これは、地球環境問題などを経済の仕組みの中で解決していこうという考え方です。

異常に暑い夏や豪雨による災害をみれば、これは大変だと思うことでしょう。このような気候変動問題をはじめ、地球環境問題の原因のほとんどは人間の経済活動です。経済活動を中心的に担っているのは企業 (会社) で、その企業の活動を支えているのは私たちのお金です。私たちが銀行や年金、保険などに預けたお金は、貸し付けや株式投資を通して企業活動に使われます。このとき、どのような企業にお金が行くかによって将来の社会の姿が変わってきます。そして、どの企業に投資するかを判断するためには情報が必要です。情報の中心は会計です。

ところが、今の会計は利益の計算はしますが、その企業が地球環境問題にどう対応しているのかは示しません。これでは、経済の仕組みの中で、たとえ環境に悪くても儲かる企業にお金が集まりかねません。そこで、利益だけでなく、環境や社会との関わりも会計やその他の情報として提供すべきではないか、と考えるのです。そしてそのような情報が意味をもつためには、社会にとって本当に良い企業にきちんと投資する投資家が必要です。それが責任投資です。それらがどうすれば社会に定着するかが、今の私の研究テーマです。

◆ ゼミはこんな感じ

ゼミでは「自分で考え、自分で動く」ということを身に付けてほしいと思っています。そういうことは、実際にやってみないと身に付きません。そこで、毎年いろんな課題に挑戦してもらっています。たとえば、関東地区の大学のゼミが1年に1回集まって討論したり、プレゼンテーションを競ったりするインナー大会に参加してきました。また大学のCSR (社会的責任) とは何かを考えて、企業がするのと同じように、高経のCSR報告書を作ったこともありました。ゼミがゼミ生の訓練の場として役に立つことを願っています。



水口先生は、私達の自立性を尊重しながらも、課題に行き詰まった時は新しい切り口から問題解決へのヒントを下さいます。ゼミ生だけではなく学生全体からの信頼も絶大と言える、頼れる先生です。まだまだ教えて頂きたいことが沢山あり、ゼミの時間がいつも楽しみです!

水口ゼミ15期生 (2010年入学) ゼミ長 関口花乃子



宮田 庸一 准教授

みやた よういち

<経歴> 早稲田大学大学院理工学研究科修了、博士（理学）、早稲田大学本庄高等学院 教諭を経て2008年4月より現職。

<趣味> テレビでのスポーツ鑑賞、散歩、卓球

●多変量データの分析A(応用統計学) ●統計学I・II

統計学を受講しよう

まず統計学がなぜ必要なのかを説明します。例えばある病気を治す薬が出来たとします。この時、「効果が期待できます」というだけでは説得力はあまりないでしょう。ちゃんと多くの被験者へ薬を投与し、効果があるかどうか、副作用がないかどうかのデータを取る必要があります。しかし薬の効果は人（年齢、性別、喫煙の有無など）によって変わるので、そのデータに対して適切な統計処理をすることが重要となります。

またお店を開く場合にも、多額のお金を投資するわけですので、ちゃんと利益を得ることができるかどうかを予測する必要があります。このため、お店の前の人通りの数、駅からの距離、他に競合する店があるかどうか、その時の売上などのデータから、きちんと経営していけるかどうかを判断するために、統計学は重要なツールとなるでしょう。

このように、統計学は実社会と関わりの深い学問であり、経済学、経営学、医学、生物学、スポーツ科学、数学等様々な分野で使われております。

新入生の皆さんも4年生になれば、卒業論文を書く可能性が高いと思われます。その時にも、ただ自分の主張を述べるだけでなく、効果的なグラフを加えたり、データに基づいた立証ができれば、より妥当性のある論文になります。

新入生の皆さんには、経済学科、経営学科どちらを志望するかにかかわらず、まず「統計学I」を履修することをお勧めします。この科目は多くの大学で開講されている標準的な内容を取り扱っています。また統計ソフトを用いたより実践的な科目である「データ分析入門」、「多変量データの分析A」、「多変量データの分析B」を受講すれば、さらに統計処理のスキルアップにつながるでしょう。

しかし、統計学は内容が高度になるにつれ多くの数学的予備知識（例えば「数理統計学」では偏微分、積分が必要になります）が必要になります。その意味では、1、2年生のうちに数学に関する科目も受講しておくといでしょう。

私の開講するゼミについての説明は、私のウェブサイト
<http://www1.tcu.ac.jp/home1/ymiyatagbt/> を参考にしてください。



宮田先生は、高校での指導経験がある大学教員としては珍しい先生です。宮田先生は、とてもわかりやすく、丁寧に授業を進めてくれます。また「統計学」は、新入生のみなさんにとってはあまり馴染みのない分野かと思いますが、身近な例を挙げると、アンケート結果の分析など、社会人にとって必要なスキルのひとつだと思います。

（宮田ゼミ卒業生 川合 賢大）

向井 悠一郎 講師

むかい ゆういちろう

東京大学大学院経済学研究科博士課程単位取得退学、東京大学ものづくり経営研究センター特任助教を経て現職。
趣味：乗り物（飛行機、車…）、旅行、水泳、カーブ。



●生産管理 ●技術経営 ●経営工学

意図せざる研究生活

◆ 担当科目・ゼミの内容

今年度から生産管理、経営工学、技術経営の授業を担当することになりました。ゼミもこれらの分野をベースにする予定です。経営学のなかでこれらの分野は、テクニカルで厳密な工学と、ときに机上の空論になりがちな経済学・経営学のギャップを埋める、文理融合の分野です。この分野を学ぶことで、現実起こっている現象から問題を発見し、問題解決に向けて論理的に考察する姿勢や具体的な技術そのものについて素人の文系人間でも、技術者対話できる想像力（度胸？）などが身に付くといったと考えています。生産管理、経営工学、技術経営は経済・経営系の科目の中では、わりと現実を重視する科目だと思います。

◆ 研究テーマ

世の中で実際に起こっている、直観に反するな現象の背景——「ふつう○○○と言われているが、それに反して実際には×××が起こっている。それはなぜか？」——を、経営学の立場から研究するのが自分の仕事だと考えています。そのため、実際の事例を見聞きする必要があるので、生産管理・経営工学・技術経営の視点から「足で稼ぐ」タイプの研究をしています。企業の現場の方のような相手がある研究といえます。それゆえ、偶然に左右され、事前の思い通りに研究が進むとは限りません。逆に、期せずして研究が進むこともあります。

いま取り組んでいる研究の問題意識は、「なぜ、日本企業が非ハイテク・非高付加価値分野において、競争力を持つことができるのか？」です。具体的には、造船会社の事例を研究しています。

元々、全く別の専門職に就く予定でしたが、事情により大学に残り、研究を続けることにしました。

正直に言うと、もとは学問が好きで研究をはじめたわけではありません。しかし、ありがたいことに、いままで研究を続けられています。いまは、この研究が面白くなるかもしれない、誰かの何かの役に立つかもしれないと思っています。



藻利 衣恵 講師

もうり きゆえ

早稲田大学大学院商学研究科博士後期課程満期退学。同大学商学学術院助手を経て、2014年より現職。趣味は琴とコントラクト・ブリッジ（監査証明様式のベースにあるゲームです。興味があれば調べてみて下さい。）

●財務会計Ⅰ・Ⅱ ●上級簿記

ただ暗記するのではなく、疑問をもってみよう！ —簿記・会計が苦手にならないために—

◆担当科目

企業が「材料を購入して品物を作りそれを売って儲ける」等の活動を行うには、お金が必要となります。しかし、その額は莫大なものとなるため、通常、一個人が所有しているお金だけでは足りず、企業は企業外部の人々からお金を調達する必要があります。

では、その人々は無償でお金を提供してくれるのでしょうか。皆さんも自分のお金を無条件で知らない人に渡すことはできないでしょう。でも、もしその企業のお金の使い道に関する情報がわかれば、安心して自分のお金を提供できるかもしれません。そこで、企業が企業外部の人々からお金を提供してもらうために、情報を伝達する。これが財務会計です。（この情報を作成するために簿記が使われます。）

しかし、企業が自分勝手に情報を公開したとしても、どれがよい企業かはわかりません。そのため、情報を開示する際には、一定のルール（会計基準）が課されます。財務会計Ⅰ・Ⅱでは、主として日本の会計基準の内容を説明します。

◆ただの暗記ではなく疑うこと—現在の研究テーマ

簿記や会計は、暗記することが多く、しばしば皆さんから苦手意識をもたれます。しかし、一見暗記科目の簿記でも、現在の形に至るまでには多くの決まり事が存在します。私は現在、ストック・オプションの会計問題を題材に、上記の例のような、会計で支配的とされている考え方がどこまで必然なのかということについて、研究を行っています。具体的な研究内容については書くスペースはありませんが、この研究は、大学時代のゼミでの議論で浮かんだ「なぜ？」が土台となっています。

現在、数多くの会計基準が存在しますが、会計基準が、唯一、絶対に正しいわけではありません。皆さんがもし授業や勉強で「なぜ？」と思ったら、その疑問のほうが正しいこともあります。その素朴な疑問を解いていくと、ただの暗記科目と思っていた簿記や会計も楽しくなってくるかもしれません。



このゼミでは、会計はもちろん業界ごとのケーススタディなどを学び、他大学とのインターゼミなども行います。とはいっても今年新設されたばかりなので、どのようなゼミにしていけるかはゼミ生次第です！みんなで仲良く楽しく、かつ社会に出て使える知識経験を身につけられるようなゼミを目指します！藻利先生はゼミ生のことをよく考えてくれつつ、自由にやらせてくれます。なので、卒論のテーマは自由です！！！！

筒井美琴（1期生・2013年入学）



山崎 薫里 教授

やまざき かおり

新潟県出身。筑波大学自然学類、同大学院教育研究科修了、同大学院数学研究科中退。筑波大学数学系・数理物質科学
研究科助手を得て、2007年4月より現職。私の授業では、
赤・青チョーク用の2色の他に、黄色チョーク用の第3の色
ペンを用意しておくと、きっと、やる気がでます(?)。

●微積分Ⅰ ●微積分Ⅱ ●線形代数概論 ●経済数学特講

数学の研究って何をやるの？

◆ 研究テーマについて

研究しているテーマは、位相空間論（連続関数の拡張問題、集合値関数の解析、等）です。数学の基本的な道具を作る縁の下の力持ちとなる研究です。意外に思うかもしれませんが、私の研究には「数字」はそれほど出てきません。論理の記号がたくさん出てきて、変な絵をかくて考えていることが多いです。学生の皆さんからよく「数学の研究って、問題を解くのですか?」と訊かれます。誰かが提出した問題を解いたり、価値のある問題そのものを作ったり、知られている方法が使えない箇所を切り抜ける上手な方法を考えたり、別々の定理を一つにまとめて説明する方法を考えたり、ありとあらゆる数学で価値のある事実（新しい、正しい、面白い、の三要素そろっていること）を探す（生み出す）ことを試みています。例えて言うならば、道の無い山中で、自由に、価値のあることを探しているようなものです。「新しい近道を発見した」「この場所の地下水は隣の山のものにつながっていることを示した」「幻の美しい花を探していたら新種の毒草を見つけた」といったところでしょうか。

◆ 担当科目について

微積分、線形代数、等の数学の授業を担当しています。アンケートをとると、「内容を簡単にしてください」「証明はやらないで計算の方法だけ教えてください」「板書の内容はプリントにして配ってください」「出席点で単位を下さい」といった、楽に要領よく単位をとることを望むものが多くあります。ここで一言。少ない努力で楽に単位を取ろうとする姿勢は、必要な場合もありますが、時として実力が着くことを妨げます。内容を理解して、理解していることをしっかり自分の手で計算して確認して、わかっていないと思ったら前に戻って理解し直して、一つ一つ着実にわかっていくことが大切です。ゼミでは、「ブラック・ショールズ微分方程式」や「不動点定理」のような数学、「コンプガチャがそろく確率」などの応用数学、「論理とは何か小学生に説明する」といった数学を伝えることなど、自由なテーマで卒論を作成します。



山崎ゼミの雰囲気を一言でいうと“自由”です。私たちのゼミは高度な内容をやることを必ずしも目的としている訳ではなく、研究した内容をいかにして人に伝えるかということを重要視しています。グループで研究の時は、いろいろと意見を出し合ったり、教え合ったり、アイデアを出し合ったりして、協力して作り上げた時はやりがいを感じられてとても楽しかったです。先生は、さばさばしている性格ですが、優しくて友達みたいに接してくれます。

山崎ゼミ1期生 吉田由美子

山本 芳弘 准教授

やまもと よしひろ

環境、エネルギー、資源およびその関連領域に関心があります。また、より効果的な教育・研究方法を求めて試行錯誤しています。当地はたいへん自然豊かなところなので、休日はいっぱい出かけたいです。



●環境経済学Ⅰ・Ⅱ ●市場と経済B

環境経済学から 経済活動のあり方を再検討する

環境・エネルギー・資源などにかかわる経済問題について研究しています。具体的な研究対象は、環境汚染、地球環境問題、エネルギー問題、資源利用のあり方など、枚挙にいとまがありません。これらは、私たちの世代のみならず将来の世代にとっても、また我が国のみならずあらゆる国・地域の人々にとっても、極めて重要な問題です。にもかかわらず、一向に解決しないのはなぜでしょうか。少し考えてみると、これらの問題には経済活動が大きく関係していることに気付くでしょう。ということは、なんとかして解決しようとするならば、経済活動のあり方から再検討してみる必要があるということになります。それこそ今日の私たちの経済社会を根本から変えなければならぬかもしれません。このような難しいけれども解決しなければならない課題にチャレンジすることは、たいへんやりがいのあることだと思います。

環境・エネルギー・資源などにかかわる問題は、新聞や雑誌、テレビなどで頻繁にとりあげられています。その上、身近な問題であることも多く、誰でもこれらの問題について何かしら述べることができるのではないかと思います。しかしながら、必ずしも真の理解や問題解決につながっていないのは、それらがしっかりとした学術的知見に基づいたものではないからだと思います。経済学の基礎の上に成り立つ環境経済学は、問題の本質を捉え、より効果的な処方箋を見つけ出すための有効な手段のひとつなのです。

学部授業では、経済学への入門である「市場と経済」と、専門分野の「環境経済学」を担当しています。「環境経済学」は専門応用科目ですが、それを勉強することによって、経済学の理解がより深まることもあります。また、ゼミでは、環境経済についてゼミ生が調べたことや考えたことを発表し、議論するというスタイルをとっています。ゼミ生の自主性を尊重し、自由に研究できるように心掛けています。



ゼミ生の
ひらき

近年、「省エネ」や「環境に優しい」などを謳う商品が増加しているように、地球温暖化や環境問題に対する関心が高まっています。ゼミ活動の根幹をなす環境経済学とは、そのような環境問題を経済学の観点から分析する学問です。ゼミ活動では、個人あるいはグループごとに関心のある環境問題からテーマを設定し、先生やゼミ生との討論を通して研究します。 2012年入学 土田 哲平



専任教員担当科目一覧

※変更となる可能性がありますので『シラバス』を確認して下さい。

経済学科			頁
あきとも 秋朝	あやえ 礼恵	社会政策論／社会保障原理／社会保障制度論	36
あだち 安達	つよし 剛	経済数学入門Ⅰ・Ⅱ／厚生経済学	38
あもう 天羽	まさつぐ 正継	財政学Ⅰ・Ⅱ／市場と経済 A	40
いけの 池野	まさはる 正晴	教育哲学／教育方法学／教職実践演習（中・高）／ 教育実習Ⅰ・Ⅱ	41
いとう 伊藤	のぶひろ 宣広	学問研究入門／経済学方法論Ⅰ・Ⅱ	44
いりえ 入江	かずや 和弥	経済数学Ⅰ・Ⅱ／産業組織論特講Ⅰ・Ⅱ／産業構造論	-
おおいし 大石	あぐみ 恵	中国経済論Ⅰ・Ⅱ／アジア経済史	46
おかだ 岡田	かずひこ 和彦	資本主義経済の理論Ⅰ・Ⅱ／経済システム論	49
おかだ 岡田	ともゆき 知之	経済成長論／公共経済学Ⅰ・Ⅱ	51
おかむら 岡村	あきこ 晃子	Practical EnglishⅠ・Ⅱ／Academic SkillsⅠ・Ⅱ／Special Topics A・B	52
からさわ 唐澤	たつゆき 達之	経済史概論Ⅰ・Ⅱ／西洋経済史Ⅰ・Ⅱ	54
ごくぶんこういちろう 國分功一郎		倫理学／学問研究入門／哲学／哲学特講／社会哲学	56
こばやし 小林	とある 徹	応用計量経済学／労働経済学Ⅰ・Ⅱ	-
こんの 今野	まさのぶ 昌信	国際金融論Ⅰ・Ⅱ／金融論Ⅰ・Ⅱ／Reading E/MⅠ・Ⅱ	57
さとう 佐藤	あやの 綾野	計量経済学Ⅰ・Ⅱ／経済統計	59
つちや 土谷	たけし 岳史	国際関係論／政治学／学問研究入門／政治学特講／日本政治	66
とみざわ 富澤	かずひろ 一弘	日本近世経済史／日本近代経済史／日本中世農業史／ 日本近世農業史	-
なかじ 中路	たかし 敬	経済学史Ⅰ・Ⅱ／近代経済学Ⅰ・Ⅱ／現代経済思想Ⅰ・Ⅱ／外書講読Ⅰ・Ⅱ	-
なかの 中野	まさひろ 正裕	初級マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ／中級マクロ経済学Ⅰ	68
なつかり 夏莉	さよ 佐宜	Current EnglishⅠ・Ⅱ／Business SkillsⅠ・Ⅱ／ Oral CommunicationⅠ・Ⅱ	70
なわ 名和	けんみ 賢美	社会学／西洋古典語の世界／日本語リテラシーⅠ・Ⅱ	71
ふじい 藤井	たかむね 孝宗	国際経済学Ⅰ・Ⅱ／市場と経済 C	75
みやた 宮田	よういち 庸一	多変量データの分析 A（応用統計学）／統計学Ⅰ・Ⅱ	78
の 矢野	しゅういち 修一	世界経済論Ⅰ・Ⅱ／開発経済論／アジア経済論	81
やまぎ 山崎	かおり 薫里	微積分Ⅰ／微積分Ⅱ／線形代数概論／経済数学特講	82
やまもと 山本	よしひろ 芳弘	環境経済学Ⅰ・Ⅱ／市場と経済 B	83
やまもり 山森	てつお 哲雄	初級ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ／ゲーム理論Ⅰ	84

経営学科

頁

あくつゆか 阿久津由佳	Current English 3・4 / Special TopicsC・D / TOEIC I・II	37
あべけいじ 阿部 圭司	企業財務論 I・II / 証券論 / デリバティブ論	39
いしだ 石田 崇	情報処理 I・II / 経営統計	42
いしわた 石渡 華奈	基礎英語 A・B / 英文法 I・II	43
いのうえまゆみ 井上真由美	経営学総論 / 企業論 / コーポレート・ガバナンス	45
おおしまとしひこ 大島登志彦	日本地誌 / 世界地誌 / 交通論 I・II	47
おおむらかずひと 大村 和人	中国文化論 / 中国語 I・II・IV / 中国古典研究 / 日本語リテラシー I / 中国研究 I・II	48
おがたしゅう 尾形 祥	有価証券法 / 会社法 I・II / 商法総則・商行為	50
かとうけんた 加藤 健太	戦前期日本経営史 / 戦後日本経営史 / 外国経営史	53
きのした 木下まゆみ	心理学 / 教育心理学 / 日本語リテラシー I / 教育測定および方法 / 教職実践演習 (中・高)	55
ささきしげる 佐々木 茂	商学総論 / マーケティング	58
さとうとしひさ 佐藤 敏久	マーケティング・コミュニケーション / マーケティング・リサーチ / 消費者行動論	60
しみず 清水さゆり	国際ビジネス概論 / 多国籍企業論 / 国際経営論	61
せきねまさのり 関根 雅則	イノベーション論 / ベンチャービジネス論 / 経営戦略論 / 戦略的経営論	62
たかまつまさき 高松 正毅	論理的思考 / 日本古典研究 / 日本語リテラシー上級 I / 日本語リテラシー I・II	63
たなかひさお 田中 久夫	会计学 I・II	64
たにくちさとし 谷口 聡	債権法総論 / 債権法各論 / 民法総則	65
ながたしゅん 永田 瞬	経営学史 / 人的資源管理 / 経営労務論	67
なかむらあきよし 中村 彰良	簿記論 C / 管理会計論	69
ばふとん にこらす Bufton Nicholas	Advanced Oral Communication I / Advanced Oral Communication II / TOEFL I・II / Practical English 3・4	72
ひさむねしゅうじ 久宗 周二	労働安全衛生 / 産業・組織心理学 / 人間関係論	73
ひらいひろひさ 平井 裕久	原価計算論 / 経営分析 / 企業と会計 D	74
ふじもとてつ 藤本 哲	経営管理論 / 経営組織論 / 組織行動論	76
みずぐちたけし 水口 剛	会計監査論 / 環境会計 / 企業と会計 B	77
むかいゆういちろう 向井悠一郎	生産管理 / 技術経営 / 経営工学	79
もうりきぬえ 藻利 衣恵	財務会計 I・II / 上級簿記	80



Part V

教員推薦図書と座右の銘

● 先生オススメの本

大学時代はたくさん本を読むことができる大きなチャンスです。何を讀んだらいいのかわからない、そんな時はまず先生のおすすめの本の中から気になるものを手に取ってみてください！

● 先生に聞く!! 座右の銘

「先生に聞く!」ということで、先生方に「座右の銘」を教えてくださいました。人生の指針となる言葉が見つかるかもしれません。



先生オススの本



山崎 薫里 先生 おすすめの本



『証明の展覧会I、II』

著：Roger B. Nelsen 訳：秋山仁、奈良知恵、酒井利訓
東海大学出版会

「Proofs without words」の日本語訳です。まさに「言葉を用いない証明」のための図がいっぱい出てきます。例えば、みなさんがよく知っている三平方（ピタゴラス）の定理の証明だけで、I、II 巻合わせて12通り出てきます。

「数学が好き」というあなた。この本は眺めるだけで楽しいと思います。なるほど!という体験をたくさん積んで、頭をどんどん柔らかくして下さい。

「数学は苦手だけど好きになってみたい」というあなた。文章の証明は理解できなくても、絵だったら何とかなるかも。本格的な内容をこのように柔らかく提示してくれる本は貴重です。数学がちょっと好きになれるかもしれません!

「証明、そんなにいっぱい知る必要無いし〜」「証明なんて知らなくても困らないし〜」「そもそも、三平方の定理って何だ?」とつぶやいているあなた。絵画や音楽はよくわからなくても自分なりに楽しむことができるように、数学とのそんな出会いになるかもしれません。

藻利 衣恵 先生 おすすめの本



『元法制局キャリアが教える 法律を読む技術・学技術【第2版】』

著：吉田 利宏 ダイアモンド社

ご入学おめでとうございます。これからの4年間で、皆様の糧となるよう、お祈りしております。

さて、この本は、研究の関係で、最近、いくら法律の本を読む機会があり、手に取った一冊です。この本は、法律を勉強するにあたって、何から勉強していけばよいのか、何から読んでいけばよいのかわからない人向けに書かれた本ですが、法律に関して勉強する際の指針となるだけでなく、大学での講義を受けるにあたっての勉強の仕方・講義の聞き方（具体的には、板書が中心の授業、または、パワーポイント等のプロジェクター中心の授業では、それぞれどのように講義を聞けばよいのか）等も書いてあり、教員をしている私でも、「新入生の時に読んでおけば、もっと効率よく講義を聞いたのに…」と思いました。法律を専攻していない学生（2年次に法律系のゼミに所属しない学生）にも、役立つ一冊だと思います。

今野 昌信 先生 おすすめの本



『宇宙からの帰還』

著：立花 隆 中公文庫

アポロ15号に乗り月に降り立った宇宙飛行士ジムアーウィン、月から暗黒の中に青く輝く地球を眺め、「神が私のすぐ脇にいる」と実感したそうです。地球の外に出なくともアツシジのフランチエスコ、道元等は一瞬にして啓示を得、悟りを開いたそうです。三界流転する凡人にも日常の何気ない出来事が突然深い洞察へ導く体験はあります。自分の精神の有り様を問うきっかけになる本です。

谷口 聡 先生 おすすめの本



『生き方』

著：稲盛 和夫 サンマーク出版

「京セラ」を創設し、世界的に有名な企業に育て上げ、「KDDI」を創業し、さらには、経営破綻した「日本航空」をわずかな期間で会長として黒字決算に導いた経営者、稲盛和夫が、自らの人生を振り返りながら、人生をいかに生きるべきかを後世の者に説いている本。

簡明な著述であり、ページ数も少ないので、すぐに読み終わることができるので、ぜひ一度目を通してもらいたいと思う。

九州の地方公立大学（当時）の工学部を卒業し、無名な京都の製造企業に入社した稲盛が、誰もが大成したと評価する人生を歩むことができたのはなぜか?

それは、驚くべきほど単純で、誰にでも実行できるほど簡単なことであるという。しかし、彼はこの著書の中で、それを切々と、かつ、堂々と、真正面から述べている。

お金はかかってしまうが、時間はかからないので、ぜひとも、稲盛ワールドを実感してもらいたい。

田中 久夫 先生 おすすめの本



『金塊巻』

著：渡辺 和博

主婦の友社

「きんこんかん」と読みます。私が27歳のときに読んだ、その後の人生に深い示唆を与えた珠玉の一冊です。1984年に出版されたものですが、いまだAmazon等で800円程度で手に入れることができます。最初に読んだ当時、この本がその10年前に（つまり私が18歳のころに）出版されていれば、自分の学生生活や大学卒業時の行動に大きな影響があったらうになあ、と悔やまれるほど鮮烈な印象を受けた本でした。内容はここで話さずにはまいりません（もったいなくて・・・）。また、この本を読んで何にも感銘を受けない人も沢山いることも付け加えておきます。特に、既にある程度自分の人生の趨勢が決まってしまうような人（つまり精神的に老けてしまった人）には、まったく理解できない内容のものかもしれません。でも、今を悩んでいる若い人にはオススの一冊です。自分の将来や生き方に疑問を持っている諸君、だまされたと思って一度読んでみてください。感銘を受けなくても仕方ありません。それは貴方が老成してしまったことを意味しています。その時はたかだか800円、安い買い物だからと思って諦めないさい。

藤本 哲 先生 おすすめの本



『フラジャイル：弱さからの出発』

著：松岡 正剛

筑摩書房

フラジャイルとは、壊れやすい、傷付きやすい、脆い、あるいは脆弱な、といった意味の単語。有益な情報やネットワークにアクセスしようと行動するなら、自分自身を脆弱な立場にさらすことになる、といったことを本書は述べる。「虎穴に入らずんば虎児を得ず」だ。例えば、自分の価値観を公にすると、誰かからの批判を招いたり、それ以後誰かから無視されたりするだろう。でも、自分と同じ考え方の人が見つけてくれて、仲良くなれるかも知れない。

一步踏み出すとは、未知の世界に一步踏み込むこと。居心地の悪い場所に、少しの間自分の身を置いてみる。その機会を増やしてみる。その時間を延ばしてみる。居心地を少し良くする努力をしてみる。仲間に見つけてもらえるのをじーと待つか、それとも自分から探すか。

岡村 晃子 先生 おすすめの本



『The Price of Inequality』

著：Joseph E. Stiglitz

WW.Norton

ノーベル経済学賞授賞の著者が富の分配の不公平さについて“情熱的”に書かれた経済学を専門としない人間にも読める本です。英語も妙に難しくではなく辞書がなくても大筋はわかるかと思います。是非挑戦して下さい。

木下 まゆみ 先生 おすすめの本



『気が遠くなる未来の宇宙のはなし』

著：佐藤 勝彦

宝島社

小学生の頃、夜空に星座を見つけるのが好きでした。丸い星座板をくるくるくるくる、遠くの空に、同じ星の形を見つけたときは、とても嬉しかったのを覚えています。毎日ずっと、星のことだけ考えていたら素敵だろうなと、天文学者に憧れたこともありました（あまりの数学的センスのなさに、あっさり挫折・・・）。そういう訳で、今でも時々、宇宙に関する本を読みます。もちろん数式は一切出てこない“ヤツ”です。

『気が遠くなる未来の宇宙のはなし』が描くのは、最先端の知識に基づく宇宙の姿です。本を開いた瞬間から、体ごと宇宙空間にトリップし、無重力の頼りなさに襲われます。そして目撃するのです。10億年後、地球は膨張する太陽に焼かれて灼熱の星になり、50億年後、太陽は燃え尽きて黒焦げのまま宇宙を彷徨う様を。1800億年を過ぎ、宇宙は極小の1点に潰れて終わりを迎えます。そして…生まれ変わります。皆さんもどうぞ、気が遠くなる宇宙旅行へ。



先生オススの本



天羽 正継 先生 おすすめの本



『なぜ金融危機はくり返すのか—国際比較と歴史比較からの検討』

著：伊藤 正直 旬報社

2008年のリーマン・ショックと2010年の欧州債務危機をご記憶でしょうか。世界を揺るがしたこれらの金融危機によって各国の景気は大きく低下し、人々の生活も影響を受けました。しかし、こうした金融危機は最近になって初めて起きたことではなく、数十年前から何度も発生してきました。それでは、世界的金融はなぜ繰り返されるのでしょうか。本書の著者はその根本的な要因を、国際通貨システムの変容、具体的には「基軸通貨」であるドルの価値の長期的な低落傾向に求めます。基軸通貨とは、国際的に最も利用される中心的な通貨のことですが、円やユーロなどの台頭により、ドルはその価値を継続的に低下させてきました。著者は、こうしたドルの矛盾した姿が世界的金融危機の根底にあるという、ユニークな視点を提示しています。また、本書は国際比較と歴史比較という2つの分析方法に基づいており、社会科学の基本的な方法論を学べる本としても読めます。

加藤 健太 先生 おすすめの本



『夢をかなえるゾウ』

著：水野 敬也 飛鳥新社

自分を変えるために、今、何をすべきか。ごく平凡なサラリーマンである主人公は、“成功”を夢見て、ガネーシャの出す課題を1つ1つ実行していく。

課題そのものは、「靴をみがく」「コンビニでお釣りを募金する」など、それほど難しくはない。しかし、その課題を実行することと“成功”の関連性を想像することも簡単ではない。だから、主人公は、ガネーシャにその真意を問い、ときに理由もわからないままにとりあえず実践する。そして、彼は少しずつ、かつ確実に変わっていくのである。

推薦の理由は、単純にオモシロいから、である。だけど、それだけではない。本書は、社会で“成功”したひとが何を考え、何を実践したのかという点を、実在の企業家・経営者（ヘンリー・フォードや本田宗一郎などなど）を多数取り上げて紹介していて、ほくの担当する講義科目・経営史と密接に関わっている。

ガネーシャの「名言」に笑い、泣き、そして考えさせられる“名著”。ホントに一度読んでほしい！

土谷 岳史 先生 おすすめの本



『丸山眞男セレクション』

著：杉田 敦編 平凡社ライブラリー

丸山眞男は戦後日本を代表する政治学者です。軍隊と被爆を経験した彼の戦後の研究は軍国主義へ至り侵略戦争を起こした日本を問うところから出発します。本書は丸山の代表的論考を集めたものです。戦後も70年を過ぎ、解釈改憲で集団的自衛権を容認するなど、いま日本は大きな転機を迎えています。ほくは丸山のいくつかの論文を読み返してみ、はじめて読んだときとは比較にならないリアリティを感じました。なかでも「超国家主義の論理と心理」「『現実』主義の陥穽」「現代における人間と政治」は読んでみてほしいです。3つ目の論文から一部を引用しましょう。「一方の『真実』から見れば、人間や事物のたたずまいは昨日も今日もそれなりの調和を保っているから、自分たちの社会について内外の『原理』的批判者の語ることは、いたずらに事を好む『おどかし屋（アラームリスト）』か、悪意ある誇大な虚構としか映じえない」。一度立ち止まり思考してみましよう。

大石 恵 先生 おすすめの本



『歴史を学ぶということ』

著：入江 昭 講談社

これは、アメリカ外交史、国際関係史を専門とする歴史研究者が書いた本です。内容は、著者の歴史観や歴史研究に対するスタンス、学びに対する姿勢など示唆に富んでおり、一般の回想録や自叙伝とは異なります。

もし、みなさんが歴史を学ぶことの意義を問われたら、何と答えるでしょうか？歴史は飯のタネにならない、大して役に立たない、と言われるかも知れません。しかし、この本を通して、歴史を学ぶことは何か、なぜ歴史を学ぶことが重要なのか、考えてみて欲しいと思います。



大村 和人 先生 おすすめの本



『莊子 内篇』・『同 外篇』・『同 雑篇』(全3冊)

著：莊周 訳注：福永光司・興膳宏

ちくま学芸文庫

『莊子』は中国・戦国時代の思想家・莊子の言動を記した書物です。(ちなみに、ノーベル物理学賞を受賞した湯川秀樹氏の愛読書だったらしいです。)

これは「人生訓」の書ではなく、「モノの見方」「モノの考え方」をひねくれた方法で教えてくれる哲学書であり、ユニークな文学作品でもあります。各篇はそれほど長くないのですが、「3冊全部を読み通すのはキツイ」という方は、『内篇』冒頭の「逍遙遊篇」と「斉物論篇」だけでもご熟読ください。

彼の知的態度の核心を理解できれば、ノーベル賞が獲れる……かどうかは分かりませんが、大学における学習だけでなく、卒業後の人生の様々な場面でも役に立つと思います。しかし、刺激が強いので、副作用にはくれぐれもご注意を。

石田 崇 先生 おすすめの本



『シャノンの情報理論入門』

著：高岡 詠子

講談社

我々の日常生活を始めとして、経済や経営の活動においても情報通信技術（ICT）はもはや必要不可欠なものとなっています。この情報通信技術の基盤となっている理論が情報理論です。スマートフォンで快適に動画が見られたり、欲しいと思ったものをすぐインターネットで注文して翌日に商品が届いたりするのも、この情報理論のおかげと言っても差し支えはないでしょう。情報理論では「情報」という漠然としたものを定量化し、いかに正確に効率的に扱うかについて考えます。本来は統計学や確率論など高度な数学が駆使された理論ですが、この本ではなるべく難しい数式は使わないようにして情報理論を解説しています。あまり馴染みのない方が多いと思いますが、この本をきっかけにして世の中の情報処理を支えている情報理論に少しでも触れてみてはいかがでしょうか。

阿久津 由佳 先生 おすすめの本



『The Giver』

著：Lois Lowry

Laurel Leaf

英語のペーパーバックを楽しみながら読んでみたい!という人におすすめです。

アメリカではベストセラーのヤングアダルト向け小説で、権威ある文学賞も受賞しています。大学受験までの英語で十分読めるのに、内容はとても濃くて深く、かつぐんぐん引きこまれるおもしろさ。また、とてもスタンダードな英語なので、英語学習者にぴったりです。

何の前提知識もなく読んだ方が絶対におもしろい本なので内容は明かしませんが、一気に読みたくなるストーリー展開で、飽きさせません。去年映画化されビデオでも見られますが、ぜひ映画を見る前に原作を読んでください!本ならではの感動が味わえると思います。

また、この本は実は4部作。Gathering Blue, Messenger, Sonとあと3冊続いています。1冊ずつでも完結していますが、全部読むとより世界が広がって楽しめます!

高松 正毅 先生 おすすめの本



『女子高生サヤカが学んだ「1万人に1人」の勉強法』

著：美達 大和 山村サヤカ&ヒロキ

プレジデント社

「2013～4年、高松のベスト本。美達大和という殺人死刑囚と女子高生サヤカ（時に弟のヒロキも）の往復書簡集である。

「世の中は楽しいこと、好きなこと、簡単なことばかりではありません。そのようなときに、『何んでも平然と取り組める、解決できる、忍耐強く続けられる』という能力を養うための訓練が勉強なのです。」(33頁)

この本を読んで勉強をしたいと思わないようであれば、「お前はもう死んでいる」。少なくとも大学にいる意味はない。試金石として死んでも読め。そして変われ。



先生オススの本



関根 政則 先生 おすすめの本



『日本企業にいま大切なこと』

著：野中郁次郎・遠藤 功 PHP 新書

日本を代表する経営学者2名が、今日の日本企業に求められる経営スタイル、考え方や価値観、リーダー像等について語った本です。

かつて、日本企業の経営モデルは世界的に注目を集めました。“Japan as No.1”と言われたほどです。しかし、バブル経済の崩壊に伴い、日本企業の国際競争力が低下する中で「日本的経営」は逆に批判されるようになってしまいました。そして、日本ではアメリカ型の経営を導入することの必要性が声高に叫ばれるようになりました。

したがって、この本のタイトルを見たとき、古い日本企業の経営モデルからいかに脱却すべきかについて述べられている本であると想像しました。しかし、内容は想像とかけ離れたものでした。つまり、日本企業が長い時間をかけて培ってきた企業経営のあり方を再認識し、それを大切せよというのが筆者の主張だったのです。

賛否両論、別れると思います。それは、この本が示唆に富んでいる証だと思います。ぜひ一読ください。

夏苅 佐宜 先生 おすすめの本



『英語の歴史』

著：寺澤 盾 中公新書

英語を使えるようになると良いことばかりなのですが、英語がどんな言語なのか学んでみるのも楽しいと思います。例えば、なぜ英語の冠詞には文法性（例えば女性、中性、男性名詞の差）がないのか、なぜ「選ぶ」にはchooseとselectとoptがあるのか、なぜ生きている豚はpigでお肉になるとporkなのか、poolとbloodで同じ綴りのooの発音が違うのはなぜか、psychologyの頭のPは何か、などなど英語の謎を学ぶことができて楽しい一冊です。

英語には古英語、中英語、近代英語があり、近代英語はさらに初期近代英語、後期近代英語とあって現代英語に至るのですが、この変化は英語の歴史と密接に結びついています。

英国の歴史もとてもおもしろいので（特に王様のキャラが濃い）合わせておすすめで。

井上 真由美 先生 おすすめの本



『国土と日本人—災害大国の生き方—』

著：大石 久和 中公新書

本書を読んでわからされるのは、日本の国土は他の先進国と比べて生活を維持してゆくのがいかに難しい所であるのか、ということだ。例えば国土面積に対する可住地面積は、イギリス85%、フランス73%、ドイツ67%なのに、わが国は27%である。平野部が小さいというだけではない。わが国は海、山、河川によって分断されている。すなわち、わが国は4島に分かれている。国土を縦貫する脊梁山脈によって日本海側と太平洋側は分断されている。日本の河川は他の先進国と比べて異様に数が多いとされている。したがって、トンネル、橋などのインフラの建設と整備が、国民の諸活動に不可欠であることが理解される。

わが国が、震災、水害、水不足などのリスクにさらされていることはいうまでもない。しかし以上のような諸事実を知るだけでも、公共事業悪玉論の歪さがわかるというものである。

佐藤 綾野 先生 おすすめの本



『いつも滑り込みセーフ（わが人生（3））』

著：渡辺 元智 神奈川新聞社

今年引退した横浜高校野球部監督の著書、弱小野球部がいかに優秀な中学生をスカウトしてきた、甲子園の常連校になるかまでの監督の道のり。

優しいような監督にみえたのに、すごい根性と努力の人。昭和の香りのする暴力付きの指導。やっぱり昔は本当にあったんだなと思った。

ハンカチ王子の前の“甲子園のアイドル”愛甲猛はやっぱりワルかったらしい。



Bufton Nicholas 先生 おすすめの本



『23 Things They Don't Tell You About Capitalism』

Ha-Joon Chang

Penguin Books

資本主義の神話を理解出来れば、経済学の先生により興味深い質問が出来る。

高崎経済大学図書館
利用のポイント !!

図書館には、「先生おすすめの本」コーナーがあります。

本欄に紹介されたもの以外の本も紹介されています。

ぜひ足を運んでみてください。

また、資料の検索方法や入手の仕方、データベースの利用方法は図書館スタッフに気軽に相談してください。

■ 図書館利用上の注意

- ・資料は返却期限を守り、大切に扱ってください。
- ・館内では他の利用者の迷惑になる行為（私語等）は慎んでください。
- ・携帯電話はマナーモードに設定し、通話をご遠慮ください。
- ・貴重品は必ず身につけ、持ち物の管理は各自で行ってください。
- ・館内への飲食物の持込みは禁止されています。但し、フタ付きのもの（ペットボトル、マイボトル）に限り持ち込むことができます。

座右

阿久津 由佳 先生

Remember that sometimes not getting what you want is a wonderful stroke of luck

Dalai Lama XIVの言葉です。「あなたが欲しいものを得られないということは、時として素晴らしい幸運のめぐり合わせであることを忘れないように」という意味です。失敗しても、どんな状況でも、それをどう考えるか、どう活かすかは自分次第。いつでも前向きでいたいです。

阿部 圭司 先生

「少年の心と大人の財布」

学生の頃、最も影響を受けた作家、開高健の言葉です。意味としては旅の極意そのものですが、広く解釈しています。少年の心とは驚くこと、興味を持つこと、チャレンジすること。大人の財布とは、金銭的余裕はもちろん、肉体的(つまり健康であること)、そして精神的余裕ではないかな、と。余裕を持って、かつ好奇心の赴くままに人生を送ることができたらなあ、と日々バタバタしつつも憧れてしまうのです。

池野 正晴 先生

- ・ 学びて思わざれば、すなわち暗し。(学而不思即罔)
- ・ 思いて学ばざれば、すなわち危うし。(思而不学即殆)
- ・ 人間は、努力する限り、迷うものだ。

(Es irrt der Mensch, solang'er strebt!)

『論語』(孔子)と『ファウスト』(ゲーテ)の言葉から選んだものです。2つを繋ぎ、「学問」に通ずる「真面目な」言葉にしたものです。「問いて学び、学びて問う」、「問うことを学び、学ぶことを問う」。「学び考える」ところに、「創造」あり。('学・考→創') また、「創造」は、「迷い」をごまかさずに見つめることから始まる。自分を戒めると同時に、学生の皆さんにもお贈りしたいと思います。

井上 真由美 先生

「艱難汝を玉にす」

日本を代表する企業家・出光佐三が、創業後、度重なる苦難の中で店員たちに言い聞かせた言葉です。一見平凡にみえる格言ですが、歳をとるにつれ、この言葉のもつ重さ、非凡さを感じられるようになりました。皆さんが乗り越えられないような困難に直面した時、この言葉を思い出していただきたいと思います。

の 銘

伊藤 宣広 先生

Chi va piano, va sano;

chi va sano, va lontano. (静かに行くものは健やかに行く。健やかに行くものは遠くまで行く。)

座右の銘というと大袈裟ですが、気に入っている言葉です。イタリアの諺で、挫折を味わい失意のなかにあったレオン・ワルラスを励ますため、父オーギュストが伝えた言葉だそうです。

大石 恵 先生

「知足常樂」(足るを知れば常に樂し)

昔、台北で行きつけだった足つぼマッサージ店の店名が「知足常樂」でした。「知足」は老子の遺した書物『道德經』の中に出てきます。第33章では、足るを知る者は富む、第46章では、足るを知らないことほどの災いはない、と、人間の内面の豊かさが重要であることを解いています。翻って、自分は何不自由ない生活を送っているにもかかわらず、不平不満が多いのではないか。それ以来、「知足常樂」でいられるよう心掛けています。

大村 和人 先生

「どういうふうに、人々のイメージを合成していくか、組織内のコトバの沈殿を打破して自主的なコミュニケーションの幅をひろげていくかというのが、これからの社会科学の当面する問題ではないでしょうか。」

丸山真男 (1914 ~ 1996) 「思想のあり方について」 (1957)

所謂「日本タコツボ化社会論」の一節です。少々舌足らずな引用ですが、「これからの社会科学の当面する」を「日本の中国古典学が既に当面している」に置き換えれば、現在の日本における中国古典学の課題を言い当てています。私は本学で唯一この領域を研究している者ですが、自分や同業者の研究成果とその意義を異なる専門の方々にも分かりやすくお伝えするために、今後も努力し続けていかなければと考えています。



尾形 祥 先生

「いろいろなことに興味をもって、
こつこつ淡々と日々努力すること」

専門分野は当然ですが、それ以外の様々なことにアンテナを広げていると、それが
思わぬ形で自分の研究に活かされることがあります。好奇心が研究活動の原動力だ
と感じています。また、仕事も研究も日々の積み重ねですので、こつこつ淡々と地道
に努力していきたいですし、それが私のスタイルであると思っています。それと、しっ
かりと仕事や研究をすることができるようにするためには、健康第一であると最近と
くに実感しています。

唐澤 達之 先生

Someday We'll All Be Free

いわゆる格言とか名言ではないのですが、自分の気持ちのよりどころにして
いる曲のタイトルです。R & Bの伝説的なアーティスト、ダニー・ハザウェイ
DonnyHathaway (1945-1979) の名曲です。自分の娘に捧げた曲とされています
が、「目ぐるしく動き変化する時代のなかにあっても、誇りを失わずに胸を張って
しっかり生きなさい」というメッセージは、美しすぎるメロディとともに心にしみこん
でいきます。

今野 昌信 先生

「至福は徳の報酬
ではなくて徳それ自身である」

スピノザ『エチカ』(下), 定理 42. (岩波文庫版)

全体の最後の定理です。初めから読むのは骨がおれますが、下巻だけでも読んでみ
ると、この言葉の意味が深く味わえます。

佐藤 綾野 先生

「努力と根性」

私が自分に負けそうになった時、心の中で唱える言葉です。

の 銘

佐藤 敏久 先生

「行蔵^{こうぞう}は我^きに存^よす、毀^き譽^よは他人^{たにん}の
主張^{しゅじょう}、我^あに与^よからず我^あに関^{かん}せず」
(勝海舟)

大学院生のころ、「いい研究をしなきゃいけない」と思い込んでいたが、それは、頭のどこかで、他人に認められたいという気持ちがありました。でも、尊敬する先生は、わき目も振らず自分の解決しなくてはならない問題に、一生懸命に取り組み、成果を出していました。そこには、人に認められたいなどという気持ちはありませんでした。結局、その先生の研究は、後年になって認められ、開花しました。私もはやりすたりのテーマではなく、長く戦えるテーマを研究しなくてはとおもったものです。そんな時に会った言葉です。

関根 雅則 先生

「悪いことしない」

小学生みたいな言葉ですが、座右の銘というより、何かを決定、行動するときのスタンスです。人によっては、悪いことしても平然としています。私はそれほど精神的に強くありません。おそらく、価値観と照らし合わせて「正しくない」ことをすると、それが頭から離れずいつまでも気が重くなってしまうと思います。もし、誰かから責められるようなことがあっても、「悪いことしてないから」って言える自分でいたいと思っています。



坐

右

高松 正毅 先生

“Stay hungry, stay foolish”

(ハングリーであれ、無謀であれ)

(‘foolish’は「バカ」や「愚か」と辞書にはありますが、ここでは「無謀」や「がむしゃら」が当たるでしょう。)

この言葉は、1968年に米国で発刊された雑誌「全地球カタログ (The Whole Earth Catalog)」最終号 (1974年) の裏表紙に、別れのメッセージとして書かれていたものです。アップル社のCEOであったスティーブ・ジョブズは、スタンフォード大学の卒業式 (2005年6月12日) で、この言葉を引用し「私自身、常にこうありたいと願いつけてきました。そして今、卒業し新たな人生へと踏み出すみなさんにも、こうあることを願っています。」と自身のスピーチを締めくくりました。ちなみに、米国では大学の卒業式をCommencement (exercises)と言います。Commencement とはBeginningという意味で、大学の卒業を人生のスタートととらえる思想が現れています。スティーブ・ジョブズを心より尊敬する私も、常にこうありたいと心に刻んでいます。

田中 久夫 先生

「昨日を追うな 明日をたのむな 今日を生きよ」

都内の某名利にて、年に数回、各界著名人が参加する座禅の会があります。静謐な空間、弛緩した肉体、平穏な精神、無の状態のときに住職から拝聴した金言は、心中に染み入ります。一日の仕上げに酒を楽しむ。そんなとき胸中をよぎる自戒「今日は頑張ったか?」。人生は一度切り。掛替えのない時間。後悔したくない。少壮では気づかない人生の終末観。学生諸君には、自らがやるべきことに早く気づけよと、願う。俺も齢をとったなあ。

谷口 聡 先生

「微速漸進」

自分の目標や夢は早く実現するにこしたことはない。しかし、人間は日々生活上の雑事、近親者の世話などをしなくてはならず、加えて、自分に対する甘えとの格闘もしなくてはならない。だから、一日一日を大切に、目標に向かって僅かでも継続的に前進していくよりほかに、その実現の道はないと考えている。(ちょっとストイックかな・・・)

の 銘

土谷 岳史 先生

「結果オーライ」

ずいぶん前ですが、ヤクルトの高津投手がテレビで言っていたのを見ていいなと思いました。がんばってもダメなときはダメですが、なにかの拍子でうまくいくこともあるだろうという気楽さも大事だと思います。

木下 まゆみ 先生

「完璧を求めるより、まず終わらせろ」

フェイスブック社の最高責任者（COO）の著作（『リーン・イン』）での言葉です。彼女は（そう！女性）は2児の母でもあります。私にも小さい子どもがいるので、その多忙ぶりは想像できます。この言葉を目にした時、「時間がない」のは正しくは「時間を管理できない」ことだと気づきました。啞然、そして反省……。しかし、少し気が楽になりました。人生も同じでしょうから。完璧よりも、小さな「終わり」を積み重ねた人生を目指せ、と。

中野 正裕 先生

「真心を尽くそう。 そして創意工夫を楽しもう。」

「座右の銘」というには少し軽いフレーズかも知れませんが。ただ数年前から、ゼミ諸君の前で（ちょっと偉ぶって）時々口にしています。創意工夫を楽しむことができれば、高度なスキル、新しいスキルを身につけることは難しい。でも、高度なスキルを備えても、心を込めてなされない仕事は人の心に伝わらないでしょう。どちらか一方の際立った経大生は結構見かけるのですが。あなたは両方ともできていますか？

久宗 周二 先生

「和顔愛語」

大学院を出て、初めて就職した会社の寮の舎監さんに教えてもらった言葉です。いつも心がけています。



座

藤本 哲 先生

「できる人ほど他人に頼るのがうまい」

これまで座右の銘を持ったことはないが、学生の皆さんに参考になる言葉を挙げなければなりません。これを選んだ理由は教員インタビューのページに書いてあります。困った時は、とりあえず誰かに相談しよう。人は自分の出来る範囲内でしか他人を助けられないもの。その人が助けてくれなくても、別の相談相手を教えてくれることは多い。だから遠慮は要らない。100%でなくても助かる部分はあるしね。「弱い紐帯の強さ」

水口 剛 先生

「できることをする、
できないこともある」

紛争地域で医療ボランティアをしている看護婦さんが、インタビューの中で言っていた言葉です。彼女のところには日々負傷者が運ばれてきます。どんなに手当てをしても、きりが無い。手のほどこしようもなく亡くなる人も多い。それでも絶望せず、「できないこともある」と割り切って、できることをするというのです。彼女には及ぶべくもありませんが、私も自分の仕事の中で、様々な社会の課題に対して「できることをする」という姿勢でありたいなと思っています。

山崎 薫里 先生

「いつか役立つかも～」

これといった座右の銘はありませんが、無理やり探してみたらこれになりました。大学にはすぐに役立たない研究をしている先生がいます。数学の先生はその筆頭でしょう。超一流の数学者を除くと、研究がすぐに世の中の役に立つことはありません。すぐにどころか、ずっと役に立たないままかもしれません。でも「いつか役に立つかも～」とちゃんと種をまいているので、皆さんも温かい目で見てやって下さい。

山本 芳弘 先生

「他人と同じことをしても意味がない」

研究は独創的でなければなりません。今まで誰も考えつかなかったからこそ、それが社会に変革をもたらす可能性があります。研究スタイルにしても、ある人に最適なスタイルが自分にとっても最適であるとは限りません。そして、より優れた成果をあげたければ、他人よりはるかに多くの努力をしなければなりません。

Part VI

先輩から学べ!! 卒業生インタビュー

- No.1 大島 孝之さん
- No.2 関口 史人さん
- No.3 清水 さゆりさん
- No.4 沼賀 理江さん
- No.5 生方 秀徳さん
- No.6 松本 光央さん
- No.7 富井 建太郎さん
- No.8 木村 建太さん

OB・OGの学生時代から現在までについてインタビューしました。有意義な学生生活を送るためのヒントがたくさん詰まっていると思います！



株式会社ベルク 代表取締役社長

大島 孝之 さん

(オオシマ タカユキ)

プロフィール

1977年経済学科卒業。1979年に入社し、店舗運営部長、取締役店舗運営部長、常務取締役店舗運営部長、代表取締役専務販売運営部長、代表取締役専務を経て、現在、株式会社ベルク代表取締役社長。

Q 高崎経済大学を志望した理由を教えてください。

A 私は、現役で高崎経済大学に入りました。学校の授業だけ受けて受験しました。得意科目は数学で、当時の試験科目に数学が含まれていたため、有利だったということもあり受験し、入学することができました。

Q 学生時代はどのようなことをしていましたか？

A 学生時代は生物部に所属していました。生物部では、山に登って植物採取を主にしていました。夏休みには、尾瀬の山小屋で1ヶ月間、生物部の部員と交代しながらアルバイトをした経験もあります。また、生物部が主催して、他大学の学生達と尾瀬ハイキングを行ったりもしました。尾瀬だけではなく、妙義山（群馬県の下仁田町・富岡市・安中市の境界に位置する日本三大奇景とされる山）や焼岳（長野県と岐阜県にまたがる活火山）などの山にも登ったりしてましたね。

Q 大学の4年間ではどのようなことを学びましたか？

A 加藤敬弘先生（現在、本学名誉教授）のゼミに所属していました。ケインズの一般理論を読破しようというゼミでした。そういったことから、近代経済学や景気循環論をよく勉強していました。

Q 大学の4年間で学んだ事は現在、どのような形で生かされていますか？

A 学生時代、ケインズ理論を勉強してきたので、例えば、今現在、安倍政権が行っている経済政策などは新聞を読んでいて理解しやすいですね。

Q なぜ、ベルクに就職されたのですか？

A 大学を卒業してから2年間、高崎にある焼肉屋に就職しました。将来、自分で焼肉レストランの店を持ち、チェーン化して会社経営をしたいと思っていたからです。ただ、2年間頑張ったのですが、どうも無理そうな気がしてきました。一度サラリーマンになったほうが良いなということで焼肉屋をやめました。私は、長男だったので地元に戻り両親と一緒に暮らして面倒をみようと思い、埼玉県秩父市に里帰りしました。そこでベルクの前身である「主婦の店秩父店」に就職することができました。途中でやめたとはいえ焼肉屋の経験は、総合食品スーパーの仕事に役立ちました。





Q 私たちも買い物でお世話になっているベルクは、どのような人材を必要としていますか？

A 明るくて、元気な人ですね。お客様から見たときに、暗くて静かな人よりも明るくて元気な人の方が、感じがいいですよ。従業員一人一人の感じがいいと、感じのいいお店になるんです。そうなればお客様が、「また行こう」というようになってくれます。

Q 社会に出ていく上で何か大切なことはありますか？

A 真面目に努力することですね。入社当時、社内報で新入社員を紹介するページがありました。そこには、私のモットーとして「努力こそが目的達成の最大の方法」と書かれてあります。まさに、この言葉のまま 40 年間社会人としてやってきた気がします。社会人生活の基本的な取り組み姿勢はこの言葉にあると思います。ただ、ひたすら長時間働くことが努力をすることではないでしょう。限られた時間の中で、いかに効率よく、質の高い仕事をしていくかが大切です。



高経生に一言

何事に対しても一生懸命取り組んで、幸せな人生を歩いていってください。
みなさんの今後のご活躍を期待しています。



関口 史人さん

(セキグチ フミト)

プロフィール

1992年経営学科卒業。現在、清水建設勤務。

Q 高経を志望した動機を教えてください。

A 正直に話すと国立大学理系の受験に失敗し、当時のC日程で高経に受かったからです。初めて高崎に降り立ったときは、こんな田舎なのかとショックを受けましたね。

Q どのような大学生活を送っていましたか？

A TIES（タイス）と呼ばれる留学生のサークルに日本人で唯一所属していました。そこは元々、留学生のみが所属している団体だったのですが、あえてその門をたたきました。中国、韓国、マレーシアやブラジルなど様々な国の方達と交流し多様な文化や価値観に触れて、自分の見聞を広げました。学園祭の時などは各国の料理を出したりもしました。そのおかげで、今でも家族に各国の名物料理を振る舞っていますよ。

また、学内のみの生活にとどまりたくなかったこともあって、アルバイトを積極的に行っていました。

Q 当時と、大学の外観は変わりましたか？

A 私が在学中の頃（20年ほど前）と比べて、外観はかなり変わりましたね。1号館、6号館、7号館はまだなかったですから。当時は地域政策学部がなく経済学部のみでしたので、今と比べて学生数は少なかったですね。男子学生ばかりでした。

Q 大学生活で強く印象に残っていることは？

A 先程、アルバイトを頑張っていたと言いましたが、その中でも特に印象に残っているのは、水泳の指導員の資格を取得し、インストラクターをしていたことです。そこでは、幼い子供からお年寄りまで、様々な年齢層の方々と接する機会に恵まれました。さらに、私が指導していた社会人の方たちと団体を作り、マスターズ大会等にも参加しました。その方々とは、現在でも年賀状のやりとりをし、高崎に行ったときには一緒に飲むなど、親しくさせていただいています。そこで目上の方、社会人の方と関わった経験が、今振り返ってみると社会に出てからも非常に役に立っていますね。

Q 入社の動機を教えてください。

A 元々、都市工学や街づくりに興味があって、建設業界に就職しようと決めていたのですが、一番は「人」ですね。就職活動で清水建設にOB訪問に行きました。OBの方の話聞き、仕事に対する熱意やプライドを他の企業よりも感じ、ここで働きたいと思いました。その先輩からも「一緒に働こう。」と声を掛けて頂き決めました。

Q 就活で大切なことを教えてください。

A 「挑戦しよう」それに向けて「周到に準備をしよう」です。その準備には（OB・OGなど）人に会うことです。面接のとき、どれだけその企業を知っているか、同業他社ではなく、なぜその企業に入りたいのかを自分の言葉で話せることが大切になります。

今は、ネットに企業情報が転がっています。しかし、それよりも、実際にそこで働いている方の生の声を聞いておいた方が、就活では間違いなくアドバンテージになります。

高経生に一言

キャンパスの中に収まっているだけの大学生活は面白くないと思います。いろいろなところへ行って、多くのことを経験して欲しいですね。

まずは、積極的に人と会う・関わるということが大事です。年齢、立場、国籍に関係なく、数多くの人と接することで様々な価値観を知ることができます。高経大で学び高崎の人達に育てられた私は自信を持って言えます。

No3



清水 さゆりさん

(シミズ サユリ)

プロフィール

1998年経営学科卒業
 2000年早稲田大学大学院商学研究科修士課程修了
 2009年早稲田大学大学院商学研究科博士後期課程単位取得満期退学
 早稲田大学産業経営研究所助手、早稲田大学商学学術院助教、中央学院大学商学部専任講師を経て、2012年より本学経済学部経営学科准教授

Q ご経歴と研究分野について教えてください。

A 私は高崎経済大学に入学した後、国境を越えた企業活動に関心を持ちました。私が学生の頃は国際経営・国際ビジネスのゼミがなかったこともあり、貿易論のゼミに入りました。3年の終わりには、アメリカのオレゴン州の大学に1ヶ月間短期留学をしました。当時は今のように大学が留学を支援してくれる制度もなかったため、アルバイトをして留学費としました。留学期間の2ヶ月（アメリカでの生活が大変なしかったため延長）が経ち帰国した後、「国際経営」についてさらに学びたいと思い、大学院へ進学することにしました。

進学先の早稲田大学大学院の恩師は国際ビジネスにも踏み込んだ貿易論を研究していました。ここでは、学問的にも人間的にも様々なことを学び、多くの先生、先輩、同輩との知己を得ました。その後、早稲田大学産業経営研究所の助手、商学学術院助教、中央学院大学商学部の専任講師を経て、高経に着任しました。「国境を超えた企業の活動」に関心をもち、とりわけ製造業を中心に研究しています。ただ私の場合は、実際に現場・現地をみるフィールドワークをベースに、中小・中堅企業の研究を中心に進めています。

Q 短期留学した理由について教えてください。

A 海外に行ったことがなかったので、一度行ってみたいと思ったためです。語学留学では様々な国籍の友人を得ることができます。今はタイなど東南アジアを中心に企業を毎年訪問しています。東南アジアは勢いがある興味深いところです。どんな時も楽しい要素を見つけようと思えば楽しくなるのではと思います。

Q 高経を志望した理由について教えてください。

A 学報にも書いてあると思いますが、座右の銘「人間万事塞翁が馬」です。

Q キャンパスライフをどのように過ごされましたか？

A 私が在学中は今ほど出席に厳しくなかったこともあり、自分の学びたいことに時間を費やすこともできました。サークルにも入り、友人と目一杯遊んで学生生活を謳歌したと記憶しています。

しかし、求められる必要なのはしました。履修単位は全て取得し、たとえ前日たっぷり遊んでも1限は出席しました。当時はあまりインターネットが身近ではなかったの、休みの日は本を読むことも多かった。アルバイトは家庭教師をしていました。教える時に感じたのは、叱るのは難しいということです。身内だと叱れても他人だとなかなか叱れないと実感しました。教員になった今では、親身になって指摘してくれる人はありがたいなと思います。

Q 学生のうちにすべきこと、しておいたほうがよいことはありますか？

A 関心のあることは徹底的にやってみることです。私は人とたくさん遊んだり、本もたくさん読みました。活字、練りに練って書き、推敲された文章を読むことが大事だと思います。これは小説でも何でもよいと思います。

Q お仕事のやりがいについて教えてください。

A 責任は自分にかかってくるけれど、ある程度の権限があるため、やりたいこと（いろいろな企業を研究）をやりたいようにできることです。私のゼミでは企業を訪問したり、実務家にゼミで話していただいたりしますが、そのときにゼミ生が褒められるとやはり嬉しいです。

高経生に一言

4年間というたっぷりある時間の中で、ルールに縛られすぎずに遊び、学び、そしてやりたいことを見つけてほしいと思います。

沼賀 理江さん

(ヌマガ リエ)

プロフィール

2015年3月経営学科卒業。現在、高崎経済大学大学院経済・経営研究科現代経営ビジネス専攻博士前期課程1年。

Q いつから大学院に進もうと考えたのですか。また、そのきっかけとは何ですか？

A 大学3年12月。就職活動もしていましたが、手に職をもって仕事をしなかったので、卒業後の進路の一つとして税理士を考えていました。税理士を目指すには、会計学や税法に関する幅広い知識を習得しなければと思ったため、進学を検討しました。

Q 税理士とは、どのような仕事ですか？

A 税理士は、独立した公正な立場において、納税義務の適正な実現を図ることを使命とする税務のプロです。具体的には、企業や個人等、納税義務者の求めに応じ、「税務代理」「税務書類の作成」「税務相談」「会計業務」「租税に関する訴訟の補佐人」といった業務に携わります。脱税相談に応ずることはできませんし、守秘義務もありますので、非常に大きな職業倫理が求められます。

Q 学部生時代は、どのような活動をしましたか？

A 佐々木茂先生のゼミに所属し、マーケティングに関するテキストの輪読や、共同論文の制作、地域でのボランティア等の活動を行いました。また、OB会など、多くの方の意見を聞ける場もあり、人との関係の大切さを学びました。

Q 大学院に進んで、どうですか？大学と大学院との違いは、どのようなものでしょうか？

A 大学院は、大学と、以下の点が変わりました。

- ◆講義の準備（予習等）が必要——院では輪読形式で進められる科目が多いため、予習をしたりレジュメを作ったりなど、大学時代よりも予習に莫大な時間が必要です。
- ◆快適な勉強空間——院生室には、PCやコピー機、専用デスク等が完備されていて、研究に適した環境が整っています。
- ◆少人数講義——大学時代のゼミのような感じ。多くても8人程度の受講者数であり、教授とも深い議論を行うことができます。

Q 大学院進学を考えている人にアドバイスはありますか？

A 高経大経済学部生に限られますが、成績が優秀であれば、大学院入学試験のうち筆記試験が免除されるので、進学をよりスムーズにするためにも、学部生時代からこつこつと勉強に励むことをおすすめします。

私も、希望する演習の担当教授（田中久夫先生）にその旨を伝え、研究の相談をしながら準備を進めることができました。

高経生に一言

思い切り遊ぶこと、勉強すること等、今だからこそできることに挑戦してほしい。やらなかったことを後悔しないように、どんどん行動に移していってください！

皆さんの学生生活が充実したものになるよう願っています。

№5



生方 秀徳さん

(ウブカタ ヒデノリ)

プロフィール

2013年経営学科卒業。
現在ネットトヨタ高崎株式会社勤務。

Q 高経でよかったことは何ですか？

A ACTというボランティアサークルに所属していました。そこでイベントを考えたり、活動するなかで地域の方との触れ合いが多かったのが楽しかったと思います。

Q 高経を志望した理由について教えてください。

A 私は商業高校の出身で、高経には推薦入試で入りました。自分の持っている資格を大学でさらに深く学びたいと思い、志望しました。

Q キャンパスライフをどのように過ごされましたか？

A ゼミはマクロ・ミクロ経済学の岡田知之先生のゼミに所属していました。

また、靴屋でアルバイトをしていましたが、夏休み中は社員さんよりも長く働くなど頑張りました。でも、もっとがんばったのはサークル活動ですね。具体的には特別養護老人ホームの「ようざん」さんを訪問したり、学童に来ている子供達と遊んだりしました。生徒に「先生」と呼ばれると嬉しかったです。他にも、公民館を借りて夏祭りやクリスマス会を催しました。イベントの準備にはかなり時間がかかりましたが、空き時間をうまく使いました。また、サークルでは代表を務めましたが、メンバーの間に意識の差があり、まとめるのが大変でした。しかし、やりがいの感じられる活動でした。

Q 学生時代にしておけばよかったことはありますか？

A もっといろいろなところに旅行すればよかったと切実に思います。社会人になるとなかなか休みが取れなかったり、休みが友達と合わなかったりします。もっと国内旅行しておきたかったですね。

Q 今のお仕事を志望された理由について教えてください。

A 自動車ディーラーは他県への転勤がなく、大好きな群馬県に貢献できると思ったんです。それにどうせ仕事をするなら売って終わりでつまらないと思ったんですよ。車は購入してからが大切で、アフターサービスが重要なんです。ディーラーはお客さんと深い付き合いができ、長くなればなるほど感謝されるので、この仕事に就きたいと思いました。

Q 今のお仕事にやりがいはありますか？

A 車は高価なものなので、そう簡単には売れません。なので毎日感じられないですね(笑)。ただ、実際にお客様に「ありがとう」と言っていただけなのは、思っていたよりも嬉しいですね…涙が出そうなほどに。

Q 就活で大切なことは何ですか？

A サークルでもアルバイトでも、何を頑張っているかを言えること、これをいかに誇らしく言えるかだと思います。何でもいいです、旅行に行きましたとか…私の場合は70人くらいのサークルの代表だったことですね。他にも、高崎から石川まで車で行ったことはディーラーでの面接のネタになりました(笑)。

高経生に一言

大学の4年間は長いと思って入りましたよね。でも長いようでかなり短いです。なので、何かしたほうがいいですね。「ああ、いい4年間だったな」、できれば「高経でよかったな」と思える4年間にしていただければと思います。



松本 光央さん

(マツモト ミツオ)

プロフィール

2016年経営学科卒業。在学中は、大学の助成金を利用して2013年・2014年にイギリス（ロンドン）とニュージーランドでの短期留学、また、2014年9月から2015年8月までドイツ提携校との交換留学を経験。帰国後も、東京のベンチャー企業で長期のインターンに従事していた。

Q ドイツの企業でインターンをしようと思った理由を教えてください。

A 海外の企業でお仕事してグローバルな経験を積むため、大学で学んだ知識を生かし実践的な経験を積むため、および私がどれだけ日本語ではなく英語やドイツ語が主要言語である企業で働く力があるか証明するためです。

Q インターンをするにあたってどのような準備をしましたか？

A 英語の履歴書やカバーレターを作成しました。文法や論理的な構成などは徹底し、何度も繰り返し見直しました。客観的な評価は大変重要だと考え、大学での英語の先生、留学生の友人、ドイツ人学生や、実際に働いている友人など多くの人にチェックしてもらいました。少なくとも10回は直していると思います。英語で電話する際のマナーに気を付けたり、そのとき話す内容についても練習を重ねました。最終的には、電話インタビューならびに直接オフィスでの面談を通してインターンを決めました。

Q インターンをした街について教えてください。

A インターンに従事したザールブリュッケンは、フランスとの国境沿いにある、人口17万人の工業都市です。この街は音楽が盛んで、インターン先の上司や現地ですでた友人を含め、多くの人が音楽に携わっています。留学中は、毎週学生による無料ライブが行われていたため、勉強の傍ら、仕事終わりにジャズのコンサートなどを楽しんでいました。

Q インターン先の企業のこと、どのような仕事を行ったか教えてください。

A インターン先は情報センサーによる環境コンサルティングの会社で、私は、経理の仕事を担当しました。仕事は、主にお客様へ送る請求書を数多く管理したり、自分で実際に請求書の作成をサポートしたりしていました。また、他にも、トヨタからの発注書を英語に翻訳したり、Horizon2020というEUのプロジェクトにも携わり、数多くのプロジェクトからインターン先の企業に最適なプロジェクトを選ぶ仕事を行いました。

Q インターンを通じてよかったことはありますか？

A 将来これから働いていくうえで、ドイツでのインターンの経験は、グローバルな視点を磨いていくうえで生きてくると考えています。また、社会人の方と一緒にお仕事させてもらうことで、ドイツの人の仕事に対する考え方を学ぶことが出来ました。

高経生に一言

大学4年間、自分でやりたいと思ったことはなんでも挑戦してください。高崎経済大学では、教員との垣根が低く、留学制度等も充実しているため、あなたのチャンスを広げてくれるでしょう。あなたが謙虚に取り組めば、手を差し伸べてくれる人は必ずいます。自分でやりたいことについて、強い意志と流されない勇気をもって臨んでください。

木村 建太さん

(キムラ ケンタ)

プロフィール

1992年生まれ。栃木県出身。2015年3月経営学科卒業。2015年4月より経済・経営研究科に進学。池野正晴先生をはじめ多くの先生方にご指導をいただきながら自分の修論準備を進めている毎日です。息抜きに某レンタルビデオショップに寄っては漫画や洋画DVDをレンタルして鑑賞しています。

Q いつから大学院に進もうと考えましたか？また、そのきっかけは何ですか？

A 大学4年の秋です。

大学へ入学したばかりのころは特に教員を目指しているわけではありませんでしたが、教職課程の授業を受けていくうちに自分の進路選択の中で教師が大きくなりました。教育哲学や教育相談、地理歴史科教育法など面白い科目が多くあったからかもしれません。数ある教職課程の科目の中でも特に印象的だった科目は介護等体験実習や教育実習ですね。これらの実習を通して教師になろうと決意することができたと思います。私の場合、池野正晴先生のゼミに所属していましたから、同じ進路を目指すメンバーが近くにいたことも大きかったと思います。

Q 大学院に進学するためにしたことを教えてください。

A 本学での成績が優秀だと筆記試験が免除されるため、筆記試験に対しては特に準備することはありませんでした。面接試験に向けて自分がどのように研究していきたいのか構想を練ることに力を入れました。

Q 大学院進学にあたって学生のうちにやっておくべきことは何ですか？

A できるだけ早い時期に自分が研究したいテーマを見つけて、研究を深めておくことです。

Q 大学時代の活動を教えてください。

A 池野ゼミに所属し、特に表現の仕方に力を入れました。試験勉強はもちろんのこと、教育研究団体等の勉強会や高校生作文指導講座に講師として参加しました。大学院でも池野教授に指導していただいています。

Q 大学と大学院の違いは何ですか？

A 先輩との身近さ——人数が少ないからか、同級生だけでなく博士前期課程や後期課程の先輩と顔を合わせる機会が少なくありません。これがごちない会話であるなら気まずいかもしれませんが、和気藹々とした雰囲気です。

Q 教員になるために必要なことは何ですか？

- A**
- ①大学入試までつちかってきた学力を維持し続けること・・・教員採用試験に合格するために重要です！
 - ②大学の講義だけで満足しないこと・・・大学の教養科目を履修することをスタート地点とし、新書をはじめ科目に関係する本を読んで勉強し、知識や理解を深めておきましょう。同時に生徒へ丁寧に説明できるよう、本や講義で得られた知識や理解したことを記録・整理しておくとういことです。
 - ③表現の工夫・・・レジュメ作成等で、どのように作れば相手が見やすく・わかりやすくなるか工夫を凝らし悩み続けることが大切です。

高経生に一言

大学4年間はあっという間です。新入生の皆さんは4年間で達成できる・したい目標を2～3個設定することをオススメします。そのうち最低限1つを達成できるようにがんばりましょう！

Part VII

経済学会紹介

平成27年度 経済学会事業報告

本会は、学術研究およびその発表を通じ社会に寄与することを目的とし、50年以上の伝統を誇る学術団体で、様々な事業を行っています。

1. 機関誌「高崎経済大学論集」の発行

- | | |
|--------------|-----------------|
| (1) 第58巻 第1号 | 発行日 平成27年 6月30日 |
| (2) 第58巻 第2号 | 発行日 平成27年 9月30日 |
| (3) 第58巻 第3号 | 発行日 平成27年12月31日 |
| (4) 第58巻 第4号 | 発行日 平成28年 3月31日 |

2. 論集別冊「Intro ～学びへのいざない」の発行

2016年版 発行日 平成28年 3月31日

3. 学術講演会の開催

第1回学術講演会

平成27年6月29日（月） 14：20～

「映画プロデューサー研究からみる 創造的個人の組織化戦略」

講 師：山下 勝氏

青山学院大学経営学部 教授

場 所：図書館ホール



第2回学術講演会

平成27年7月23日（木） 14：20～

「戦後70年の日本経済を考える」

講 師：石井 寛治氏

東京大学 名誉教授

場 所：図書館ホール



第3回学術講演会

平成27年10月16日（金） 14：20～

「技能と技術で生きる中小企業」

講 師：鵜飼 信一氏

早稲田大学商学大学院 教授

場 所：図書館ホール



第4回学術講演会

平成27年11月13日（金） 16：00～

「マーケット・デザインに関する理論と実験」

講師：川越 敏司 氏

公立はこだて未来大学システム情報科学部 教授

場所：図書館ホール



4. 研究会

《第1回》 日 時 平成27年12月15日（火）

場 所 図書館会議室

講 師 向井 悠一郎（本学経済学部 専任講師）

「日本の造船会社の競争力：アーキテクチャの視点からの検討」

《第2回》 日 時 平成28年1月13日（水）

場 所 図書館会議室

講 師 安達 剛（本学経済学部 専任講師）

「多数決でマッチングを決めると嘘を付く誘因が生じること」

《第3回》 日 時 平成28年3月2日（水）

場 所 協同会議室

講 師 石田 崇（本学経済学部 准教授）

「情報処理技術と経営工学の諸問題への応用について」

5. 学生懸賞論文の募集

募集期間 平成27年10月1日（木）～11月25日（水）

論文テーマ 「現代の諸問題とその解決策について」

入賞論文

銀賞 「ワーク・ライフ・バランスと企業の役割

マタハラ・パタハラと長時間労働の改善」

経済学部 3年 本間 美帆 北村 剛

藤田 直也

佳作 「男性の育児休業取得率向上のための方策

～成功した企業の事例を参考に～」

経済学部 3年 芳賀 真依子 津久井 慧

石島 修平 小此木 綾華



6. そ の 他

- (1) 正会員総会 第1回 平成27年 4月15日 (水)
- (2) 理事会 第1回 平成27年 4月15日 (水)
第2回 平成27年 4月22日 (水)
第3回 平成27年 5月27日 (水)
第4回 平成27年12月 2日 (水)
第5回 平成28年 1月27日 (水)
- (3) 各大学および研究機関との論集交換 国内391ヶ所 海外15ヶ所
- (4) ゼミ卒業論文集及び活動報告書刊行費補助
- (5) 学生向け学習・研究支援プログラム

- 《第1回》 開催日 平成27年12月9日 (水)
担当教員 内藤 まゆみ (本学経済学部 准教授)
事業名 「インプロ・ワークショップ」
講師 インプロジャパン 公認講師
- 《第2回》 開催日 平成27年12月15日 (火)
担当教員 佐藤 綾野 (本学経済学部 准教授)
事業名 「国際貿易研究報告について」
講師 Ivan Deseatnicov (一橋大学 研究員)
- 《第3回》 開催日 平成28年1月14日 (木)
担当教員 井上 真由美 (本学経済学部 准教授)
事業名 「ブラック企業・ブラックバイトの
現状と課題について」
講師 吉野 晶 (群馬弁護士会 弁護士)
- 《第4回》 開催日 平成28年2月3日 (水)
担当教員 永田 瞬 (本学経済学部 准教授)
事業名 「いま、立憲主義を考える」
講師 赤石 あゆ子 (群馬弁護士会 弁護士)

編集後記

本年度も、無事、『INTRO』を刊行することができました。この『INTRO』は、新入生の皆さんが本学に入学し4年間の学生生活を有意義に送れるようにとの趣旨で、毎年、教員や学生が協力して作成しております。本年度は特に、入学時だけでなく、1年後期の学科選択、2年前期のゼミ選択や、3～4年次の進路選択の際にも、是非参考にして頂ければと、全体の流れを修正したうえで、当ゼミ生が学生目線で当時疑問に思ったことや失敗したことなどを先生方にお聞きした記事を、新たに掲載いたしました。この『INTRO』が、新入生の皆さんが充実した学生生活を行うための一助となることができれば、編集者一同、これ以上の喜びはございません。

この『INTRO』ですが、完成に至るまでには、多くの方々のお力を借りています。まずは、ご多忙の折、インタビューや原稿執筆等にご協力頂いた先生方、OB・OGの皆様、在校生の皆様には、この場を借りて深甚なる感謝の言葉を申し上げます。

また、今年度の『INTRO』には、新たなインタビュー記事が多く掲載されておりますが、インタビュー、写真撮影や、記事の作成等には、藻利ゼミ一期生全員が協力してくれました。彼らの尽力がなければ、今年度の『INTRO』は完成しなかったでしょう。ゼミナール協議会という学生団体が主催している経済学部のパレゼンテーション大会、学長杯やインターゼミ（他大学との交流ゼミ）で、優勝を果たしながら編集活動にも尽力してくれた、優しく優秀なゼミ生たちに、この場を借りて衷心より謝意を捧げます。

末筆ではございますが、『INTRO』の編集・印刷にご協力いただきました、経済学会会長の矢野修一先生、経済学会事務局の青木加奈子さん、上武印刷株式会社の方々にも、深謝の微を披露し、編集後記を締めくくりたいと思います。

経済学会理事 藻利衣恵

INTRO 2016 編集メンバー（藻利ゼミ一期生 全員）



筒井美琴 若井 剛 今井大真 小杉十真 樋口大樹 大場光浩 東 竜也 石岡 歩
大谷香織（藻利） 木村真志 中島勇司 黒澤康平 高橋智美

— 学びへのいざない —



The Society of Economics
Takasaki city university of Economics

INTRO 2016 ～学びへのいざない～ 高崎経済大学経済学会

●学会役員

学会長	矢野 修一				
副会長	土谷 岳史				
理事	安達 剛	天羽 正継			
	尾形 祥	永田 瞬	藻利 衣恵		
監事	岡田 知之	平井 裕久			

●編集担当

藻利 衣恵	塚越 秀之
石上 智博	青木加奈子

●編集・発行

高崎経済大学経済学会
高崎市上並榎町 1300 番地 〒 370-0801
TEL 027-344-6244
FAX 027-343-7103
E-mail k-gakkai@tcue.ac.jp

●制作・印刷

上武印刷株式会社

平成 28 年 3 月 31 日 発行

— 学びへのいざない —



高崎経済大学経済学会

← 047 →